

美里町復旧・復興計画

～誇れるふるさと・みんなで創る未来の美里～

〈計画期間〉

2025 年度(令和 7 年度)～ 2031 年度(令和 13 年度)

〔7 年間〕



令和 8 年 3 月

美里町

はじめに

令和7年8月6日から11日にかけて、前線が九州地方に停滞し、前線や前線上の低気圧に向かって、中国大陸や太平洋高気圧周辺から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったことで、熊本地方を中心に10日から11日かけて線状降水帯が繰り返し発生しました。



本町においても、令和7年8月10日から11日にかけて、猛烈な雨が降り、砥用観測局では11日の1時から2時までの1時間で143mm、10日の17時から11日の17時までの24時間で541mmを観測しました。この雨により、「記録的短時間大雨情報」が3回発表され、生活基盤となる簡易水道の断水や道路への被害、宅地内への土砂の流入など、多くの箇所で甚大な被害を受けました。改めて被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回の豪雨では、特に道路、橋梁、河川などのインフラ施設に甚大な被害が発生したほか、本町の基幹産業である農業などへも大きな影響を及ぼしました。

これらの災害からの1日も早い復旧・復興は全住民の願いであり、振興計画基本構想で掲げる本町の将来像の実現に向けて再出発・再挑戦するうえでも、最優先に取り組む必要があります。復旧・復興を願う住民が豊かな自然と恵みの中で暮らし続けることに「誇り」をもち、全住民が一致団結しながら苦難を乗り越えた先に、希望に満ちた「未来の美里」を実現することができるよう、スローガンには「誇れるふるさと・みんなで創る未来の美里」を掲げることとしました。

このスローガンのもと、行政、住民、関係者（関係団体）が一致団結して、早期の復旧・復興を実現することができるよう、本町の復旧・復興の道しるべとして、基本的な考え方を明らかにするとともに、取り組むべき主要施策や具体的な取組を体系的に定め、着実に推進していくために「美里町復旧・復興計画」を策定しました。

最後に、この計画の策定にあたりまして、熱心にご審議いただきました美里町振興計画及びまちづくり審議会委員の方々や貴重なご意見をいただきました多くの住民の皆様方に心から感謝申し上げます。

令和8年3月

美里町長

上 田 泰 弘

目次

第1章 豪雨災害の状況.....1	(2) 商工業の再生.....20
1. 令和7年8月豪雨災害概要.....1	(3) 観光産業・文化の復旧・復興.....20
2. 本町における豪雨の状況.....1	基本目標4 防災力の強化・災害への備え.....21
(1) 豪雨の概況.....1	1. 復旧・復興に向けての課題.....21
(2) 豪雨災害の経過.....2	2. 復旧・復興に向けての主要施策.....22
3. 本町における被災状況（令和7年12月26日現在）.....4	(1) 防災体制の強化・充実.....22
(1) 住民の被害状況など.....4	(2) 住民や地域における防災力の向上.....22
(2) 経済基盤等の被害状況.....4	第5章 復旧・復興の推進.....23
4. 被災者への支援状況（令和7年12月26日現在）.....5	1. 計画の推進体制.....23
第2章 計画策定について.....6	2. 持続可能な財政運営と整合する復旧・復興計画の推進.....23
1. 計画策定の趣旨.....6	3. 復旧・復興実施計画による計画的な推進.....23
2. 計画の位置づけ.....6	第6章 令和7年8月豪雨災害の初動対応に対する検証報告.....24
3. 計画期間の考え方.....7	1. 気象状況の振返.....24
第3章 復旧・復興方針について.....7	2. 事前の備えと急変した事態.....24
1. 復旧・復興の基本方針.....7	3. 初動対応と情報伝達の課題.....24
2. 計画の実現に向けた基本目標.....9	4. 被災自治体への広域支援.....25
3. 計画の施策体系.....10	5. 生活再建への道のり.....25
第4章 基本目標別の計画について.....11	6. 今後の対策と結び.....25
基本目標1 住まいと暮らしの生活再建.....11	資料編.....26
1. 復旧・復興に向けての課題.....11	1. 住民アンケート結果報告書.....27
2. 復旧・復興に向けての主要施策.....11	1 調査の概要.....27
(1) 緊急の住まい環境確保と生活再建.....11	(1) 調査目的.....27
(2) 生活・経済的支援の充実.....12	(2) 調査対象及び調査方法、回収結果.....27
(3) 生活再建に関する情報提供・相談体制.....14	2 本調査報告書の基本的な事項.....28
基本目標2 社会・公共基盤の整備.....15	3 回答者の属性.....29
1. 復旧・復興に向けての課題.....15	(1) 性別.....29
2. 復旧・復興に向けての主要施策.....15	(2) 年齢.....29
(1) 公共土木施設等の災害復旧.....15	(3) 世帯構成.....29
(2) 生活基盤の復旧・復興.....16	(4) 豪雨災害発生当時の居住地区.....30
(3) その他、公共施設の復旧・復興.....17	(5) 地区での役割.....30
基本目標3 地域産業・経済の復興.....18	1 住居や今後の住居について.....31
1. 復旧・復興に向けての課題.....18	(1) 豪雨災害発生当時の住居の種類.....31
2. 復旧・復興に向けての主要施策.....19	(2) 住居の被害の程度.....33
(1) 農林業の復旧・復興.....19	(3) 災害後住居が変わった・変わる予定の有無.....35
	(4) 災害後の住居の種類.....37
	(5) 居住地を移したい地域.....39

2	仕事について	42
(1)	豪雨災害前の職業	42
(2)	災害による仕事の変化について	44
(3)	業種（自営業、会社役員）	46
(4)	事業への被害状況・災害損失状況（自営業、会社役員）	49
(5)	被害・損失のあった事業の今後の意向	52
3	災害発生時の状況について	54
(1)	災害に関する情報源で最も利用したもの	54
(2)	災害発生時最も身の危険を感じた状況	56
(3)	8月10日から11日にかけての移動の状況	59
(4)	町全体として特に被害を受けたと感じたこと	61
(5)	災害発生時に一番ほしい情報	63
(6)	災害発生時・発生後特に困ったこと	65
(7)	豪雨災害の影響によりこれからの暮らしで不安なこと	67
4	復旧・復興に向けての施策について	70
(1)	特に重点的目標として取組むべきこと	70
(2)	町に期待していること	72
(3)	災害に強いまちづくりのため町に期待していること	75
2.	被災状況写真	77
3.	美里町振興計画及びまちづくり審議会委員名簿	82
4.	復旧・復興計画策定経過	83
5.	諮問	84
6.	答申	85

第1章 豪雨災害の状況

1. 令和7年8月豪雨災害概要

令和7年8月6日から11日にかけて、前線が九州地方に停滞し、前線や前線上の低気圧に向かって、中国大陸や太平洋高気圧周辺から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったことで、熊本地方を中心に10日から11日にかけて線状降水帯が繰り返し発生しました。県内では記録的な大雨となり、1時間雨量110ミリ以上の大雨を観測すると発表される「記録的短時間大雨情報」が15回も発表されました。

この大雨により熊本県内では、令和7年9月25日時点において、死者4名、行方不明者1名、重傷者3名、軽傷者22名、家屋の全壊・半壊が2,382棟、一部損壊が5,024棟、床上・床下浸水が1,681棟におよぶ甚大な被害を受け、県内11市町村に災害救助法が適用されました。

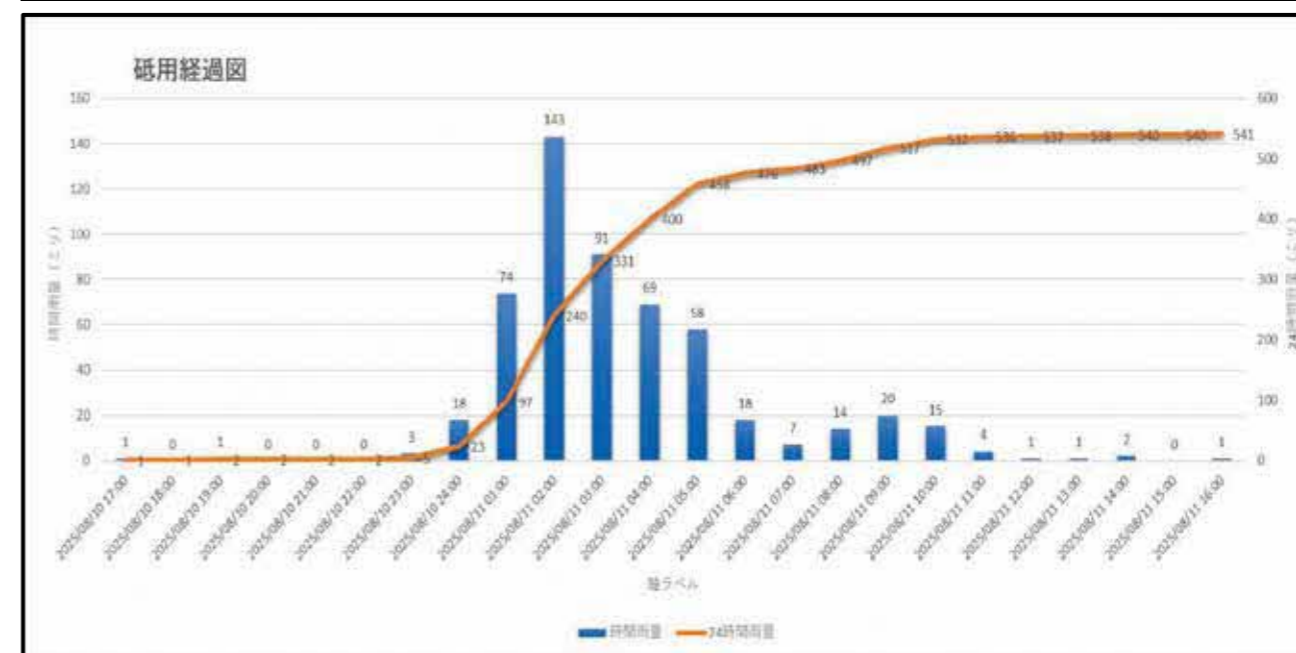
2. 本町における豪雨の状況

本町においても、令和7年8月10日から11日にかけて、猛烈な雨が降り、砥用観測局では11日の2時から3時までの1時間で降雨量143mmを観測しました。この大雨により、「記録的短時間大雨情報」が3回発表され、生活基盤となる簡易水道の断水や停電が発生しました。特に、道路、橋梁、河川への被害が多く、孤立集落が発生する等の被害を受けました。

また、家屋や宅地内への土砂流入や床上・床下への浸水被害を受ける等、町内全域において甚大な被害を受けました。

(1) 豪雨の概況

観測日	令和7年8月10日～11日
観測局	砥用
災害発生時の最大時間雨量	11日 1時～2時 143mm
日最大24時間降水量	10日 17時～11日 17時 541mm



(2) 豪雨災害の経過

8月10日 (16:20) 注意体制 総務課防災交通係参集
(17:00) 警戒体制 待機警戒1班体制 高齢者等避難発令 避難所4か所を開設
(21:25) 大雨警報〔発表〕
(22:09) 洪水警報〔発表〕

8月11日 (01:41) 記録的短時間大雨情報
(01:45) 避難指示発令
(01:55) 記録的短時間大雨情報
(01:55) 土砂災害警戒情報〔発表〕
(02:00) 災害対策本部設置 待機警戒2班体制+総務課職員参集
(02:40) 中甲橋観測局氾濫危険水位超過(消防団避難誘導活動)
(03:32) 記録的短時間大雨情報
(04:55) 緊急安全確保発令
(05:05) 美里町役場 全職員参集
(07:00) 災害救助法適用(法適用日:8月10日)
(14:20) 洪水注意報〔警報から注意報へ〕
(15:10) 土砂災害警戒情報解除
嘱託員(補)区長で各地区住民の安否確認
砥用東部地区簡易水道断水(~14日まで)

8月12日 (10:00) 避難指示発令〔緊急安全確保を解除〕
(11:19) 大雨注意報発令〔警報から注意報へ〕
(12:00) 避難所縮小(B&G海洋センターを閉鎖)
(13:30) 避難指示を解除(警報発令すべて解除)
孤立対象地区の嘱託員(補)区長で各地区住民の安否確認
(総務課)
民生委員・児童委員へ各地区住民の安否情報提供依頼
(福祉課)
給水車配備(洞岳・夏水地区、東部出張所、筒川荘の3か所)
(~13日まで)

8月13日 (10:00) 避難所縮小(中央庁舎を閉鎖)
(13:00) 中岳地区へ支援物資を配布(町職員)
罹災証明書申請受付開始(~11月末まで)
美里町災害ボランティアセンター開設(~11月14日まで)

8月14日 (17:00) 避難所縮小(砥用庁舎閉鎖し、湯の香苑のみ)
健康被害調査を実施
応急仮設住宅関係等の相談受付(福祉課)
公費解体の相談受付(住民生活課)

8月15日 砥用庁舎夜間の待機等を解除
広報みさと号外第1報発行

8月16日 (11:00) 安部地区2世帯へ避難指示発令

8月17日 町内孤立地区解消

8月18日 中岳地区再度の孤立状態
豪雨災害相談窓口を開設

8月19日 中岳地区孤立解消
家屋被害認定調査開始
災害土砂仮置き場開設(町内4か所)

8月20日 災害ゴミ(片付けゴミ)の受入開始(坂貫農山村広場)

8月22日 中央庁舎夜間の待機等を解除

8月28日 広報みさと号外第2報発行

9月6日 甲佐平地区1世帯へ避難指示発令

9月8日 建設型応急仮設住宅着工(中央庁舎仮設団地、くすのき平仮設団地)

9月10日 被災者生活再建支援法適用

9月11日 広報みさと号外第3報発行

9月22日 町内電話通信等復旧

10月1日 災害対策本部会議から復旧・復興会議への移行

10月16日 広報みさと号外第4報発行

10月31日 建設型応急仮設住宅鍵の引き渡し(中央庁舎仮設団地、くすのき平仮設団地)

11月1日 美里町地域支え合いセンター開設

11月30日 災害対策本部を廃止(復旧・復興会議は継続)
町内全避難所を閉鎖

3. 本町における被災状況（令和7年12月26日現在）

（1）住民の被害状況など

ア. 人的被害 (町総務課調べ)

豪雨災害	死者・行方不明者	重傷者	軽傷者
	0	1人	1人

イ. 家屋被害状況 (町総務課調べ)

区分	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	計
住家	11件	1件	9件	23件	8件	52件	104件
住家以外	41件	3件	8件	22件	16件	64件	154件

ウ. 孤立集落被害状況 (町総務課調べ)

地区名	世帯数	地区名	世帯数
中岳地区（甲佐平）	9世帯	貫平地区（川越）	4世帯
越早地区（大井早）	3世帯	山下地区（甲佐平）	1世帯
白岩地区（甲佐平）	1世帯	明無瀬地区（柏川）	1世帯

エ. 避難指示世帯 (町総務課調べ)

地区名	世帯数	地区名	世帯数
久立地区（安部）	2世帯	竹の原地区（甲佐平）	1世帯

（2）経済基盤等の被害状況

ア. 農業分野 (町農業政策課調べ)

種類	箇所数	被災内容
農地	水田 3,770箇所	陥没・段差・亀裂・法面崩壊
	畑 529箇所	
農業用施設	ため池 25箇所	陥没・段差・亀裂・法面崩壊
	水路 415箇所	
	揚水機 1箇所	
	農道 620箇所	
	橋梁 0箇所	

イ. 林業分野 (町森づくり推進課調べ)

区分	路線数	箇所数	被災内容
林道	11路線	111箇所	路面流出、法面崩壊、土砂堆積、路肩欠壊
作業道	1路線	1箇所	

ウ. 商工業分野

①建物 (町商工会調べ)

区分	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	計
店舗・工場等	2件	1件	0件	36件	39件

②その他被災状況 (町商工会調べ)

区分	車両	機器・什器・備品	商品・材料等	計
店舗・工場等	5件	43件	32件	80件

エ. 道路、河川、橋梁 (町建設課調べ)

区分	路線数	箇所数	被災内容
町道災害	140路線	622箇所	路面亀裂、法面崩壊、路肩欠壊等
河川災害	45河川	486箇所	護岸欠壊、土砂堆積、河床洗掘等
橋梁災害	7路線	7箇所	下鶴橋（高欄損傷）

オ. 生活基盤

区分	供給数	断水・停電戸数	断水・停電率
簡易水道断水（町上下水道課調べ）	1,913戸	676戸	35.3%
停電（九州電力調べ）	6,230戸	5,230戸	83.9%

4. 被災者への支援状況（令和7年12月26日現在）

ア. 仮設住宅（世帯） (町福祉課調べ)

区分	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	長期避難	計
計	4世帯	1世帯	1世帯	0世帯	1世帯	7世帯

イ. みなし仮設（世帯） (町福祉課調べ)

区分	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	長期避難	計
計	4世帯	0世帯	1世帯	1世帯	0世帯	6世帯

ウ. 応急修理申請数（棟） (町福祉課調べ)

区分	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	計
計	0棟	0棟	3棟	9棟	3棟	15棟

エ. 被災者生活再建支援申請数（世帯） (町福祉課調べ)

区分	全壊	半壊解体	敷地被害解体	長期避難	大規模半壊	中規模半壊	計
計	10世帯	0世帯	0世帯	0世帯	1世帯	0世帯	11世帯

オ. 損壊家屋解体申請数 (町住民生活課調べ)

区分	全壊	計
住家	10件	10件
住家以外	20件	20件
計	30件	30件

第2章 計画策定について

1. 計画策定の趣旨

令和7年8月豪雨災害では、1時間降雨量143mmの猛烈な大雨により、住居への床上・床下浸水や道路、河川、田畑の崩壊など、町内多数の場所で甚大な被害をもたらしました。

本町では、土砂災害警戒情報発令後に災害対策本部を設置し、初期対応として、避難所の開設・運営、住民の命を守るための避難の勧告、被害状況等の情報収集を行いました。その後、緊急的な生活支援、インフラの応急復旧等を実施しながら、被災者の生活支援やインフラの本格的な復旧へ移行することで、住民生活への影響を最小限に抑えるための措置を講じてまいりました。

今後は、本町において発生した被害や教訓を踏まえ、迅速な復旧と美里町の将来を見据えた復興に向け、住民と行政などの関係者が一致団結しながら、総力をあげて取り組まなければなりません。

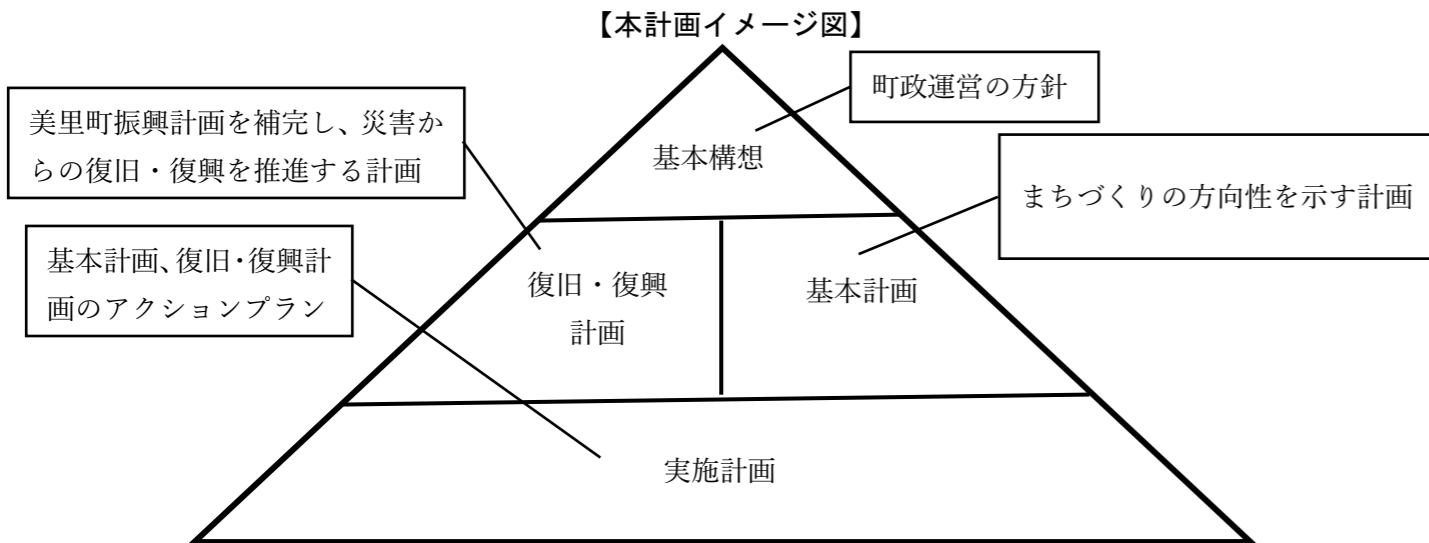
この「美里町復旧・復興計画」は、住民、行政及び関係者（関係団体）が共通認識をもち、早期の復旧・復興の実現に向けて取り組んでいくため、本町の復旧・復興への道しるべとして、基本的な考え方を明らかにするとともに、取り組むべき主要施策や具体的な取組を体系的に定め、着実に推進していくために策定するものです。

2. 計画の位置づけ

本町の最上位計画である美里町振興計画基本構想に定めるまちづくりの将来像は、豪雨災害からの復旧・復興の取組を進めるうえでも、目指す姿に変わりはありません。美里町振興計画を構成する美里町振興計画基本計画に位置づけた施策、実施事業は確実に遂行していく必要があります。

この「美里町復旧・復興計画」は、美里町振興計画を補完する計画として定め、美里町振興計画基本計画の一部として総合的に推進するものです。

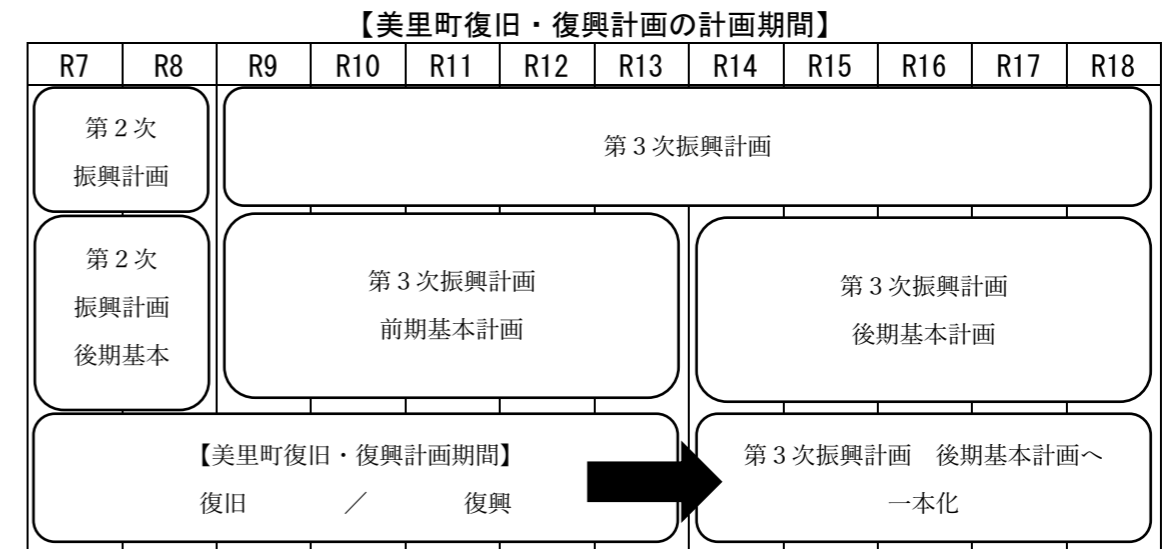
なお、本計画については、豪雨災害により被災したことに対して、復旧・復興を通じて本町のまちづくりをいち早く進めていくものであり、その他の災害全般における個別具体的な「防災・減災」への取組については、「美里町地域防災計画」で対応するものとします。



3. 計画期間の考え方

一日も早い復旧・復興を目指すとともに、美里町振興計画を補完する計画として位置づけることから、計画の対象期間は令和7年度から美里町第3次振興計画前期基本計画の最終年度にあたる令和13年度までの7年間とします。

ただし、復興には7年以上の長期的な視点で取り組むべき課題も多いため、令和14年度以降は「美里町第3次振興計画後期基本計画（令和14年度～令和18年度）」に盛り込み、継続して取り組んでいきます。



第3章 復旧・復興方針について

1. 復旧・復興の基本方針

本町では、平成28年3月に美里町第2次振興計画基本構想を策定し、「小さくてもキラリと光る私たちのまちーやさしさと対話のまちづくりー」を将来像に掲げ、これまでの期間、協働社会の確立を目指した新たなまちづくりを進めてまいりました。

そのような中、今回の豪雨災害により、町内全域において甚大な被害を受け、住民生活へ直接的に大きな影響を与えるとともに、第2次振興計画を推進するうえでの公共基盤や社会基盤へも多くの被害をもたらしました。

これらの災害からの一日も早い復旧・復興は全住民の願いでもあり、将来像の実現に向けて再出発するうえでも、最優先に取り組まなければならない課題でもあります。

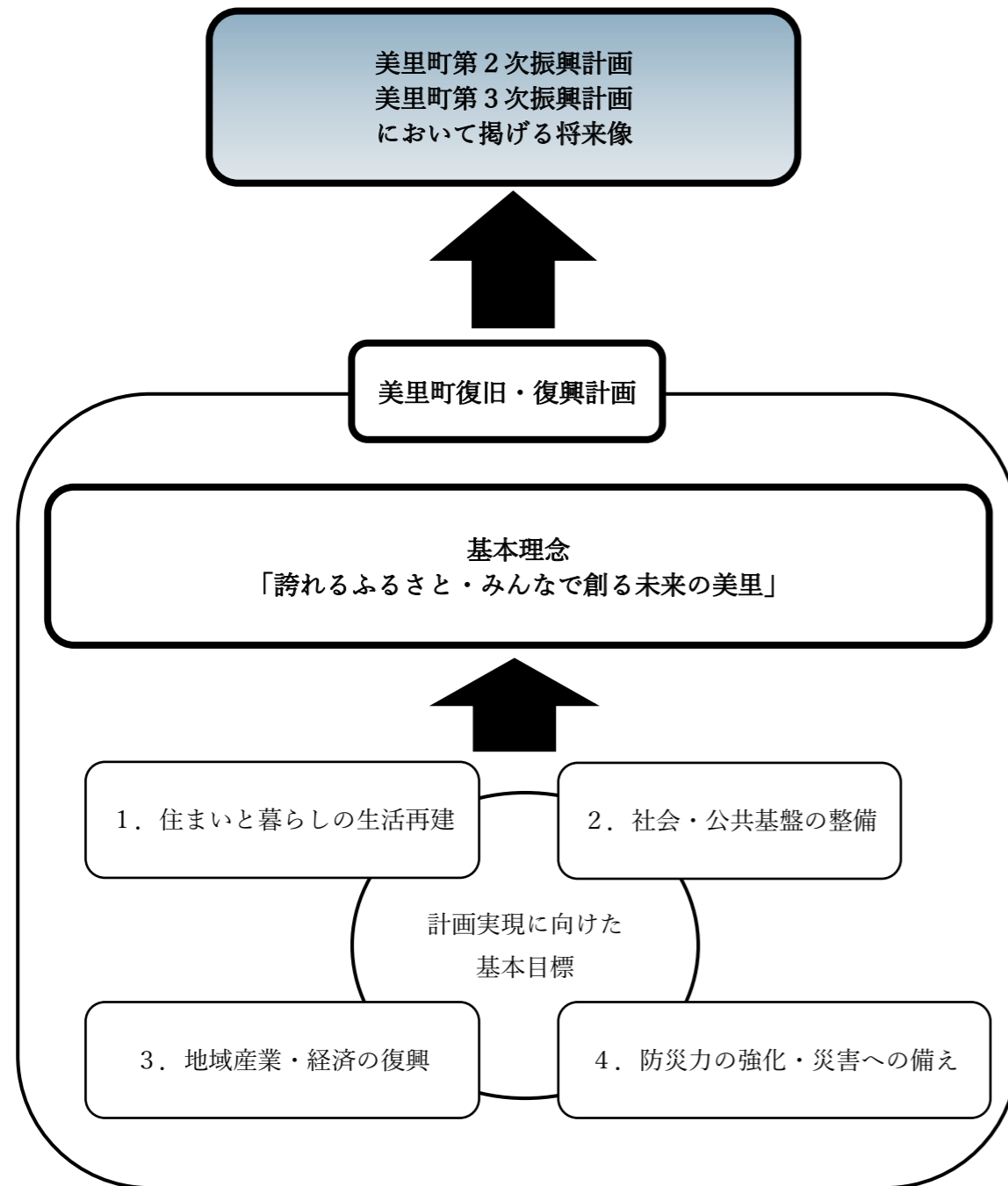
一刻も早く被災前の暮らしを取り戻すとともに、住み慣れた地域コミュニティの中で、すべての住民が「より安全」で「より安心」して暮らせる社会を形成するために、早期の復旧・復興を成し遂げ、美里町第2次振興計画基本構想及び第3次振興計画基本構想で掲げる将来像の実現に向け、再出発・再挑戦していく必要があります。

このような状況を踏まえ、本計画においては「誇れるふるさと・みんなで創る未来の美里」を復旧・復興の基本理念と定め、復旧・復興を願う住民が豊かな自然と恵みの中で暮らし続けることに「誇り」をもち、全住民が一致団結しながら苦難を乗り越えた先に、希望に満ちた「未来の美里」を創ることで、安心と希望をもって生活することができるよう、町に関わる全ての方々や関係者（関係団体）の力を集結して、この難局を乗り越えていくため、次の4つの基本目標を掲げます。

【計画実現に向けた基本目標】

- 基本目標1 住まいと暮らしの生活再建
- 基本目標2 社会・公共基盤の整備
- 基本目標3 地域産業・経済の復興
- 基本目標4 防災力の強化・災害への備え

【美里町復旧・復興計画の概念図】



2. 計画の実現に向けた基本目標

基本目標1 住まいと暮らしの再建

住民の生活支援の充実や経済的負担の軽減を図るなど、被災者が一日も早く被災前と同様の暮らしに戻れるよう、安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。

また、生活の基礎となる家屋内や宅地内への土砂流入や床上・床下浸水などの生活基盤の被害に対し、住み慣れた地域で生活再建を図るための支援策を講じるとともに、医療・福祉、心のケア等のソフト面での対応を行い、被災者一人ひとりに着目した支援を行います。

基本目標2 社会・公共基盤の整備

住民生活や産業活動の早期回復を図るため、町内多数の箇所では被害を受けた道路、橋梁等の生活道路の早期復旧や河川、護岸などの危険箇所の改善、生活基盤である水道配水管、浄化槽の早期復旧に努めます。

また、社会体育施設や社会教育施設、学校教育施設をはじめとする公共施設は、地域のコミュニティ維持などに重要な拠点となるため、被災した公共施設の早期復旧・復興に努め、安全で安心して利用することができるような環境の整備を進めます。

基本目標3 地域産業・経済の復興

本町の基幹産業である農林業の生産にあたる影響を最小限にするとともに、農林業経営の安定を図るため、被災した農地、水稲作付に関わる水路・農道、林道などの農林業用施設の早期復旧に努めます。

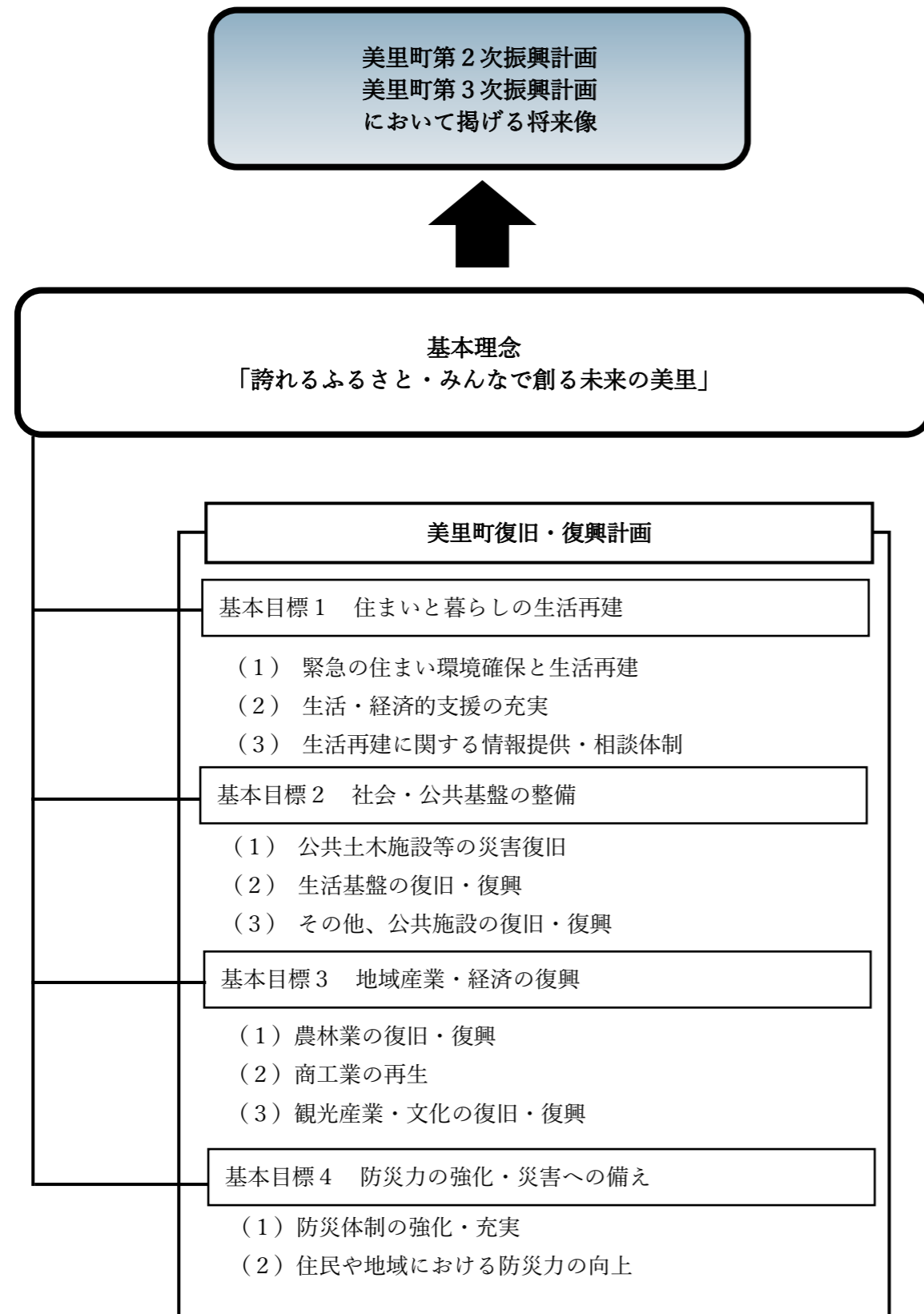
また、被災した地域商工業の事業者が再建に必要な資金調達負担軽減を図りながら、町内観光施設の危険箇所等は早期に復旧させ、地域事業者を支える「経営基盤強化」と交流人口・関係人口の拡大につながる「誘客に対する取組」を行い、魅力ある美里町の創出に努めます。

基本目標4 防災力の強化・災害への備え

今回の豪雨災害を教訓とし、災害発生時に重要となる情報通信・配信の多重化や地域内連絡体制の構築、消防団や自主防災組織との連携強化を図ります。また、国、県、町をはじめ、住民、地区、団体、企業などの多様な主体の参画のもと、自助・共助・公助の連携による協働のまちづくりの推進により、ハード対策のみならず、ソフト面における対策を組合せながら、防災力の強化を図り、災害への備えに努めます。

また、防災計画やハザードマップの見直しに関して、国や県の防災計画等を注視しながら、より適正に、よりスムーズな災害対応ができるように努めます。

3. 計画の施策体系



第4章 基本目標別の計画について

基本目標1 住まいと暮らしの生活再建

1. 復旧・復興に向けての課題

今回の豪雨災害により、住民生活に大小様々な影響が及んでいます。住民の生活にとって、住宅は最も重要な基礎的な生活基盤であるため、住まいとそこで営まれる暮らしの再建を支援することは喫緊の課題となっています。

特に、宅地内への土砂の流入は通常の生活に直接的に影響を与えることから早急に対応する必要がありますが、被災者個人での作業は難しく、ボランティア作業員も不足しているため、復旧が長期化する可能性もあり、二次災害への懸念や公衆衛生に支障をきたすことも考えられます。

住民アンケート調査結果では、住まいだった住居が受けた被害について、「被害なし」と回答された方が7割強を占めていますが、これからの暮らしにおいて不安に感じることに、「雨や地震などによる二次災害などが不安」や「住宅の地盤が安全なのか不安」、「住宅の修理や新築に要する金銭面が不安」、「住宅が安全なのか不安」といった、住まいに関することが上位を占めており、復旧・復興に向けての施策で特に重点目標として取り組むべきと思われるものでは「住まいと暮らしの生活再建」と回答された方が4割弱で1位となる等、住まいと暮らしの生活再建は最重要課題として取り組んでいかなければなりません。

また、豪雨災害の影響によりストレスを抱え体調を崩された方々の心身や健康回復のための対応も含め、災害前の安定した暮らしを早期に回復するため、生活全般にわたって被災者の生活再建を目指すことが課題となっています。

2. 復旧・復興に向けての主要施策

(1) 緊急の住まい環境確保と生活再建

ア. 基本的方向

家屋被害により居住が困難となった被災者に対し、一時的な居住の安定を図るため、緊急的な住宅を確保しながら、それ以外の被災者に対しても、被災前の安定した居住環境を早期に取り戻せるよう、被災住宅の応急修理事業や宅地被害復旧支援事業、宅地内の土砂撤去事業、災害廃棄物等の処理事業などの宅地の復旧に対する支援を行い、居住環境の再建を促進します。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
応急仮設住宅の供給	被災者の当面の住まいの確保のため、建設型応急住宅の整備や、賃貸型応急住宅の手続きを行うことで、被災者が安心して生活できる環境を整備※9戸整備済	町 県	R7~R8
宅地内の土砂撤去事業	宅地内に流入・堆積した土砂やがれきを迅速に撤去し、被災者の生活再建を支援	町	R7~R8

被災住宅の応急修理事業	災害救助法に基づき、被災住家の応急的な修理を行うことで、引き続き住み慣れた自宅で日常生活を営むことができる支援	町 県	R7~R8
宅地被害復旧支援事業	被災した宅地（住宅の敷地）の復旧にかかる費用を支援	町 県	R8~R9
災害廃棄物等の処理事業	被災した住宅等から発生した災害廃棄物について、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、仮置場を設置し、国・県・宇城広域連合・構成自治体及び熊本県産業資源循環協会と情報共有、連携しながら無料の受入	町 広域連合	R7
損壊家屋等の解体事業	災害により全壊の判定を受けた住家等について、生活環境の保全及び公衆衛生を保全するための公費解体	町	R7
応急仮設住宅維持管理事業	応急仮設住宅に入居する被災者が恒久的な住宅に移行するための間、適切な維持管理を行い、入居者の安心・安全な生活環境を提供	町	R7~R9

（２）生活・経済的支援の充実

ア. 基本的方向

豪雨災害発生時、直ちに日常生活を行うことが困難な方に対し、生活上必要な被服等を給付することや、被災者が安定的で自立した生活を営むことができるよう、町税等や公的負担金の減免により、経済的負担の軽減を図ります。また、関係機関と連携しながらボランティアの受入体制を整えることで、被災者の生活環境復旧を支援し、地域支え合いセンターによる見守りや相談等の支援を行います。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
被災者生活再建支援金事務	自然災害により、その生活基盤に著しい被害を受けた者に対し、被災者再建支援法に基づき申請受付を行い、生活の再建を支援	町	R7~R10
災害援護資金事務	負傷者又は住居等に被害を受けた者に対し、美里町災害弔慰金の支給等に関する条例に基づき申請受付を行い、生活の再建を支援	町	R7
被災者の生活支援事業	地域支え合いセンターによる見守りや相談等を行うことで、被災者の日常生活を支援	町 社会福祉 協議会	R7~R8

生活必需品の給与	直ちに日常生活を営むことが困難な者に対し、生活上必要な被服等を給与することで、生活の再建を支援	町	R7
ボランティアの受入	美里町社会福祉協議会と協働によりボランティアセンターを運営し、被災者の早期復旧のための支援体制整備	町 社会福祉 協議会	R7
介護保険料減免等事務	居住する家屋に一定以上の損害を受け、罹災証明書が発行された世帯の65歳以上の方に、損害の状況に応じて、介護保険料を減免	町	R7
介護保険利用料等の免除・軽減事務	居住する家屋が全壊・半壊若しくはこれに準ずる被災があったとき等の一定以上の被害を受けた場合に、介護サービス費等の特例給付の割合を全額免除	町	R7
住民税の減免措置	居住する家屋の被害程度に応じ、住民税の徴収猶予又は減免	町	R7
諸証明書の発行手数料減免	戸籍謄本、住民票、印鑑証明書等の発行手数料を減免	町	R7~R13
国民健康保険税減免等事務	居住する家屋の被害程度に応じ、納税義務者の国民健康保険税の減免	町	R7
後期高齢者医療保険料減免等事務	居住する家屋の被害状況に応じ、被保険者の後期高齢者医療保険料の減免	町 広域連合	R7
国民健康保険一部負担金免除・軽減事務	被災の状況に応じて、一部負担金の徴収猶予および免除	町	R7
後期高齢者医療一部負担金免除・軽減事務	被災の状況に応じて、後期高齢者医療の被保険者の一部負担金の徴収猶予および減免	町 広域連合	R7
国民年金保険料免除・減免事務	災害により損害を受けた国民年金第1号被保険者の国民年金保険料の免除	町 日本年金 機構	R7
固定資産税減免等事務	居住する家屋の被害状況に応じて、納税義務者の固定資産税の減免等	町	R7
被災家屋の評価額見直し	損害の程度に応じて、修理が完了するまでの間、固定資産税評価額の減額補正（損耗減点補正）	町	R7
水道使用料の減免	9月請求（8月使用料）について、「罹災証明書」の準半壊に至らない場合は、基本料金のみを請求とし、準半壊以上の場合は全額免除 「罹災届出証明書」の場合は、現地確認を行うことで、基本料金のみを請求が適正である場合は減免	町	R7

浄化槽使用料の減免	9月請求(8月使用料)について、「罹災証明書」の準半壊以上は、全額免除 「罹災届出証明書」の場合は、現地確認を行い個別に判断を行い減免	町	R7
学校用品等の支給	災害等により、滅失又はき損した報告があった場合、教科書は該当教科の現物を支給し、その他の学校用品等は災害救助法に基づき、限度額内で対象となる品目に係る費用の補助	町	R7

(3) 生活再建に関する情報提供・相談体制

ア. 基本的方向

豪雨災害に関連する各種支援制度に関する情報を適切に情報提供するとともに、関係機関等と連携しながら健康・心のケアや各種相談体制の充実を図り、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行います。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
被災者支援に関する広報	町内全戸に対して、豪雨災害に関連する支援制度等を広報誌の号外として発行し、必要な情報の提供 ライフビジョンやLINE、町ホームページ「豪雨災害関連の特設ページ」を通じて、各種お知らせを掲載	町	R7
健康相談・訪問事業	地域に出向き、訪問による健康相談、保健指導を行いながら、福祉課、地域包括支援センター等と連携した被災者の健康支援	町	R7
小中学生のこころの相談	熊本県が策定した「大規模災害発生時における学校再開と心のケアハンドブック」等を参考に、各学校において、災害発生後の学校運営や心のケアが必要な場合の対処方法を協議・確認を行い、児童生徒に対しては、心身の健康状態を振り返り把握していくとともに、カウンセリング等を通じて、一人ひとりに寄り添った支援や心のケアを実施	町	R7~R13
子育て、こども相談	心理士や保健師等の専門職による相談支援体制の確立に努めるとともに、LINEや電話相談窓口の拡充を図り、相談しやすい環境を整備	町	R7~R13

基本目標2 社会・公共基盤の整備

1. 復旧・復興に向けての課題

今回の豪雨災害により、道路、簡易水道施設、生活排水施設などの生活基盤や学校教育施設、社会教育施設、社会体育施設などの公共施設、指定文化財に大きな被害を受けました。

特に道路については、法面崩壊や路肩崩壊等により、国道・県道・町道等の主要生活道路において、概算被害額約74億円にのぼる甚大な被害が生じており、災害発生時については、町内を通る全ての国道及び県道において、通行不可能となったことで主要な町道においても通行止めが多数の箇所が発生しました。また、河川氾濫により護岸の崩壊や橋梁の崩落等の被害が発生し、河川及び橋梁の概算被害額約94億円にのぼる被害が生じています。

現在、全面通行止めは一部を除き解除されたものの、車両や人の通行に支障をきたしている箇所もあるため、一刻も早い復旧が望まれています。

住民アンケート調査結果でも、町全体として特に被害を受けたと感じたことについて、「道路・橋・河川への被害」と回答された方が8割強を占めており、豪雨災害発生時、発生後に特に困ったことについて「土砂災害等による通行不可」と回答された方が7割弱を占めております。また、各分野の施策の中で、あなたが町に期待していることについては「国道・県道などの主要道路の早期復旧」と回答された方が5割強、「集落道・集落間道路等生活道路の早期復旧」と回答された方が4割強を占めており、生活道路の早期復旧などのインフラ整備が求められています。

また、学校教育施設、社会教育施設、社会体育施設などの公共施設については、施設内の法面崩壊や浸水被害等が生じており、これらの公共施設は、こどもたちの健全育成に資する施設であるとともに、多くの住民がコミュニティの場として活用することから、安全で安心して利用することができる拠点として、早期復旧が求められています。

ただし、施設の復旧にあたっては、時代の変化を意識し、従来のように単に施設の更新を行うのではなく、将来を見据えた各施設の方向性を検討しながら進めていく必要があると考えます。

2. 復旧・復興に向けての主要施策

(1) 公共土木施設等の災害復旧

ア. 基本的方向

道路については、住民生活と経済活動に直結する施設であるため、国道や県道等の幹線と連結する主要な集落間道路や集落にとって最低限必要とされる生活道路から優先して復旧させ、全体的にも住民生活への影響が最小限となるような計画的な復旧を行います。また、過去に複数回、同様の被害が発生している道路においては、今回の復旧にあたり、再度の被害を受けることのないよう、可能な限り被災原因の除去を行いながら復旧工事を行います。

また、河川においては、農業と密接なつながりを有していることから、農繁期や農地等災害復旧事業との調整を密に行いながら早期復旧に努めていくとともに、橋梁については、優先的に工事発注を進めながら、長寿命化計画や点検結果に基づく補修及び補強を計画的に行います。さらに、山林が崩壊し、道路や住家にまで被害をもたらしていることから、県営治山事業等を活用しながら早期復旧に努め、道路の災害復旧の加速化や住環境の回復に資するよう取り組みます。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
治山自然災害復旧事業	豪雨災害により山林が崩壊し、道路や住家にまで被害をもたらしていることから、単県治山事業等を活用し計画的な復旧に努めるとともに、道路の生産基盤においても計画的な復旧に努め、道路の機能を強化	町 県	R7~R13
道路復旧事業	道路の生活基盤について、可能な限り被災原因の除去を図りながら、住民生活への影響が最小限となるよう、計画的な復旧を実施	町 県	R7~R11
河川復旧事業	護岸等が崩壊し、危険であるため、安全性の確保を優先した危険箇所の早期復旧の実施	町 県	R7~R12
橋梁復旧事業	被災した橋梁の早期復旧を行うとともに、長寿命化計画や点検結果に基づく補修及び補強の実施	町	R7~R9
急傾斜地対策事業	再度の被災リスク低減を図るとともに、県との調整を密に行った早期復旧の実現	町 県	R7~R9

(2) 生活基盤の復旧・復興

ア. 基本的方向

生活基盤である簡易水道については、道路の復旧工事に併せて布設替え工事を行い、復旧する管種を耐震適合性のある配管へ変更することで、再度の被害を受けることのないよう、改良を含めて計画的な復旧を行います。また、浄化槽内へ流入した土砂の撤去については、現地確認を踏まえ早急な撤去を行うとともに、修繕できず更新による浄化槽設置についても早急な着手に努めます。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
被災時給水対策等の充実	断水の発生した地域に対し、給水車等を活用しながら生活用水の供給を行うとともに、ペットボトルの飲料水を提供	町	R7
廃棄物処理施設復旧事業 (浄化槽等)	豪雨災害の影響により浄化槽内へ流入した土砂撤去を行うとともに消毒後に産業廃棄物として処分 修繕できない浄化槽については、早急に設置工事を実施	町	R7

簡易水道施設災害復旧事業	布設替え工事について、住民生活への影響が最小限となるよう、計画的な復旧に努めるとともに、耐震適合性のある配管への機能強化	町	R7~R8
--------------	--	---	-------

(3) その他、公共施設の復旧・復興

ア. 基本的方向

学校教育施設や社会教育施設、社会体育施設については、こどもたちの健全育成に資する施設であることや地域コミュニティの活動の場であるため、安全で安心して利用することができるよう、計画的な復旧を行います。また、被害を受けた文化財については、法令による文化財指定の有無や種別・被害状況に応じ、関係者と十分な調整を図り、専門家の意見を踏まえ、歴史的価値を損なわないよう適切な復旧・修復を行い、保護・保全に取り組みます。その他、自治公民館については、各地区のコミュニティの場として活用される重要な施設となっており、被災後活動が制限される等の問題が発生しているため、再建に係る各地区の事業経費の経済的負担軽減を図る支援を検討します。ただし、施設の復旧にあたっては、美里町公共施設等マネジメント計画に基づき、各施設のあり方の検討を進めます。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
学校教育施設災害復旧事業	勸徳小学校敷地内の5箇所で法面崩壊が発生し、登校坂や町道三本松千間線で通行止めの被害が発生 危険性が高い箇所や、被害拡大の恐れがある法面を優先し、計画的に災害復旧を実施	町	R7~R8
自治公民館再建支援事業	認可地縁団体等が事業主体として、建設した自治公民館の建替及び修繕等への支援を検討	町	R8~R13
社会教育施設災害復旧事業	文化交流センターについて、隣接する用水路から駐車場と暗渠排水管に土砂等が流入・堆積の被害が発生 施設内への浸水により1階コミュニティホール、ホワイエ、リハーサル室の床材が破損し文化ホール地下への浸水により、地下構造物と電気設備等へも被害が発生 教育・文化のまちづくりを推進するためにも、抜本的な防災機能の改良を検討するとともに、計画的かつ迅速な復旧を実施	町	R7~R8

社会体育施設復旧事業	カントリーパークについては、調整池上部法面の崩壊、施設内道路法面の崩壊2箇所、遊歩道法面の崩壊と4箇所で被害が発生 農山村広場については、グラウンド法面の崩壊が4箇所で被害が発生 法面等が崩壊し危険であるため、危険箇所の早期復旧を進め、安全性の確保を実施	町	R7~R8
文化財復旧事業	豪雨による河川の氾濫や土石流により、県指定重要文化財の二俣橋をはじめ、複数の石橋で被害が発生、内1基が流失 国史跡・堅志田城跡の遺構が崩落したほか、御堂の倒壊により仏像のき損等が発生 専門家や外部委員会等の意見や助言を踏まえながら、歴史的価値を損なわないよう、適切に計画的な復旧・修復を行い、保護・保全を実施	町	R8~R10

基本目標3 地域産業・経済の復興

1. 復旧・復興に向けての課題

今回の豪雨災害は町内の産業施設にも甚大な被害をもたらし、地域経済にも大きな影響を与えました。

特に、山間部の土砂崩れや河川の氾濫により、農業用施設においては、農道の路肩や法面の崩壊、路面の洗掘、土砂堆積、水路の閉塞や損壊・流出、ため池の堤体や洪水吐の損傷等の概算被害額50億円にのぼる甚大な被害が生じており、土砂崩れや河川の氾濫による土砂流入等が4,000箇所以上発生する等、農業基盤全体での概算被害額は109億円にもあがっています。これにより、農産物の生産に支障をきたしているため、一刻も早い復旧が望まれています。また、農業用機械や資材等にも被害が出ており、農業経営の再建支援が課題となっています。

林道等については、山腹崩壊や土石流の発生により、甚大な被害が生じており、災害発生時から林道中央砥用線他10路線で通行止めが発生しています。木材生産、間伐等の育林事業に支障をきたすとともに、一部の路線では緊急迂回路として活用されていることから早期復旧に取り組む必要があります。

商工業については、経営に不安を抱える事業者に対する支援が必要となっており、地域経済の安定には、中小企業や事業所等の一刻も早い回復が不可欠です。町の復興のためには、地域の商工業を従前の状況以上に活性化させ、賑わいを創出することが課題となっています。停滞した機運を払拭し、まちの活力を取り戻すため、賑わいの創出につながるイベント等を積極的に開催していく必要があります。

2. 復旧・復興に向けての主要施策

(1) 農林業の復旧・復興

ア. 基本的方向

農林業の再開に向け、農地及び農林業施設の災害復旧工事を計画的に行い、早期完了を目指すとともに、農業用機械や資材に対する支援や農業経営、林業経営の再建及び経営を維持していくための支援に取り組みます。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
農業用施設復旧事業	農業用施設（農道・水路・ため池・頭首工・揚水機場）について、農産物生産への影響が最小限となるよう計画的な復旧工事を実施	町 県	R7~R11
農地復旧事業	農地について、農産物の生産に支障をきたしているため、営農者の作付意向を考慮して、通年施工を含めた工程調整を行い、計画的な復旧工事を実施	町	R7~R13
畜産経営復旧緊急支援事業（被災家畜適正処理緊急支援）	豪雨により営農活動に甚大な被害が生じた畜産農家に対し、緊急的に死廃した家畜等の適正処理に対する支援を行うことで、被災した畜産農家の経営再建を支援	町	R7
大雨営農再開支援事業（農業用機械・施設等復旧）	被災した農業者の速やかな営農再開に向け、必要な農業用機械・施設等の原型復旧を支援	町	R7~R8
大雨営農再開支援事業（早期営農再開支援）	被災した農業者の速やかな営農再開に向け、必要な生産資材（種子、苗、肥料等の単年資材）の調達等を支援	町	R7
林道復旧事業（林業施設災害復旧事業）	林道等の林業施設については、豪雨災害により法面及び路肩の崩壊等が11路線45箇所発生し、甚大な被害が発生 木材生産、間伐等の育林事業に支障をきたすとともに、一部路線では緊急迂回路として活用されていることから、計画的な早期復旧を実施	町	R7~R8

(2) 商工業の再生

ア. 基本的方向

商工業の早期復旧のため、被災した事業者の資金調達に係る負担軽減、個店及び商店街の復興に対する支援、町内消費需要を喚起する取組への支援を行い、経営の安定化を図ります。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
中小企業資金利子助成事業	中小企業事業者の安定経営を支援するため、金融機関や商工会と連携し、事業再建にあたり必要な事業用融資について、利子補給等の支援を行い、復興と経営力強化を行うことで、円滑な資金繰り及び事業の拡大を促し、地域経済の復興を支援	町 商工会	R8～R13
商工振興事業	災害により落ち込んだ地域内消費を回復するため、商工会が実施するプレミアム付き商品券の発行を支援し、地域経済の活性化・商工業の振興を図りながら、住民の生活支援を実施	町 商工会	R7～R13
中小企業等への情報提供	国、県、町の各種支援制度（補助金、助成金、融資制度等）について、事業者には有益な情報を届けるため、商工会と密に連携し、個別相談会の定期的な開催や支援制度の情報を各種 SNS 等を活用し、事業者に寄り添ったプッシュ型の情報提供を実施	町 商工会	R7～R13

(3) 観光産業・文化の復旧・復興

ア. 基本的方向

関係機関と連携しながら観光復興イベントの開催を行うとともに、観光施設で被害を受けた危険箇所の早期復旧を行い、観光客が安全で安心して訪れることができる受入体制の整備に取り組み、本町の魅力や情報を県内外へ発信し、地域一丸となったイメージアップと積極的な観光復旧・復興の対策に取り組みます。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
観光施設の災害復旧事業	観光客の安全性を確保するため、被害を受けた観光施設の危険箇所等の早期復旧を実施	町	R7～R8

復興イベントの開催（観光関係）	例年開催の祭りやイベントで「復興祈念」というテーマを掲げ、特産品を通じた復興支援物産展コーナーを設け町内の農産物や加工品、工芸品等を販売し、売上の一部を復興資金に寄付する仕組みを導入することで、消費が直接支援につながることを PR した復興イベントの開催	町	R7～R9
観光の復旧・復興に関する情報提供	「復興」をテーマとした一貫性のあるストーリーで、町の魅力を町内外に発信するとともに、復興に向かう人々の力強い姿や変わらない美里町の美しい風景を発信することで、共感と応援の輪を広げることができるような情報発信	町	R7～R9

基本目標 4 防災力の強化・災害への備え

1. 復旧・復興に向けての課題

今までに経験のない豪雨災害は、避難所までの経路安全確保、災害時情報の伝達手段確保など、様々な場面において、防災体制や災害への備えに大きな教訓を残しました。

住民アンケート調査結果によると、災害発生時最も身の危険を感じた状況について、「自宅にいる時」と回答した方が3割強を占めておりますが、8月10日から11日にかけての移動の状況については「豪雨災害発生前の場所から移動をしていない」と回答された方が4割強を占めている状況でした。また、災害に強いまちづくりのために、あなたが町に期待していることについては「災害に強いインフラの形成」と回答された方が6割強、「山間部などの地理的に危険な地域の改善」が4割弱、次いで「災害時の要支援者の支援体制づくり」と回答された方が2割強を占めている中で、災害時発生時に一番欲しい情報については「道路状況」と回答された方が7割強を占めており、災害時情報の伝達手段を確立し、避難が必要な時は安全に避難所まで向かうことができる経路を事前に把握しておく必要があると考えます。

また、今後の災害に強いまちづくりを進めるにあたっては、消防団や自主防災組織等の地域コミュニティ活動の重要性が発揮され、災害からの被害を最小限に抑えるため、行政をはじめ、それぞれが主体的に災害への対応力を高め、協働のまちづくりを実践することが大切であることも再認識されました。

今後は、今回の豪雨災害の経験、教訓を生かし、防災力の強化を図るため、防災計画の見直しやハザードマップの見直し、災害時の地域連絡体制の充実を行い、日頃から災害に強い、そして災害発生時も十分な対応が可能な防災機能と防災基盤の整備に努める必要があります。

2. 復旧・復興に向けての主要施策

(1) 防災体制の強化・充実

ア. 基本的方向

豪雨災害の十分な検証を行ったうえで、防災計画の見直しを行い、防災体制の強化を図ります。また、災害時の人的被害を未然に防ぎ、被害を最小限に止めるため、十分な検証を踏まえ、ハザードマップの見直しを行い、災害発生時の対応力の強化を図ります。

さらに、豪雨災害の教訓が将来の世代まで受け継がれるよう、復旧・復興のプロセス等を記録保存し、住民の防災への意識を醸成します。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
防災計画の見直し	今回の豪雨災害を教訓とし、十分な検証を踏まえ、災害予防・災害応急対策がより充実、強化されるよう、国・県の防災計画と調整を図りながら見直しを実施	町	R7~R8
ハザードマップの見直し	災害時における人的被害を未然に防ぐため、豪雨災害での影響を踏まえ、県の検証を注視しながら見直しを実施	町	R7~R9
豪雨災害記録の作成	豪雨災害に関連する資料を収集し、豪雨災害発生時から豪雨災害後までの経過記録等を作成したものを周知することで、地域住民の防災に対する意識を醸成し、防災力の向上に努めるとともに、豪雨災害の経験を後世に伝承	町	R7

(2) 住民や地域における防災力の向上

ア. 基本的方向

防災訓練や研修会等、様々な機会をとらえた普及啓発の取組を行い、災害から自分の身を守るための知識の習得や、家庭での備えが促進されるような取組を行います。また、災害発生時における地域の支援体制の構築を進めるため、各地域における自主防災組織の結成推進、組織育成のための支援を行い、地域の主体的な支え合い活動を促進します。

イ. 主要な事業

事業名	概要	実施主体	事業期間
災害時の地域連絡体制の充実	行政、嘱託員、民生委員・児童委員、地域住民が連携し、災害発生時の状況把握や初期対応が迅速に行うことができるよう体制の充実	町	R7~R13

消防団・自主防災組織の機能強化	災害発生時・発生後の初動体制や緊急時の迅速な対応を行うため消防団や地域の自主防災組織の組織強化と育成を図るとともに、自主防災組織の未設置地域への結成支援や避難支援等の訓練を定期的実施	町	R7~R13
-----------------	---	---	--------

第5章 復旧・復興の推進

豪雨災害からの一日も早い復旧・復興を目指し、町に関わるすべての方々や関係者（関係団体）、行政の協働による取組を推進するとともに、必要な財源の確保を図ります。

1. 計画の推進体制

本計画を効率的・効果的に進めていくために、庁内において、町長、副町長、教育長、管理職を中心として情報共有を行い、その情報をさらにすべての職員が共有することで復旧・復興に向けて全力で取り組むことができる体制づくりを進めます。

また、本計画の基本理念である「誇れるふるさと・みんなで創る未来の美里」のもと、議会に協力を仰ぎ、住民や町に関わるすべての方や関係者（関係団体）にも可能な限り協力・参画してもらうことで、早期の復旧・復興を実現させます。

2. 持続可能な財政運営と整合する復旧・復興計画の推進

本計画に掲げた施策について、国・県の支援動向を踏まえた財政規模等を見極め、各事業実施による財政への影響を適切に把握・管理しながら、財政面での展望を見据えた実効性のある計画推進を図ります。

また、国・県に対し財政支援を求めながら、事務事業の総合的な見直し、歳出削減、歳入増加につながる行財政の運営、債権管理を徹底し、復旧・復興に要する財源の確保に努め、持続可能な財政運営と整合する復旧・復興計画の推進を図ります。

3. 復旧・復興実施計画による計画的な推進

本計画の基本目標を着実に実現していくため、復旧・復興計画のアクションプログラムとなる実施計画の中で、復興に向けて取り組むべき具体的な事業やスケジュール等を明らかにし、計画的に推進するとともに、計画の実行性を確保するため、毎年度の進捗管理に取り組みます。

また、計画期間内において、国・県による支援制度の拡充や新設、社会情勢や事業の進捗などの状況変化があった場合には、柔軟に対応しながら本計画を推進します。

第6章 令和7年8月豪雨災害の初動対応に対する検証報告

1. 気象状況の振返

はじめに、当時の気象状況について報告します。8月6日から11日にかけて前線が九州付近に停滞し、断続的な大雨をもたらしました。特に8月10日、前線の南下に伴い、翌11日にかけて県内で線状降水帯が発生しました。美里町を含む近隣7市町では「記録的短時間大雨情報」が計15回発表されるなど、未曾有の豪雨となりました。本町において、県設置の砥用観測局では、11日未明の1時から2時にかけて、わずか1時間で143mm、降り始めからの12時間で531mmという猛烈な雨量を記録しました。

また、町内を流れる一級河川緑川では、11日2時50分、避難指示の目安となる「氾濫危険情報（警戒レベル4相当）」が発表される事態となりました。

2. 事前の備えと急変した事態

記録的な豪雨に対する発災前の体制と情報共有についての検証です。町では、所定の防災体制を構築していましたが、事態は想定をはるかに超える速度で悪化しました。主な要因は、線状降水帯の発生により、雨量が事前の予測値を大幅に上回ったことにあります。

緑川ダムのデータによれば、10日17時から23時までの6時間雨量は累計14ミリにとどまっていた。しかし、日付が変わる24時頃から猛烈な雨が降り始め、深夜帯に危険度が急上昇しました。砥用観測局での「時間雨量143mm」や中甲橋の水位急上昇が示す通り、状況は極めて短時間で急変したことで、警戒レベル3であった17時から、レベル4に至る翌1時45分までの間、気象庁の予測を注視し状況確認を続けていましたが、警報級の事象が短時間で連続する緊急事態となりました。

3. 初動対応と情報伝達の課題

想定を超える事態における避難情報の発令と伝達体制について検証します。

【初動対応（情報伝達）について】

気象庁の情報を受け、防災行政無線等を通じて、気象状況の変化に応じた避難の呼びかけを適時行いました。また、直ちに災害対策本部を設置し、全職員の参集をかけたが、道路交通網の寸断などにより、登庁が困難な職員も発生しました。また、消防団へは、8月11日6時47分に準備・待機を依頼し、翌12日夜には被災者への声掛け、その後19日には資機材の被災確認などを指示し、活動を展開しました。

【課題について】

激しい雨音により、「防災行政無線が聞こえづらい」という課題が浮き彫りになりました。この教訓を活かし、今後は伝達手段の多重化と機能強化を進めてまいります。

【避難行動と「自助・共助」について】

情報伝達に課題が残る一方で、地域での助け合いが命を救った局面もありました。岩下地区では、消防団や自主防災組織の主導により35名の方が速やかに避難されました。地域での「声掛け」という「自助・共助」が功を奏し、難を逃れた事例です。

【課題について】

暗闇の中での移動は大きな危険を伴うため、夜間の避難情報発令には高度な判断を要しました。

今回は、緑川ダムの洪水予報や気象台情報を踏まえ、土砂災害警戒情報の発表前に「避難指示」を発令しました。その後、状況の悪化に伴い、直ちに自宅での垂直避難等を促す「緊急安全確保」へと切り替えました。今後は、避難指示のタイミングを再検証するとともに、早めの行動を促す「予防的避難」の重要性について検討を深めていくことで、地域内での「自助・共助」の活動が安全に実施することができるよう努めてまいります。

4. 被災自治体への広域支援

住民への生活支援と並行して行われた、行政への人的支援について報告します。

発災直後より業務が逼迫する中、多くの自治体や関係機関から応援職員の派遣や物資の支援をいただきました。これにより、迅速な救助活動やその後の復旧体制を維持することができました。皆様の多大なるご支援に、深く感謝申し上げます。

5. 生活再建への道のり

避難生活の支援と同時に、一日も早い日常を取り戻すための取り組みも開始しました。発災後、速やかに罹災証明の申請受付、災害ゴミ仮置き場の開設、宅地等の土砂撤去作業、ブルーシート・土嚢袋・石灰の配布、健康被害調査などに着手しました。また、社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアセンターを早期に開設いたしました。これにより、多くのボランティアの方々を受け入れ、家屋の泥出しや片付けなど、被災者の生活再建に直結する人的支援を迅速に届けることが可能となりました。今後は美里町復旧・復興計画に掲げる施策を着実に推進することで、一日も早い生活再建に向けた支援に全力を尽くしてまいります。

6. 今後の対策と結び

災害はいつ、どこで、どのような形で起こるか分かりません。今回のように深夜に発生し、避難行動そのものが命の危険にさらされる場合もあります。このような状況下では、常に防災意識を持ち、正確な情報を入手して直ちに行動に移すことが重要です。

美里町は、平成19年、平成28年、そして今回の豪雨災害と、約9年ごとに激甚災害指定を受ける規模の災害に見舞われてきました。この周期的な被災経験を教訓とし、より強固で実践的な防災システムへと進化させてまいります。

令和8年3月 美里町復旧・復興会議（美里町災害対策本部）

1. 住民アンケート結果報告書

調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

令和7年8月豪雨災害により、美里町は甚大な被害を受けました。本調査は豪雨災害からの復旧・復興の道しるべとなる「美里町復旧・復興計画」を策定するとともに、町民の意見を将来のまちづくりの参考とするため、アンケート調査を実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	18歳以上の美里町内在住者
配布数	800票（内4票：宛所不明により返送）
調査方法	調査票郵送ならびにWEB調査
調査時期	令和7年10～11月
調査地区	美里町内全域
有効回収数	357票
回収率	44.8%（357票/796票）

2 本調査報告書の基本的な事項

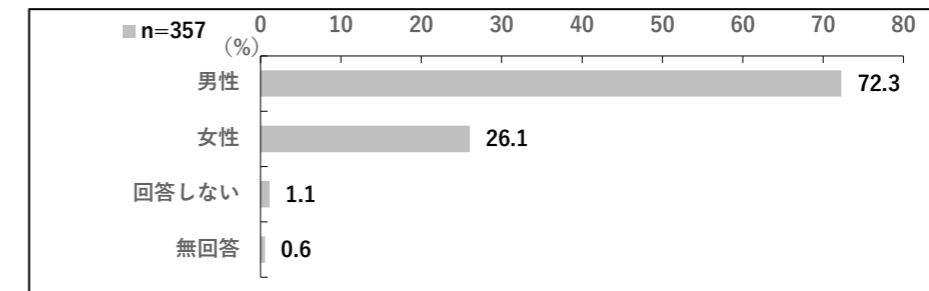
数値の基本的な取り扱いについて

- ① 本調査の調査対象者
 - 【1】 8月豪雨災害による家屋被害が一部損壊以上の居住者罹災者世帯（94世帯）
 - 【2】 美里町嘱託員・嘱託補の世帯（84世帯）
 - 【3】 無作為抽出の世帯（622世帯）
- ② 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ③ 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。また、図表中の「n」は、集計対象者の総数（回答限定設問の場合は限定条件に該当する対象者）となります。
- ④ 回答者が複数の項目を回答できる設問については、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。
- ⑤ 多くの設問についてクロス集計表を掲載しておりますが、統計的有意性がやや低いため、あくまで参考データです。

3 回答者の属性

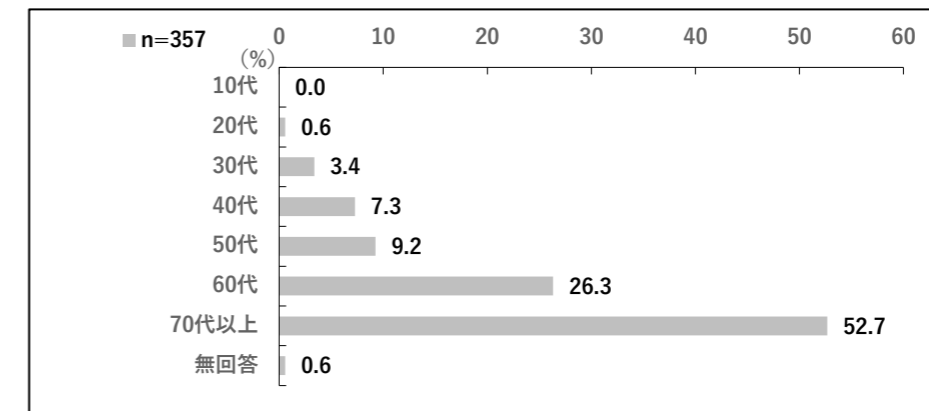
（1）性別

回答者の性別は、「男性」（72.3%）、「女性」（26.1%）となっています。



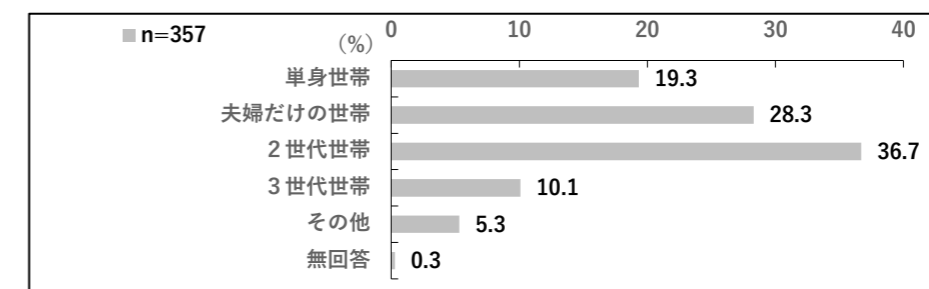
（2）年齢

回答者の年齢は、「70代以上」（52.7%）が最も多く、「60歳代」（26.3%）がそれに続きます。



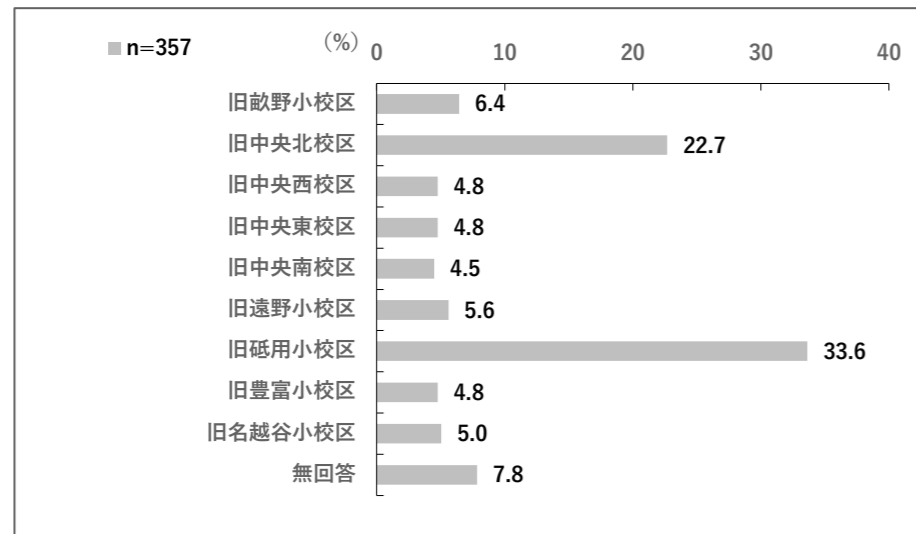
（3）世帯構成

回答者の世帯構成は、「2世代世帯」（36.7%）が最も多く、「夫婦だけの世帯」（28.3%）がそれに続きます。



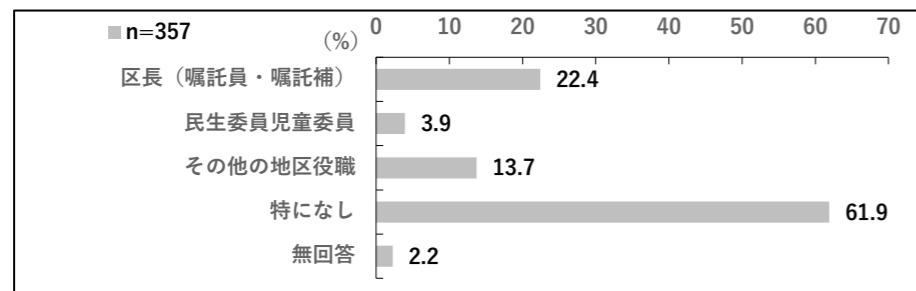
(4) 豪雨災害発生当時の居住地区

豪雨災害発生当時の居住地区は、「旧砥用小校区」(33.6%)が最も多く、「旧中央北校区」(22.7%)がそれに続きます。



(5) 地区での役割

地区での役割は、「特になし」(61.9%)が最も多く、「区長(嘱託員・嘱託補)」(22.4%)がそれに続きます。



調査結果

1 住居や今後の住居について

(1) 豪雨災害発生当時の住居の種類

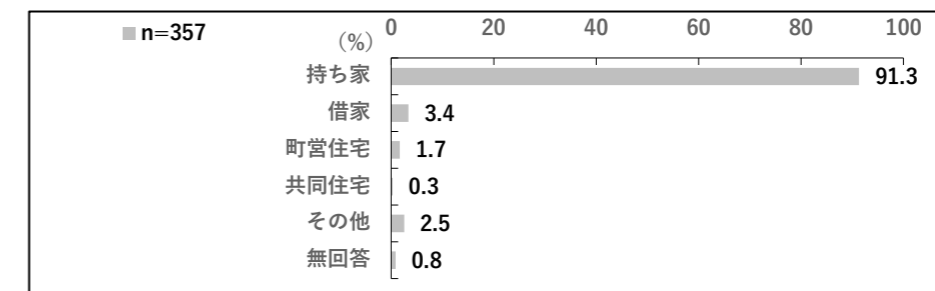
問6 豪雨災害発生当時にお住まいの住居の種類は、次のどれに当てはまりますか。(1つに○)

▼結果要点

- 「持ち家」は9割強となっている。

豪雨災害発生当時の住居の種類をたずねたところ、「持ち家」(91.3%)が最も多く、回答の9割強を占めています。

図表1 豪雨災害発生当時の住居の種類



図表2 豪雨災害発生当時の住居の種類（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

		合計	問6 豪雨災害発生当時の住居の種類					無回答
			持ち家	借家	共同住宅	町営住宅	その他	
全体		357 100.0	326 91.3	12 3.4	1 0.3	6 1.7	9 2.5	3 0.8
問1 性別	男性	258 100.0	241 93.4	8 3.1	0 0.0	3 1.2	5 1.9	1 0.4
	女性	93 100.0	81 87.1	4 4.3	0 0.0	3 3.2	4 4.3	1 1.1
	回答しない	4 100.0	3 75.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
問2 年齢 (10-30代統 合)	10-30代	14 100.0	11 78.6	1 7.1	1 7.1	0 0.0	1 7.1	0 0.0
	40代	26 100.0	23 88.5	2 7.7	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0
	50代	33 100.0	25 75.8	2 6.1	0 0.0	2 6.1	4 12.1	0 0.0
	60代	94 100.0	87 92.6	1 1.1	0 0.0	2 2.1	3 3.2	1 1.1
	70代以上	188 100.0	178 94.7	6 3.2	0 0.0	1 0.5	1 0.5	2 1.1
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	60 87.0	3 4.3	1 1.4	1 1.4	4 5.8	0 0.0
	夫婦だけの世帯	101 100.0	95 94.1	4 4.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	0 0.0
	2世代世帯	131 100.0	124 94.7	4 3.1	0 0.0	3 2.3	0 0.0	0 0.0
	3世代世帯	36 100.0	34 94.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.6
	その他	19 100.0	12 63.2	1 5.3	0 0.0	0 0.0	5 26.3	1 5.3
問4 豪雨災害 発生当時の居 住地区	旧畝野小校区	23 100.0	21 91.3	1 4.3	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0
	旧中央北校区	81 100.0	73 90.1	5 6.2	1 1.2	1 1.2	0 0.0	1 1.2
	旧中央西校区	17 100.0	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	旧中央東校区	17 100.0	15 88.2	0 0.0	0 0.0	1 5.9	1 5.9	0 0.0
	旧中央南校区	16 100.0	16 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	旧遠野小校区	20 100.0	20 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	旧砥用小校区	120 100.0	107 89.2	4 3.3	0 0.0	2 1.7	7 5.8	0 0.0
	旧豊富小校区	17 100.0	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	旧名越谷小校区	18 100.0	17 94.4	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(2) 住居の被害の程度

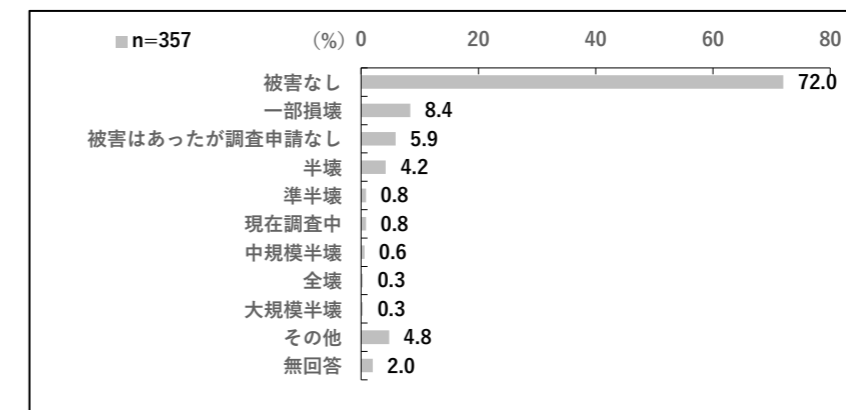
問7 豪雨災害が原因で、豪雨災害発生当時にお住まいだった住居が受けた被害の程度は、次のどれに当てはまりますか。(1つに○)

▼結果要点

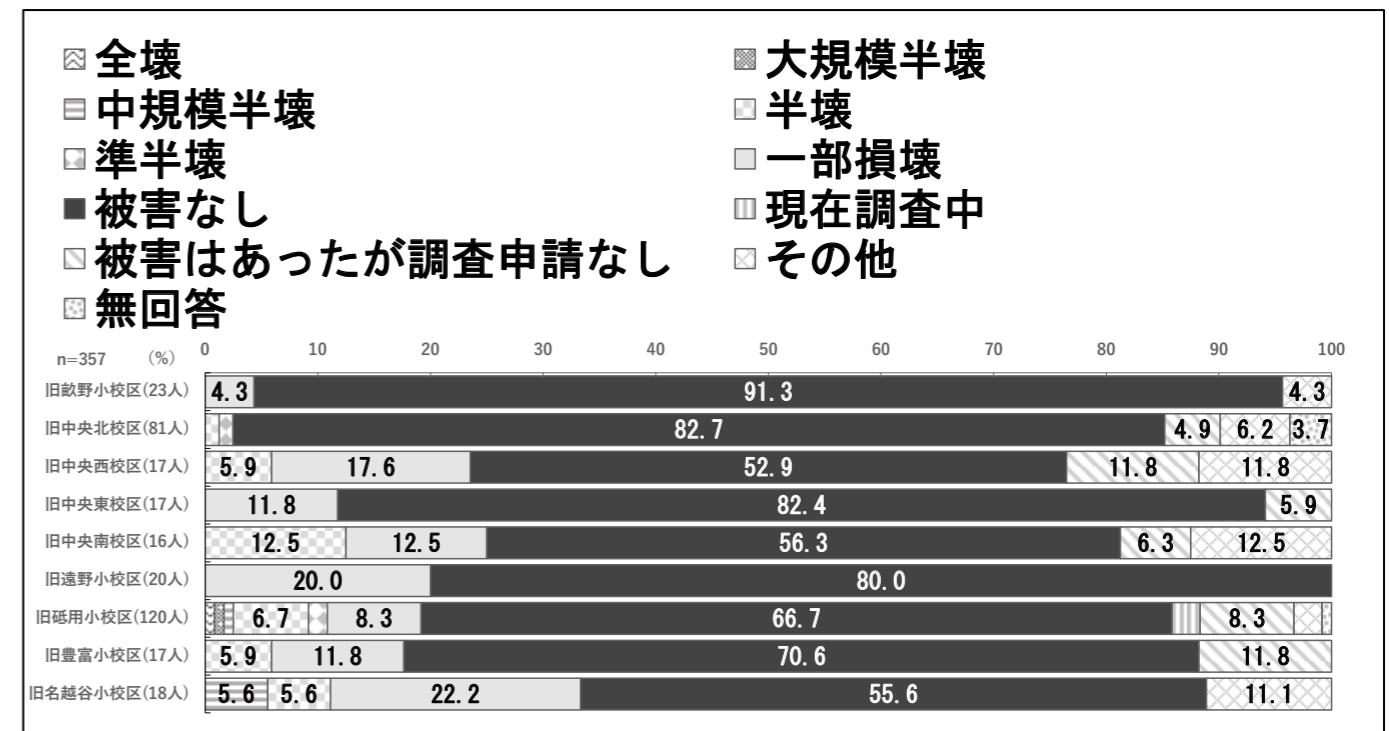
- 「被害なし」が7割強を占めている。

住居の被害の程度については、「被害なし」(72.0%)が最も多く、次いで「一部損壊」(8.4%)、の順となっています。また、旧小学校校区別にみると「旧砥用小校区」(23名)での被害が最も多く、次いで「旧名越谷小校区」(6名)の順となっております。

図表3 住居の被害の程度



図表4 住居の被害の程度（クロス集計：豪雨災害発生当時の居住地区）



図表5 住居の被害の程度（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問7 住居の被害の程度											
		全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	被害なし	現在調査中	被害はあったが調査申請なし	その他	無回答	
全体	357 100.0	1 0.3	1 0.3	2 0.6	15 4.2	3 0.8	30 8.4	257 72.0	3 0.8	21 5.9	17 4.8	7 2.0	
問1 性別	男性	258 100.0	1 0.4	1 0.4	1 0.4	11 4.3	2 0.8	23 8.9	189 73.3	2 0.8	14 5.4	11 4.3	3 1.2
	女性	93 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 4.3	1 1.1	7 7.5	65 69.9	1 1.1	7 7.5	5 5.4	3 3.2
	回答しない	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3	12 85.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40代	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	1 3.8	0 0.0	20 76.9	0 0.0	1 3.8	3 11.5	0 0.0
	50代	33 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 9.1	0 0.0	3 9.1	24 72.7	2 6.1	1 3.0	0 0.0	0 0.0
	60代	94 100.0	0 0.0	1 1.1	1 1.1	5 5.3	0 0.0	8 8.5	74 78.7	0 0.0	3 3.2	2 2.1	0 0.0
	70代以上	188 100.0	1 0.5	0 0.0	1 0.5	6 3.2	2 1.1	17 9.0	125 66.5	1 0.5	16 8.5	12 6.4	7 3.7
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 7.2	0 0.0	6 8.7	46 66.7	0 0.0	8 11.6	1 1.4	3 4.3
	夫婦だけの世帯	101 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	3 3.0	1 1.0	9 8.9	76 75.2	0 0.0	5 5.0	4 4.0	2 2.0
	2世代世帯	131 100.0	1 0.8	1 0.8	1 0.8	1 0.8	2 1.5	12 9.2	101 77.1	0 0.0	5 3.8	7 5.3	0 0.0
	3世代世帯	36 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 16.7	0 0.0	1 2.8	21 58.3	0 0.0	3 8.3	4 11.1	1 2.8
	その他	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	13 68.4	3 15.8	0 0.0	1 5.3	1 5.3
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畷野小校区	23 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	21 91.3	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0
	旧中央北校区	81 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.2	1 1.2	0 0.0	67 82.7	0 0.0	4 4.9	5 6.2	3 3.7
	旧中央西校区	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	3 17.6	9 52.9	0 0.0	2 11.8	2 11.8	0 0.0
	旧中央東校区	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	14 82.4	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0
	旧中央南校区	16 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 12.5	0 0.0	2 12.5	9 56.3	0 0.0	1 6.3	2 12.5	0 0.0
	旧遠野小校区	20 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 20.0	16 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	旧砥用小校区	120 100.0	1 0.8	1 0.8	1 0.8	8 6.7	2 1.7	10 8.3	80 66.7	3 2.5	10 8.3	3 2.5	1 0.8
	旧豊富小校区	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	2 11.8	12 70.6	0 0.0	2 11.8	0 0.0	0 0.0
	旧名越谷小校区	18 100.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	1 5.6	0 0.0	4 22.2	10 55.6	0 0.0	0 0.0	2 11.1	0 0.0

(3) 災害後住居が変わった・変わる予定の有無

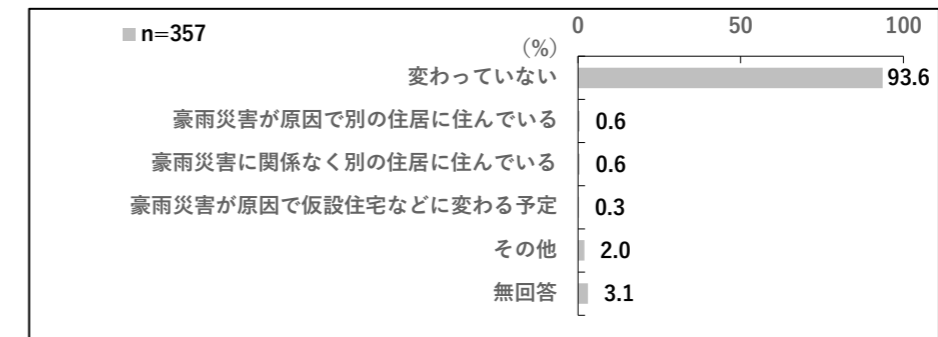
問8 豪雨災害後にお住まいの住居は変わりましたか。または、変わる予定ですか。（1つに○）

▼結果要点

- 「変わっていない」が9割強を占めている。

災害後住居が変わった・変わる予定の有無については、「変わっていない」（93.6%）が最も多く、回答者の9割強を占めています。

図表6 災害後住居が変わった・変わる予定の有無



図表7 災害後住居が変わった・変わる予定の有無（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

		合計	問8 災害後住居が変わった・変わる予定の有無					無回答	
			変わっていない	豪雨災害が原因で仮設住宅などになる予定	豪雨災害が原因で別の住居に住んでいる	豪雨災害に関係なく別の住居に住んでいる	その他		
全体		357 100.0	334 93.6	1 0.3	2 0.6	2 0.6	7 2.0	11 3.1	
問1 性別	男性	258 100.0	242 93.8	1 0.4	2 0.8	1 0.4	4 1.6	8 3.1	
	女性	93 100.0	87 93.5	0 0.0	0 0.0	1 1.1	3 3.2	2 2.2	
	回答しない	4 100.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	40代	26 100.0	25 96.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	0 0.0	
	50代	33 100.0	31 93.9	0 0.0	1 3.0	1 3.0	0 0.0	0 0.0	
	60代	94 100.0	93 98.9	1 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	70代以上	188 100.0	169 89.9	0 0.0	1 0.5	1 0.5	6 3.2	11 5.9	
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	65 94.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.9	2 2.9	
	夫婦だけの世帯	101 100.0	96 95.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4 4.0	
	2世代世帯	131 100.0	124 94.7	1 0.8	1 0.8	2 1.5	3 2.3	0 0.0	
	3世代世帯	36 100.0	33 91.7	0 0.0	1 2.8	0 0.0	0 0.0	2 5.6	
	その他	19 100.0	15 78.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	3 15.8	
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	23 100.0	23 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		旧中央北校区	81 100.0	78 96.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.5	1 1.2
旧中央西校区		17 100.0	16 94.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	
旧中央東校区		17 100.0	15 88.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	1 5.9	
旧中央南校区		16 100.0	16 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
旧遠野小校区		20 100.0	17 85.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	1 5.0	
旧砥用小校区		120 100.0	114 95.0	1 0.8	1 0.8	1 0.8	2 1.7	1 0.8	
旧豊富小校区		17 100.0	16 94.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	
旧名越谷小校区		18 100.0	17 94.4	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	

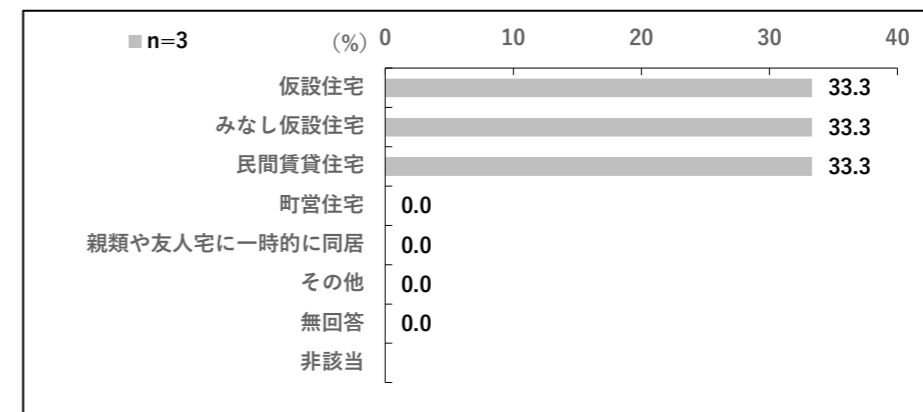
(4) 災害後の住居の種類

問9 問8で「2. 豪雨災害が原因で仮設住宅などになる予定」か「3. 豪雨災害が原因で別の住居に住んでいる」に○をした方（お住まいが変わる予定の方、または変わった方）におたずねします。現在の住居、または変わる予定の住居は、次のどれに当てはまりますか。（1つに○）

▼結果要点

- 豪雨災害が原因で住宅が変わる予定・変わったと回答した者が少なく（3名）、「仮設住宅」「みなし仮設住宅」「民間賃貸住宅」にそれぞれ1名ずつが回答している。

図表8 災害後の住居の種類



図表9 災害後の住居の種類（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問9 災害後の住居の種類							無回答	非該当
		仮設住宅	みなし仮設住宅	民間賃貸住宅	町営住宅	親類や友人宅に一時的に同居	その他			
全体	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	354
問1 性別	男性	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	255
	女性	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	93
	回答しない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14
	40代	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26
	50代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	32
	60代	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	93
	70代以上	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	187
問3 世帯構成	単身世帯	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	69
	夫婦だけの世帯	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	101
	2世代世帯	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	129
	3世代世帯	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	35
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	19
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畷野小校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	23
	旧中央北校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	81
	旧中央西校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17
	旧中央東校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17
	旧中央南校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16
	旧遠野小校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	20
	旧砥用小校区	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	118
	旧豊富小校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17
	旧名越谷小校区	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18

(5) 居住地を移したい地域

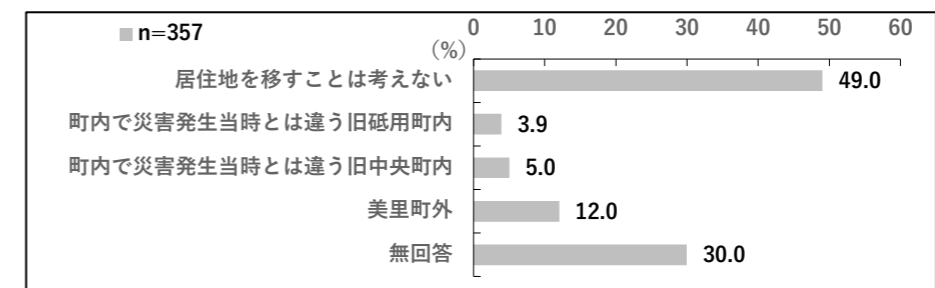
問10 豪雨災害の被害を受けて、新たな場所へ居住地を移すことができるのであれば、次のどの地域に居住地を移したいと考えますか。(1つに○)

▼結果要点

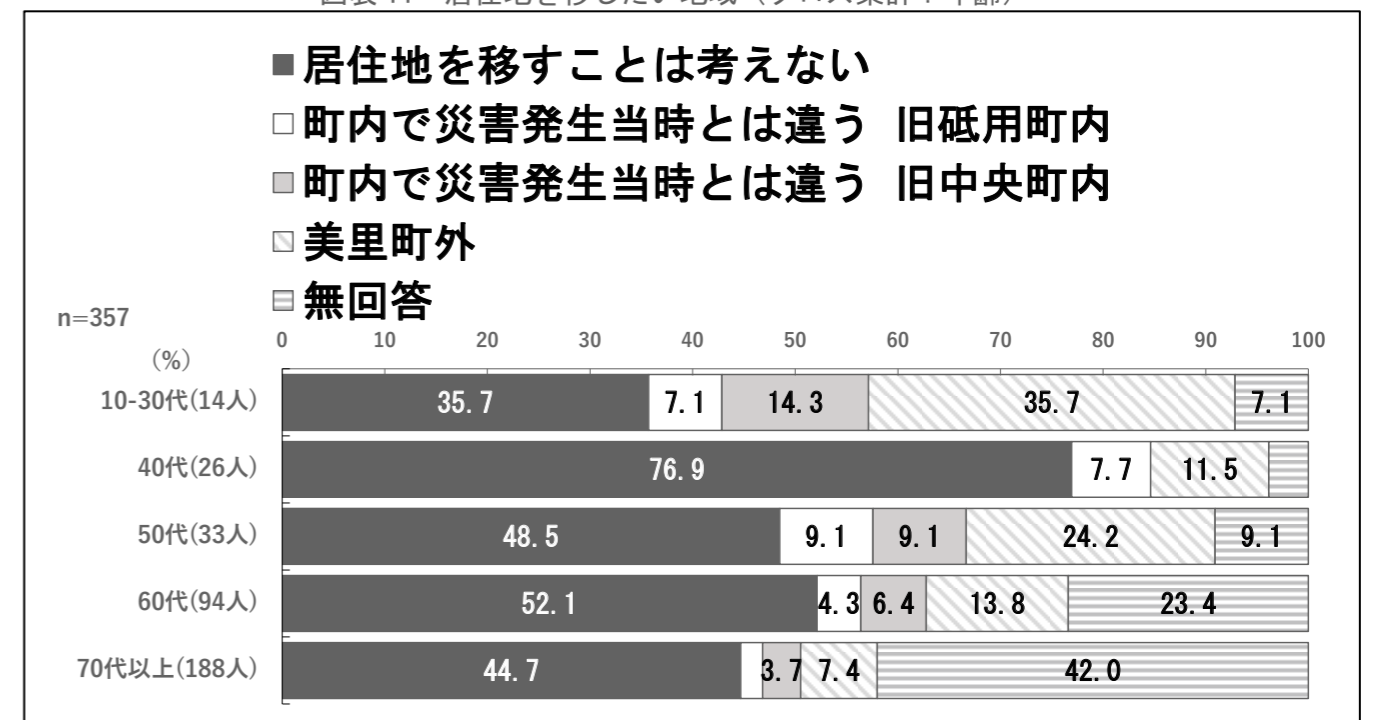
- 「居住地を移すことは考えていない」が5割弱を占めている。
- 「美里町外」へ居住地を移したいと回答された方が1割弱(43名)を占めている。

居住地を移したい地域については、「居住地を移すことは考えていない」(49.0%)が最も多く、次いで「美里町外」(12.0%)、の順となっています。また、旧小学校校区別にみると旧砥用町に居住している方で「災害発生当時とは違う旧砥用町内」へ居住を移したいと回答された方が(13名)、旧中央町で居住している方で「災害発生当時とは違う旧中央町内」へ居住を移したいと回答された方が(17名)となっており、旧砥用町に居住されている方・旧中央町に居住されている方で「美里町外」へ居住を移したいと回答された方が、それぞれ(19名)となっています。

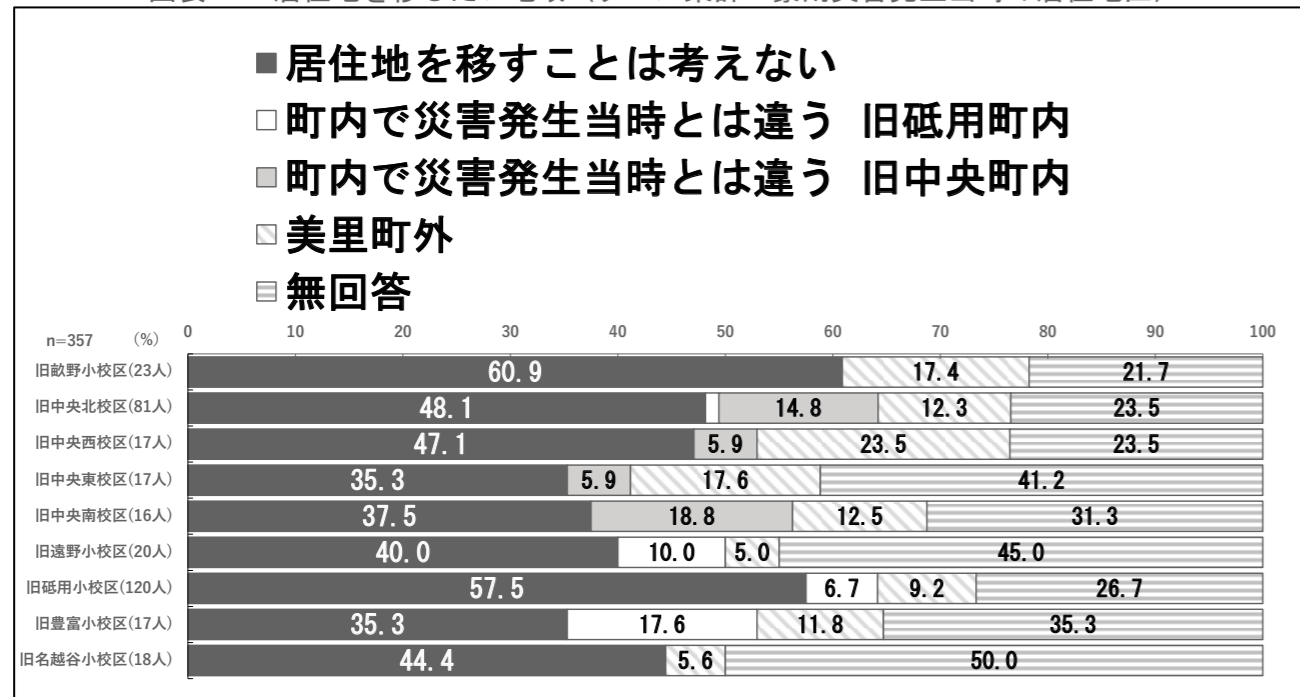
図表10 居住地を移したい地域



図表11 居住地を移したい地域(クロス集計:年齢)



図表 12 居住地を移したい地域（クロス集計：豪雨災害発生当時の居住地区）



図表 13 居住地を移したい地域（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問10 居住地を移したい地域					
		居住地を移すことは考えない	町内で災害発生当時とは違う旧砥用町内	町内で災害発生当時とは違う旧中央町内	美里町外	無回答	
全体	357 100.0	175 49.0	14 3.9	18 5.0	43 12.0	107 30.0	
問1 性別	男性	258 100.0	130 50.4	12 4.7	15 5.8	27 10.5	74 28.7
	女性	93 100.0	45 48.4	2 2.2	3 3.2	13 14.0	30 32.3
	回答しない	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	5 35.7	1 7.1	2 14.3	5 35.7	1 7.1
	40代	26 100.0	20 76.9	2 7.7	0 0.0	3 11.5	1 3.8
	50代	33 100.0	16 48.5	3 9.1	3 9.1	8 24.2	3 9.1
	60代	94 100.0	49 52.1	4 4.3	6 6.4	13 13.8	22 23.4
	70代以上	188 100.0	84 44.7	4 2.1	7 3.7	14 7.4	79 42.0
	問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	34 49.3	2 2.9	3 4.3	9 13.0
夫婦だけの世帯		101 100.0	40 39.6	2 2.0	8 7.9	10 9.9	41 40.6
2世代世帯		131 100.0	64 48.9	8 6.1	6 4.6	19 14.5	34 26.0
3世代世帯		36 100.0	23 63.9	2 5.6	0 0.0	3 8.3	8 22.2
その他		19 100.0	13 68.4	0 0.0	1 5.3	2 10.5	3 15.8
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	23 100.0	14 60.9	0 0.0	0 0.0	4 17.4	5 21.7
	旧中央北校区	81 100.0	39 48.1	1 1.2	12 14.8	10 12.3	19 23.5
	旧中央西校区	17 100.0	8 47.1	0 0.0	1 5.9	4 23.5	4 23.5
	旧中央東校区	17 100.0	6 35.3	0 0.0	1 5.9	3 17.6	7 41.2
	旧中央南校区	16 100.0	6 37.5	0 0.0	3 18.8	2 12.5	5 31.3
	旧遠野小校区	20 100.0	8 40.0	2 10.0	0 0.0	1 5.0	9 45.0
	旧砥用小校区	120 100.0	69 57.5	8 6.7	0 0.0	11 9.2	32 26.7
	旧豊富小校区	17 100.0	6 35.3	3 17.6	0 0.0	2 11.8	6 35.3
	旧名越谷小校区	18 100.0	8 44.4	0 0.0	0 0.0	1 5.6	9 50.0

2 仕事について

(1) 豪雨災害前の職業

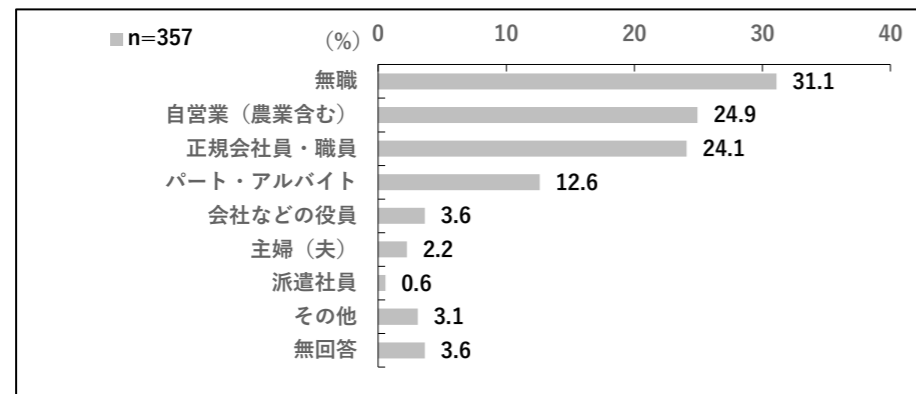
問1 1 豪雨災害前のあなたのお仕事について、次のどれに当てはまりますか。(1つに○)
※複数のお仕事をされている方は、主なお仕事を2つまで○をしてください。

▼結果要点

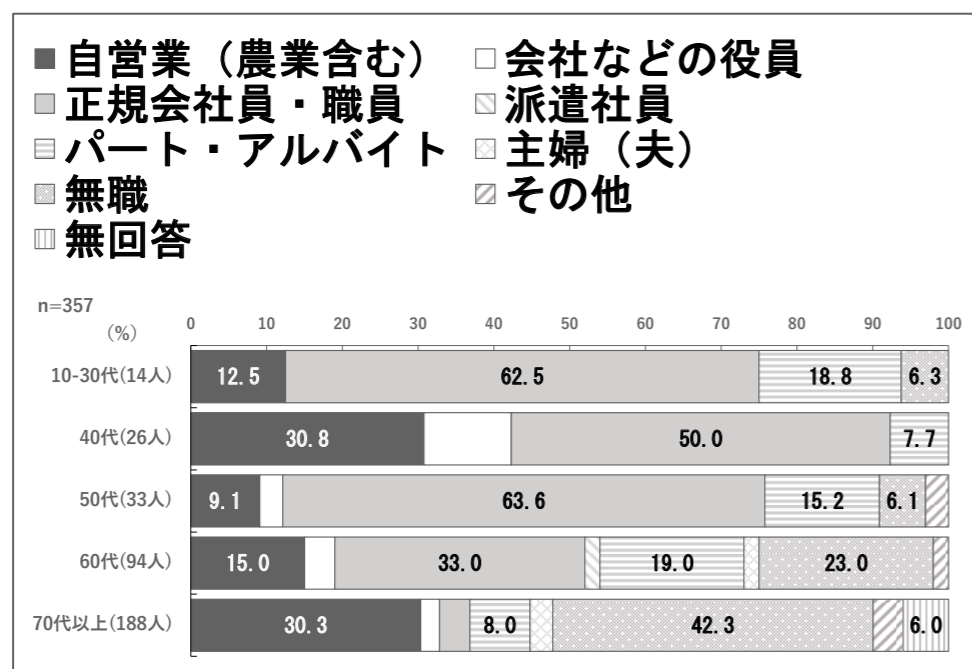
- 「無職」が3割強を占めている。

豪雨災害前の職業については、「無職」(31.1%)が最も多く、次いで「自営業(農業含む)」(24.9%)、の順となっています。

図表 14 豪雨災害前の職業



図表 15 豪雨災害前の職業(クロス集計:年齢)



図表 16 豪雨災害前の職業(クロス集計表、一位の数値に網掛け)

	合計	問11 豪雨災害前の職業								
		自営業(農業含む)	会社などの役員	正規会社員・職員	派遣社員	パート・アルバイト	主婦(夫)	無職	その他	無回答
全体	357	24.9	3.6	24.1	0.6	12.6	2.2	31.1	3.1	3.6
問1 性別	男性	24.9	3.6	24.1	0.6	12.6	2.2	31.1	3.1	3.6
	女性	31.0	5.0	27.1	0.8	8.5	0.4	28.7	3.5	1.9
	回答しない	7.5	0.0	17.2	0.0	23.7	7.5	38.7	2.2	6.5
問2 年齢(10-30代統合)	10-30代	14.3	0.0	71.4	0.0	21.4	0.0	7.1	0.0	0.0
	40代	30.8	11.5	50.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	9.1	3.0	63.6	0.0	15.2	0.0	6.1	3.0	0.0
	60代	15.0	4.3	35.1	2.1	20.2	2.1	24.5	2.1	0.0
	70代以上	32.4	2.7	4.3	0.0	8.5	3.2	45.2	4.3	6.4
問3 世帯構成	単身世帯	14.5	2.9	13.0	0.0	15.9	2.9	47.8	1.4	5.8
	夫婦だけの世帯	32.7	5.0	13.9	1.0	9.9	4.0	33.7	4.0	5.0
	2世代世帯	32.7	5.0	48.0	1.0	17.0	2.0	27.0	3.0	2.0
	3世代世帯	13.0	1.0	11.0	0.0	2.0	1.0	20.0	2.0	1.0
	その他	0.0	0.0	21.1	0.0	26.3	0.0	31.6	15.8	5.3
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小学校区	34.8	0.0	21.7	0.0	13.0	4.3	26.1	8.7
旧中央北校区	18.5	2.5	32.1	0.0	12.3	2.5	28.4	2.5	3.7	
旧中央西校区	29.4	11.8	23.5	0.0	11.8	0.0	29.4	0.0	0.0	
旧中央東校区	29.4	11.8	17.6	0.0	5.9	5.9	35.3	0.0	0.0	
旧中央南校区	31.3	12.5	12.5	0.0	18.8	0.0	31.3	6.3	6.3	
旧遠野小学校区	50.0	0.0	10.0	10.0	15.0	5.0	15.0	0.0	5.0	
旧砥用小校区	25.8	4.2	21.7	0.0	12.5	1.7	36.7	0.8	1.7	
旧豊富小学校区	11.8	0.0	35.3	0.0	11.8	5.9	35.3	5.9	5.9	
旧名越谷小学校区	33.3	0.0	27.8	0.0	11.1	0.0	27.8	5.6	5.6	

※複数回答可の問のため項目別の合計比率が100%を超える。前ページ図表15では判読性向上のため計100%となるよう圧縮。

(2) 災害による仕事の変化について

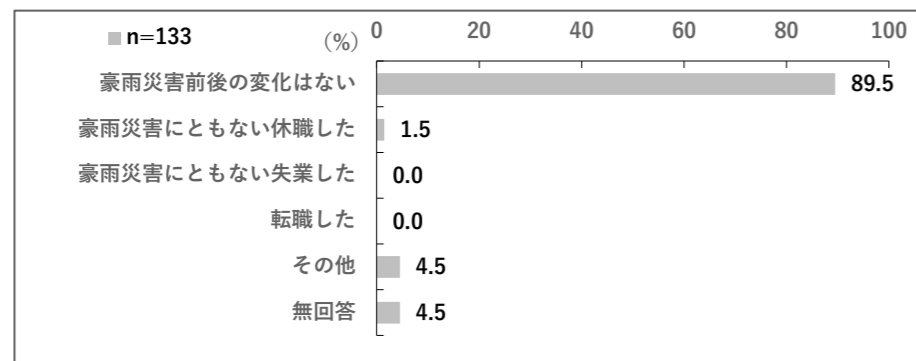
問12 問11で「3. 正規会社員・職員」、「4. 派遣社員」、「5. パート・アルバイト」に○をした方におたずねします。豪雨災害の影響により、あなたのお仕事に変化はありましたか。(1つに○)

▼結果要点

- 「豪雨災害前後の変化はない」が9割弱を占めている。

災害による仕事の変化については、「豪雨災害前後の変化はない」(89.5%)が最も多く、回答者の9割弱を占めています。

図表 17 災害による仕事の変化について



図表 18 災害による仕事の変化について (クロス集計表、一位の数値に網掛け)

	合計	問12 災害による仕事の変化について						
		豪雨災害にともない休職した	豪雨災害にともない失業した	豪雨災害前後の変化はない	転職した	その他	無回答	非該当
全体	133	2	0	119	0	6	6	224
	100.0	1.5	0.0	89.5	0.0	4.5	4.5	
問1 性別								
男性	94	2	0	86	0	4	2	164
	100.0	2.1	0.0	91.5	0.0	4.3	2.1	
女性	38	0	0	33	0	1	4	55
	100.0	0.0	0.0	86.8	0.0	2.6	10.5	
回答しない	1	0	0	0	0	1	0	3
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
問2 年齢 (10-30代統合)								
10-30代	13	0	0	12	0	1	0	1
	100.0	0.0	0.0	92.3	0.0	7.7	0.0	
40代	15	0	0	14	0	1	0	11
	100.0	0.0	0.0	93.3	0.0	6.7	0.0	
50代	26	0	0	25	0	1	0	7
	100.0	0.0	0.0	96.2	0.0	3.8	0.0	
60代	54	1	0	48	0	2	3	40
	100.0	1.9	0.0	88.9	0.0	3.7	5.6	
70代以上	24	1	0	19	0	1	3	164
	100.0	4.2	0.0	79.2	0.0	4.2	12.5	
問3 世帯構成								
単身世帯	20	1	0	16	0	1	2	49
	100.0	5.0	0.0	80.0	0.0	5.0	10.0	
夫婦だけの世帯	25	1	0	21	0	2	1	76
	100.0	4.0	0.0	84.0	0.0	8.0	4.0	
2世代世帯	66	0	0	62	0	3	1	65
	100.0	0.0	0.0	93.9	0.0	4.5	1.5	
3世代世帯	13	0	0	12	0	0	1	23
	100.0	0.0	0.0	92.3	0.0	0.0	7.7	
その他	9	0	0	8	0	0	1	10
	100.0	0.0	0.0	88.9	0.0	0.0	11.1	
問4 豪雨災害発生当時の居住地区								
旧畷野小校区	8	0	0	8	0	0	0	15
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
旧中央北校区	36	0	0	35	0	1	0	45
	100.0	0.0	0.0	97.2	0.0	2.8	0.0	
旧中央西校区	6	0	0	6	0	0	0	11
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
旧中央東校区	4	0	0	4	0	0	0	13
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
旧中央南校区	5	0	0	5	0	0	0	11
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
旧遠野小校区	7	0	0	6	0	0	1	13
	100.0	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	14.3	
旧砥用小校区	41	1	0	34	0	3	3	79
	100.0	2.4	0.0	82.9	0.0	7.3	7.3	
旧豊富小校区	8	1	0	5	0	2	0	9
	100.0	12.5	0.0	62.5	0.0	25.0	0.0	
旧名越谷小校区	7	0	0	6	0	0	1	11
	100.0	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	14.3	

(3) 業種（自営業、会社役員）

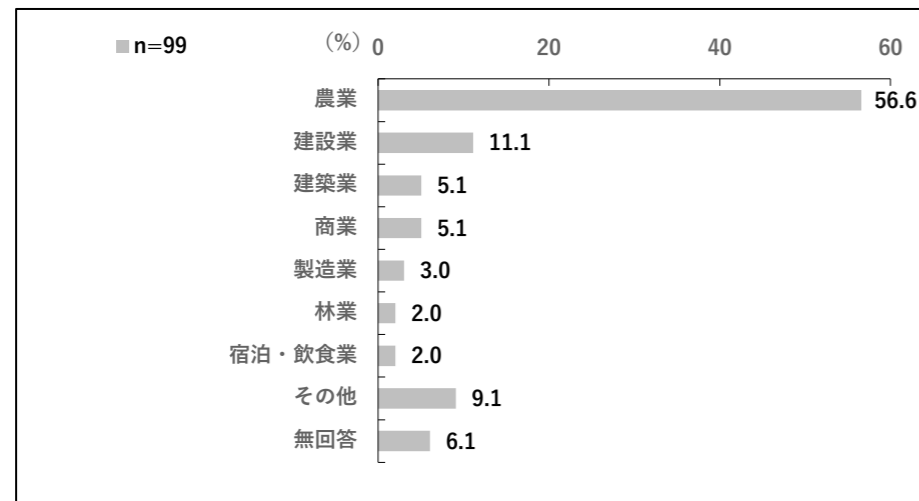
問13 問11で「1. 自営業」、「2. 会社などの役員」に○をした方におたずねします。あなたのお仕事の業種について、次のどれに当てはまりますか。（1つに○）

▼結果要点

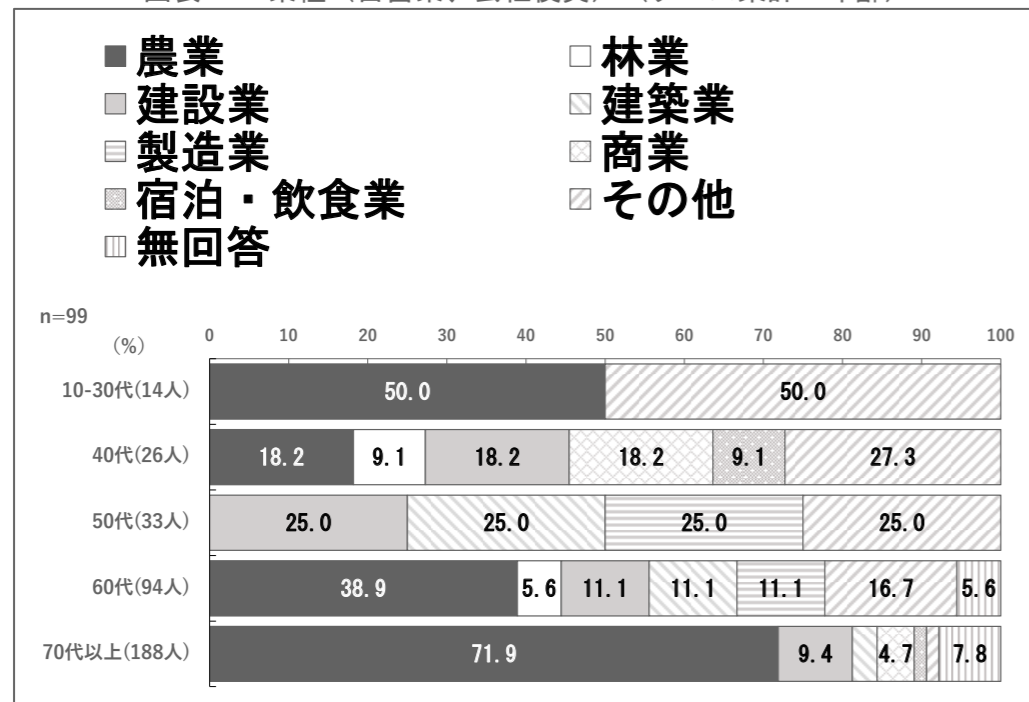
- 「農業」が6割弱を占めている。

業種（自営業、会社役員）については、「農業」（56.6%）が最も多く、次いで「建設業」（11.1%）、の順となっています。

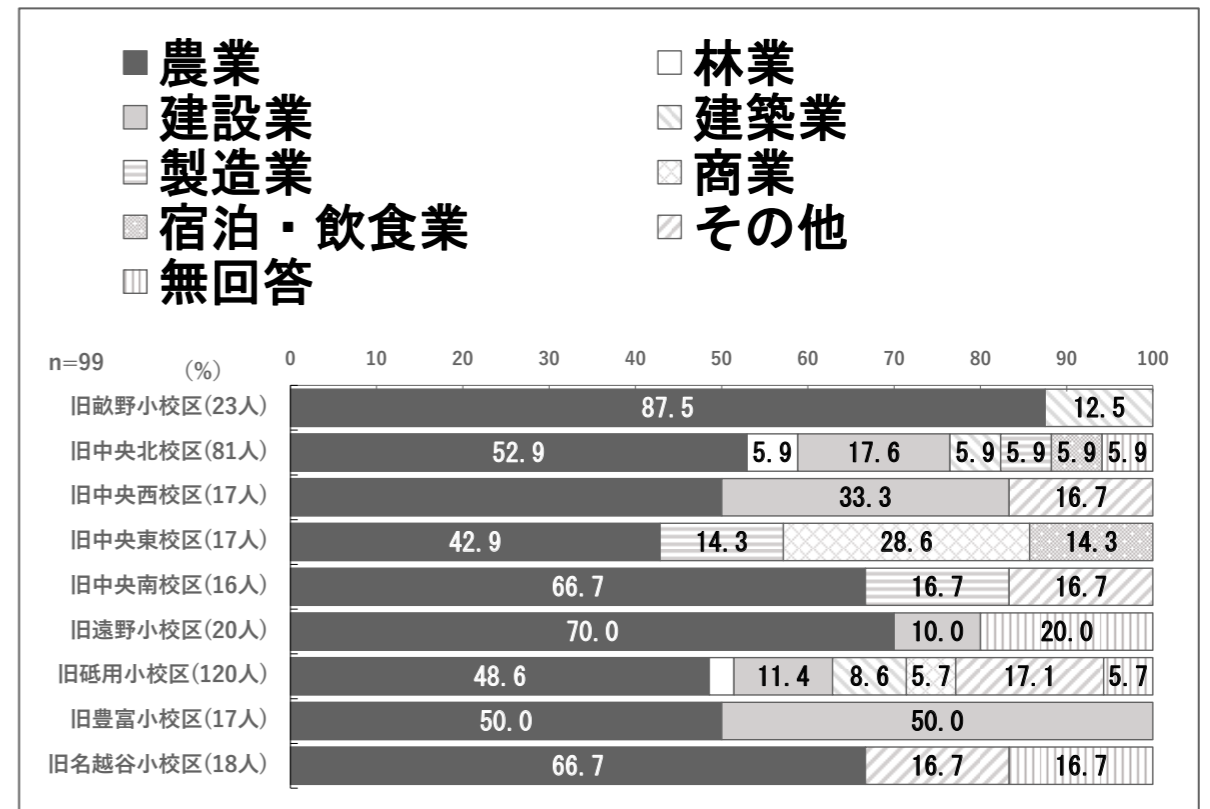
図表 19 業種（自営業、会社役員）



図表 20 業種（自営業、会社役員）（クロス集計：年齢）



図表 21 業種（自営業、会社役員）（クロス集計：豪雨災害発生当時の居住地区）



図表 22 業種（自営業、会社役員）（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問13 業種										非該当
		農業	林業	建設業	建築業	製造業	商業	宿泊・飲食業	その他	無回答		
全体	99	56	2	11	5	3	5	2	9	6	258	
問1 性別	100.0	56.6	2.0	11.1	5.1	3.0	5.1	2.0	9.1	6.1		
男性	90	51	2	11	5	3	4	1	8	5	168	
女性	7	4	0	0	0	0	0	1	1	1	86	
回答しない	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
問2 年齢 (10-30代統合)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
10-30代	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	12	
40代	11	2	1	2	0	0	2	1	3	0	15	
50代	4	0	0	1	1	1	0	0	1	0	29	
60代	18	7	1	2	2	2	0	0	3	1	76	
70代以上	64	46	0	6	2	0	3	1	1	5	124	
問3 世帯構成	100.0	71.9	0.0	9.4	3.1	0.0	4.7	1.6	1.6	7.8		
単身世帯	10	6	0	0	1	0	0	1	2	0	59	
夫婦だけの世帯	37	23	0	5	3	1	1	1	2	1	64	
2世代世帯	37	16	1	5	1	2	3	0	4	5	94	
3世代世帯	14	10	1	1	0	0	1	0	1	0	22	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
旧畷野小校区	8	7	0	0	1	0	0	0	0	0	15	
旧中央北校区	17	9	1	3	1	1	0	1	0	1	64	
旧中央西校区	6	3	0	2	0	0	0	0	1	0	11	
旧中央東校区	7	3	0	0	0	1	2	1	0	0	10	
旧中央南校区	6	4	0	0	0	1	0	0	1	0	10	
旧遠野小校区	10	7	0	1	0	0	0	0	0	2	10	
旧砥用小校区	35	17	1	4	3	0	2	0	6	2	85	
旧豊富小校区	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	15	
旧名越谷小校区	6	4	0	0	0	0	0	0	1	1	12	

(4) 事業への被害状況・災害損失状況（自営業、会社役員）

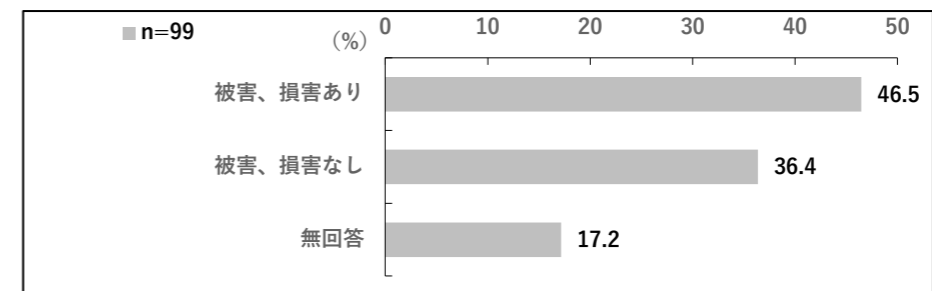
問14 問11で「1. 自営業」、「2. 会社などの役員」に○をした方におたずねします。あなたの事業への被害状況、災害損失状況について、次のどれに当てはまりますか。（1つに○）

▼結果要点

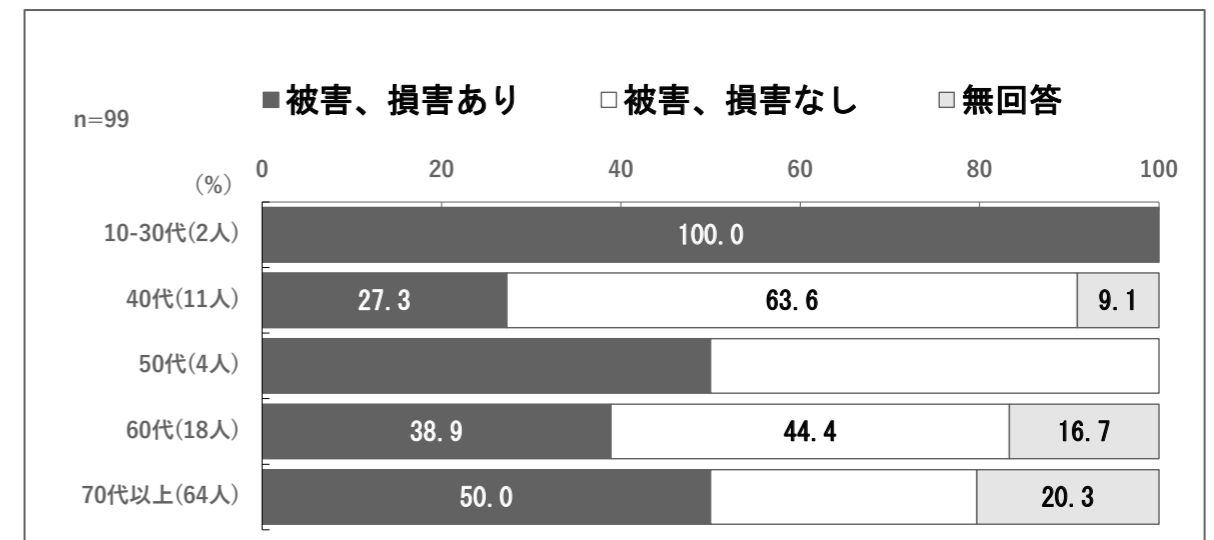
- 「被害・損害あり」が5割弱を占めている。

事業への被害状況・災害損失状況（自営業、会社役員）については、「被害、損害あり」（46.5%）が最も多く、次いで「被害、損害なし」（36.4%）、の順となっています。また、業種別にみると「農業」と回答された方56名のうち（36名）の方が「被害、損害あり」と回答されています。

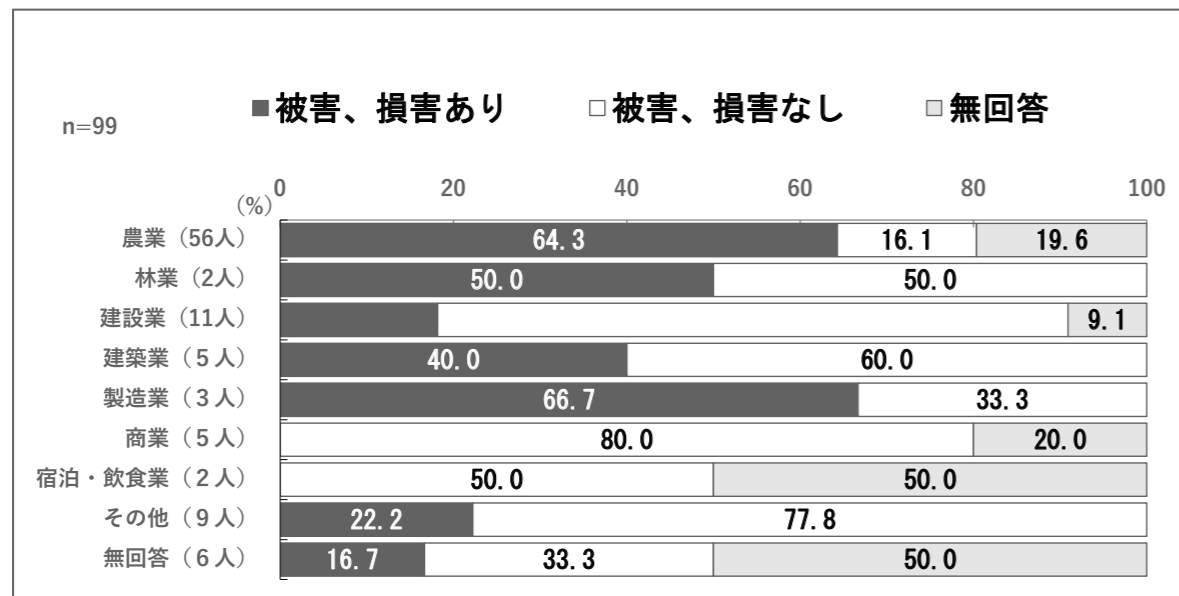
図表 23 事業への被害状況・災害損失状況（自営業、会社役員）



図表 24 事業への被害状況・災害損失状況（自営業、会社役員）（クロス集計：年齢）



図表 25 事業への被害状況・災害損失状況（自営業・会社役員）（クロス集計：業種）



図表 26 事業への被害状況・災害損失状況（自営業、会社役員）（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

		問14 事業への被害状況・災害損失状況			
		合計	被害、損害あり	被害、損害なし	無回答
全体		99	46	36	17
		100.0	46.5	36.4	17.2
問1 性別	男性	90	43	34	13
		100.0	47.8	37.8	14.4
	女性	7	2	1	4
		100.0	28.6	14.3	57.1
	回答しない	1	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	2	2	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
	40代	11	3	7	1
		100.0	27.3	63.6	9.1
	50代	4	2	2	0
		100.0	50.0	50.0	0.0
	60代	18	7	8	3
		100.0	38.9	44.4	16.7
	70代以上	64	32	19	13
		100.0	50.0	29.7	20.3
問3 世帯構成	単身世帯	10	4	4	2
		100.0	40.0	40.0	20.0
	夫婦だけの世帯	37	14	16	7
		100.0	37.8	43.2	18.9
	2世代世帯	37	18	11	8
		100.0	48.6	29.7	21.6
	3世代世帯	14	9	5	0
		100.0	64.3	35.7	0.0
	その他	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	8	5	1	2
		100.0	62.5	12.5	25.0
	旧中央北校区	17	8	7	2
		100.0	47.1	41.2	11.8
	旧中央西校区	6	3	3	0
		100.0	50.0	50.0	0.0
	旧中央東校区	7	2	4	1
		100.0	28.6	57.1	14.3
	旧中央南校区	6	3	2	1
		100.0	50.0	33.3	16.7
旧遠野小校区	10	4	1	5	
	100.0	40.0	10.0	50.0	
旧砥用小校区	35	16	16	3	
	100.0	45.7	45.7	8.6	
旧豊富小校区	2	1	1	0	
	100.0	50.0	50.0	0.0	
旧名越谷小校区	6	4	0	2	
	100.0	66.7	0.0	33.3	
問13 業種	農業	56	36	9	11
		100.0	64.3	16.1	19.6
	林業	2	1	1	0
		100.0	50	50	0.0
	建設業	11	2	8	1
		100.0	18.2	72.7	9.1
	建築業	5	2	3	0
		100.0	40.0	60.0	0.0
	製造業	3	2	1	0
		100.0	66.7	33.3	0.0
商業	5	0	4	1	
	100.0	0.0	80.0	20.0	
宿泊・飲食業	2	0	1	1	
	100.0	0.0	50.0	50.0	
その他	9	2	7	0	
	100.0	22.2	77.8	0.0	

(5) 被害・損失のあった事業の今後の意向

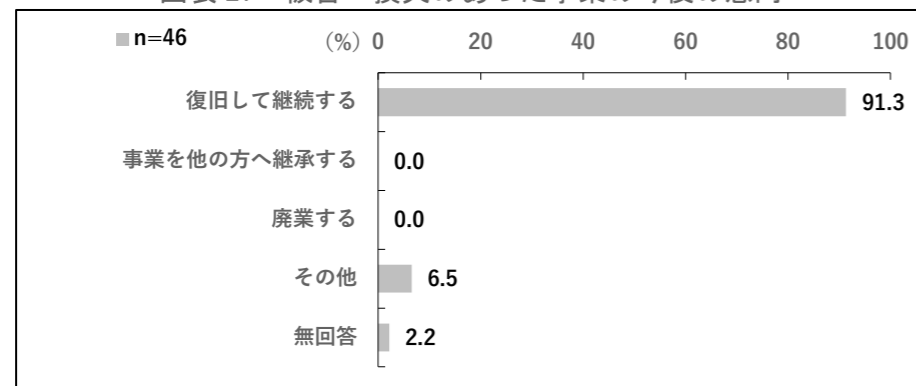
問16 問14で「1. 被害、損失あり」に○をした方へおたずねします。被害、損失を受けられた事業の今後の意向について、次のどれに当てはまりますか。(1つに○)

▼結果要点

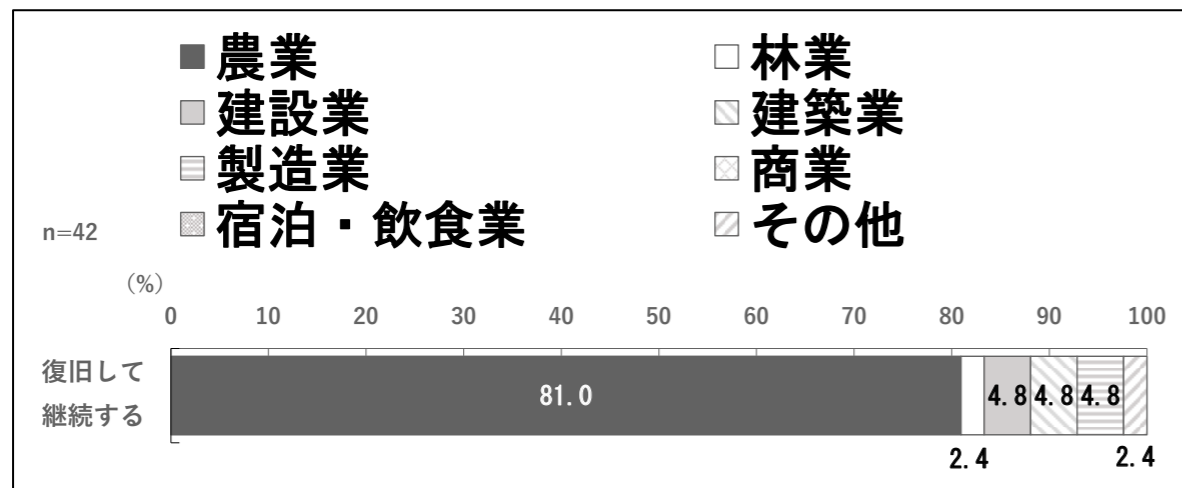
- 「復旧して継続する」が9割を占めている。

被害・損失のあった事業の今後の意向については、「復旧して継続する」(91.3%)が最も多く、回答者の9割強を占めています。

図表27 被害・損失のあった事業の今後の意向



図表28 被害・損失のあった事業の今後の意向 (クロス集計: 『復旧して継続する』の業種)



図表29 被害・損失のあった事業の今後の意向 (クロス集計表、一位の数値に網掛け)

	合計	問16 被害・損失のあった事業の今後の意向					無回答	非該当
		復旧して継続する	事業を他の方へ継承する	廃業する	その他			
全体	46 100.0	42 91.3	0 0.0	0 0.0	3 6.5	1 2.2	311	
問1 性別								
男性	43 100.0	40 93.0	0 0.0	0 0.0	3 7.0	0 0.0	215	
女性	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	91	
回答しない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	
問2 年齢 (10-30代統合)								
10-30代	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	
40代	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	23	
50代	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	31	
60代	7 100.0	6 85.7	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	87	
70代以上	32 100.0	29 90.6	0 0.0	0 0.0	2 6.3	1 3.1	156	
問3 世帯構成								
単身世帯	4 100.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	65	
夫婦だけの世帯	14 100.0	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	87	
2世代世帯	18 100.0	15 83.3	0 0.0	0 0.0	3 16.7	0 0.0	113	
3世代世帯	9 100.0	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	27	
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	19	
問4 豪雨災害発生当時の居住地区								
旧畝野小校区	5 100.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	18	
旧中央北校区	8 100.0	7 87.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	73	
旧中央西校区	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	14	
旧中央東校区	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15	
旧中央南校区	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13	
旧遠野小校区	4 100.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16	
旧砥用小校区	16 100.0	15 93.8	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	104	
旧豊富小校区	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16	
旧名越谷小校区	4 100.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	

3 災害発生時の状況について

(1) 災害に関する情報源で最も利用したもの

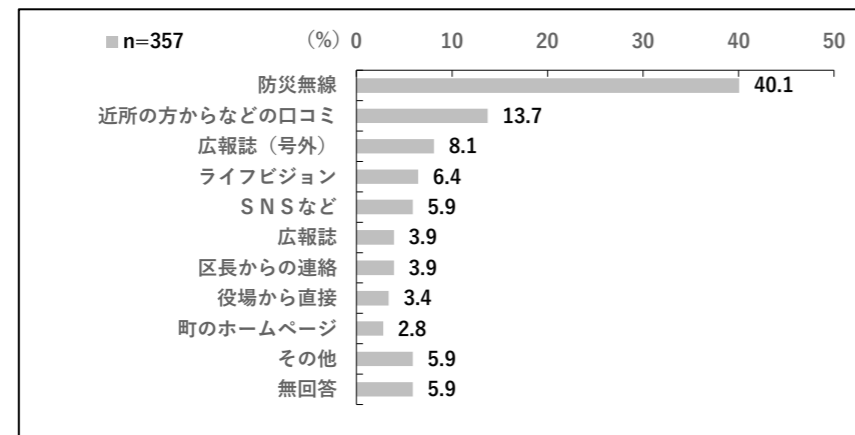
問17 豪雨災害の発生により、災害発生の注意喚起、避難のお知らせ、道路状況、支援物資配布状況、被災者支援など、多くの情報を町民の皆様にお知らせを行ってまいりましたが、どの情報源を最も利用されましたか。(1つに○)

▼結果要点

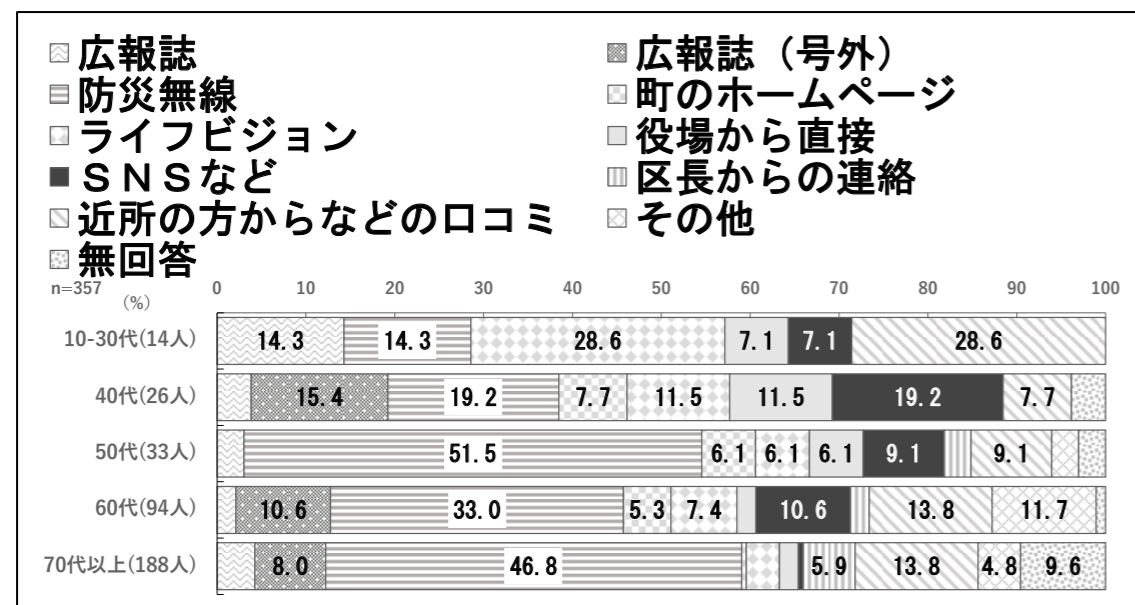
- 「防災無線」が約4割を占めている。

災害に関する情報源で最も利用したものについては、「防災無線」(40.1%)が最も多く、次いで「近所の方からなどの口コミ」(13.7%)、の順となっています。また、年齢別にみると10~40代の若い世代の方については、「ライフビジョン」や「SNSなど」から情報収集を行っており、50代以上の方については、「防災無線」による情報収集が多くなっています。

図表30 災害に関する情報源で最も利用したもの



図表31 災害に関する情報源で最も利用したもの(クロス集計:年齢)



図表32 災害に関する情報源で最も利用したもの(クロス集計表、一位の数値に網掛け)

	合計	問17 災害に関する情報源で最も利用したもの											
		広報誌	広報誌(号外)	防災無線	町のホームページ	ライフビジョン	役場から直接	SNSなど	区長からの連絡	近所の方からなどの口コミ	その他	無回答	
全体	357	14.3	29.1	40.1	10.1	6.4	23.3	12.1	21.1	14.1	13.7	21.1	21.1
問1 性別													
男性	258	3.9	8.1	40.1	2.8	6.4	3.4	5.9	3.9	13.7	5.9	5.9	
女性	93	6.5	3.2	45.2	2.2	5.4	0.0	5.4	3.2	15.1	7.5	6.5	
回答しない	4	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	
問2 年齢(10-30代統合)													
10-30代	14	2.0	0.0	2.0	0.0	4.0	1.0	1.0	0.0	4.0	0.0	0.0	
40代	26	3.8	15.4	19.2	7.7	11.5	11.5	19.2	0.0	7.7	0.0	3.8	
50代	33	3.0	0.0	51.5	6.1	6.1	6.1	9.1	3.0	9.1	3.0	3.0	
60代	94	2.1	10.6	33.0	5.3	7.4	2.1	10.6	2.1	13.8	11.7	1.1	
70代以上	188	4.3	8.0	46.8	0.5	3.7	2.1	0.5	5.9	13.8	4.8	9.6	
問3 世帯構成													
単身世帯	69	2.9	2.9	34.8	1.4	2.9	3.0	4.0	5.0	8.9	5.9	6.9	
夫婦だけの世帯	101	4.0	14.9	40.6	2.0	5.0	3.0	4.0	5.0	9.9	6.9	7.9	
2世代世帯	131	6.1	7.7	38.9	5.3	8.4	3.8	8.4	3.8	13.7	3.1	4.6	
3世代世帯	36	1.0	5.0	15.0	0.0	5.0	0.0	1.0	0.0	5.0	3.0	1.0	
その他	19	1.0	0.0	12.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
問4 豪雨災害発生当時の居住地区													
旧畝野小校区	23	1.0	3.0	39.1	4.3	8.7	0.0	4.3	4.3	13.0	8.7	0.0	
旧中央北校区	81	5.0	6.0	29.0	3.0	5.0	1.0	8.0	5.0	11.0	3.0	5.0	
旧中央西校区	17	0.0	3.0	17.6	0.0	5.9	11.8	0.0	0.0	35.3	0.0	11.8	
旧中央東校区	17	1.0	1.0	7.0	0.0	3.0	0.0	2.0	1.0	0.0	1.0	1.0	
旧中央南校区	16	1.0	1.0	7.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	3.0	2.0	0.0	
旧遠野小校区	20	2.0	1.0	13.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	
旧砥用小校区	120	3.0	12.0	41.7	4.2	5.0	4.2	4.2	0.8	15.8	5.8	5.8	
旧豊富小校区	17	0.0	0.0	23.5	0.0	5.9	11.8	5.9	23.5	17.6	11.8	0.0	
旧名越谷小校区	18	0.0	2.0	38.9	0.0	11.1	0.0	5.6	5.6	11.1	5.6	11.1	

(2) 災害発生時最も身の危険を感じた状況

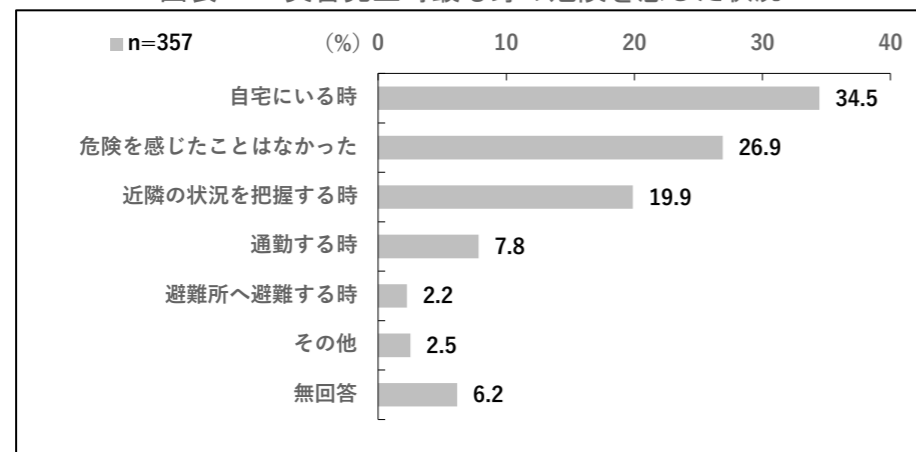
問18 豪雨災害の発生時に最も身の危険を感じた状況について、次のどれに当てはまりますか。(1つに○)

▼結果要点

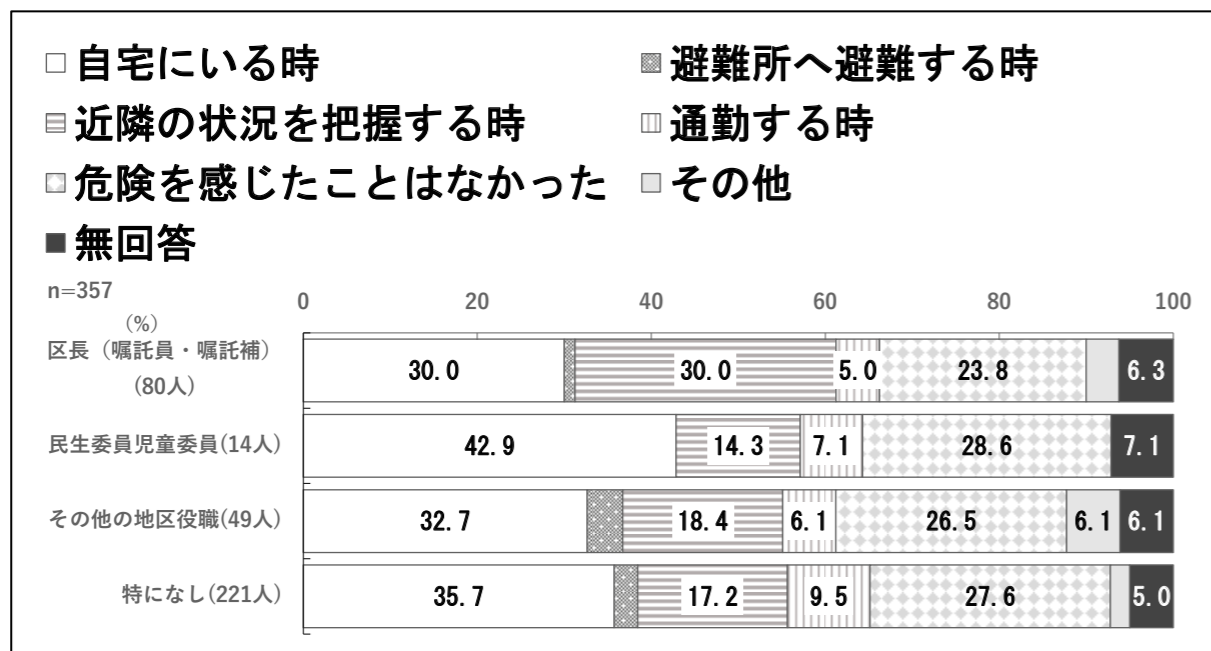
- 「自宅にいる時」が3割強を占めている。

災害発生時最も身の危険を感じた状況については、「自宅にいる時」(34.5%)が最も多く、次いで「危険を感じたことはなかった」(26.9%)、の順となっています。

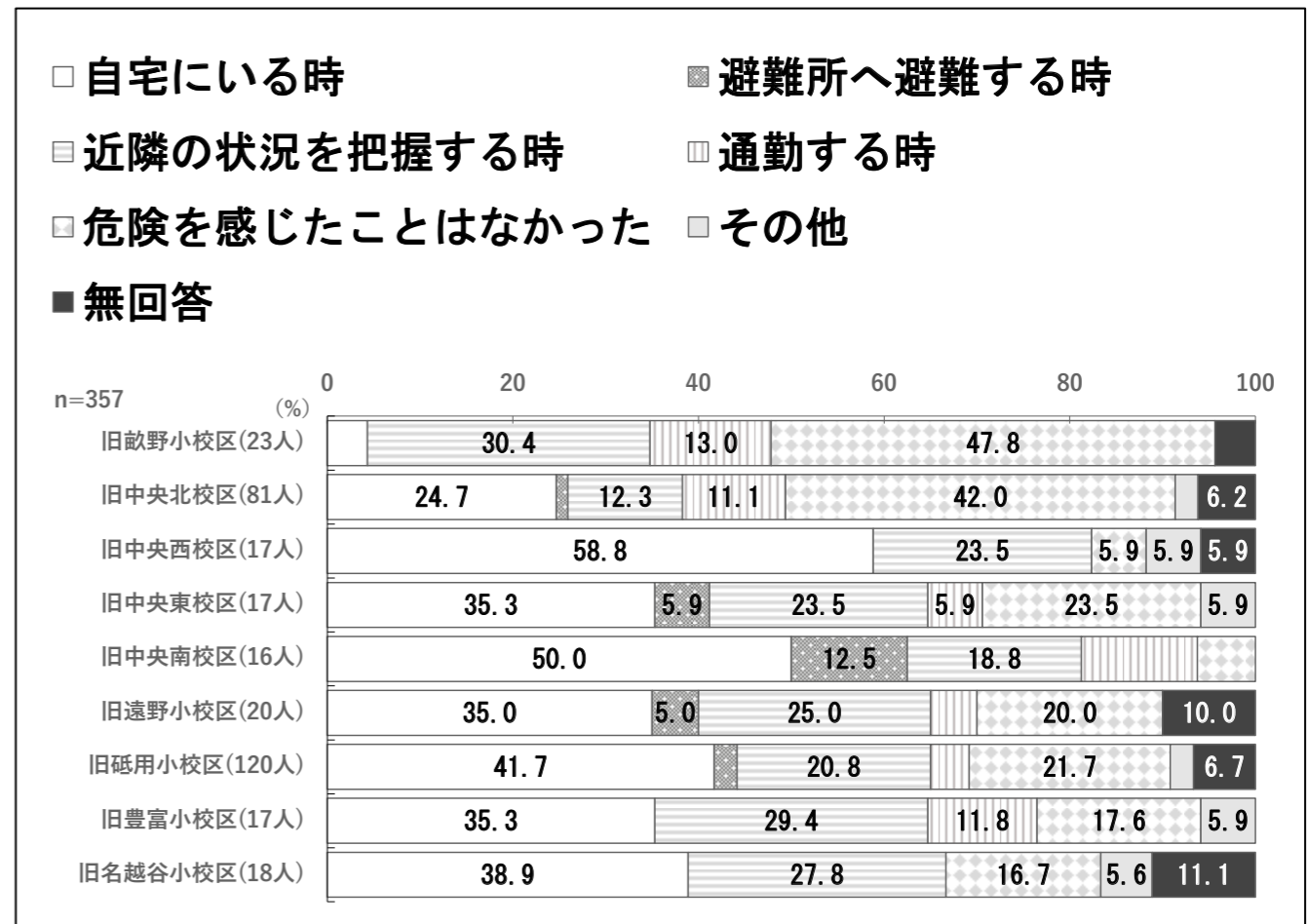
図表33 災害発生時最も身の危険を感じた状況



図表34 災害発生時最も身の危険を感じた状況 (クロス集計: 地区での役割)



図表35 災害発生時最も身の危険を感じた状況 (クロス集計: 豪雨災害発生当時の居住地区)



図表 36 災害発生時最も身の危険を感じた状況（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

		合計	問18 災害発生時最も身の危険を感じた状況						無回答
			自宅に いる時	避難所へ 避難する 時	近隣の状 況を把握 する時	通勤する 時	危険を感 じたこと はなかつ た	その他	
全体		357 100.0	123 34.5	8 2.2	71 19.9	28 7.8	96 26.9	9 2.5	22 6.2
問1 性別	男性	258 100.0	85 32.9	5 1.9	57 22.1	15 5.8	77 29.8	7 2.7	12 4.7
	女性	93 100.0	36 38.7	3 3.2	13 14.0	12 12.9	18 19.4	2 2.2	9 9.7
	回答しない	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	3 21.4	0 0.0	5 35.7	2 14.3	4 28.6	0 0.0	0 0.0
	40代	26 100.0	8 30.8	0 0.0	6 23.1	5 19.2	7 26.9	0 0.0	0 0.0
	50代	33 100.0	11 33.3	0 0.0	8 24.2	6 18.2	6 18.2	2 6.1	0 0.0
	60代	94 100.0	34 36.2	1 1.1	20 21.3	10 10.6	26 27.7	2 2.1	1 1.1
	70代以上	188 100.0	65 34.6	7 3.7	32 17.0	5 2.7	53 28.2	5 2.7	21 11.2
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	26 37.7	2 2.9	8 11.6	5 7.2	17 24.6	3 4.3	8 11.6
	夫婦だけの世帯	101 100.0	34 33.7	1 1.0	27 26.7	2 2.0	31 30.7	1 1.0	5 5.0
	2世代世帯	131 100.0	39 29.8	3 2.3	30 22.9	16 12.2	37 28.2	1 0.8	5 3.8
	3世代世帯	36 100.0	16 44.4	2 5.6	5 13.9	3 8.3	7 19.4	1 2.8	2 5.6
	その他	19 100.0	8 42.1	0 0.0	1 5.3	2 10.5	4 21.1	3 15.8	1 5.3
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	23 100.0	1 4.3	0 0.0	7 30.4	3 13.0	11 47.8	0 0.0
旧中央北校区	81 100.0	20 24.7	1 1.2	10 12.3	9 11.1	34 42.0	2 2.5	5 6.2	
旧中央西校区	17 100.0	10 58.8	0 0.0	4 23.5	0 0.0	1 5.9	1 5.9	1 5.9	
旧中央東校区	17 100.0	6 35.3	1 5.9	4 23.5	1 5.9	4 23.5	1 5.9	0 0.0	
旧中央南校区	16 100.0	8 50.0	2 12.5	3 18.8	2 12.5	1 6.3	0 0.0	0 0.0	
旧遠野小校区	20 100.0	7 35.0	1 5.0	5 25.0	1 5.0	4 20.0	0 0.0	2 10.0	
旧砥用小校区	120 100.0	50 41.7	3 2.5	25 20.8	5 4.2	26 21.7	3 2.5	8 6.7	
旧豊富小校区	17 100.0	6 35.3	0 0.0	5 29.4	2 11.8	3 17.6	1 5.9	0 0.0	
旧名越谷小校区	18 100.0	7 38.9	0 0.0	5 27.8	0 0.0	3 16.7	1 5.6	2 11.1	
問5 地区での役割	区長 (嘱託員・嘱託補)	80 100.0	24 30.0	1 1.3	24 30.0	4 5.0	19 23.8	3 3.8	5 6.3
	民生委員児童委員	14 100.0	6 42.9	0 0.0	2 14.3	1 7.1	4 28.6	0 0.0	1 7.1
	その他の地区役職	49 100.0	16 32.7	2 4.1	9 18.4	3 6.1	13 26.5	3 6.1	3 6.1
	特になし	221 100.0	79 35.7	6 2.7	38 17.2	21 9.5	61 27.6	5 2.3	11 5.0

(3) 8月10日から11日にかけての移動の状況

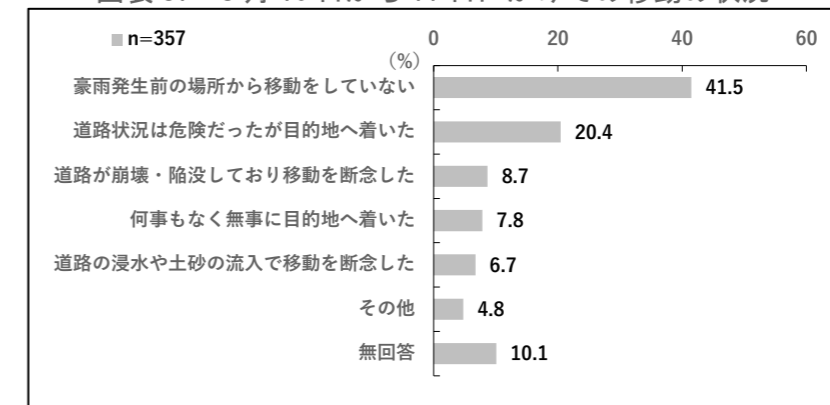
問19 豪雨災害の発生時、8月10日から翌11日にかけて、自宅等から移動されたときの状況について、次のどれに当てはまりますか。(1つに○)

▼結果要点

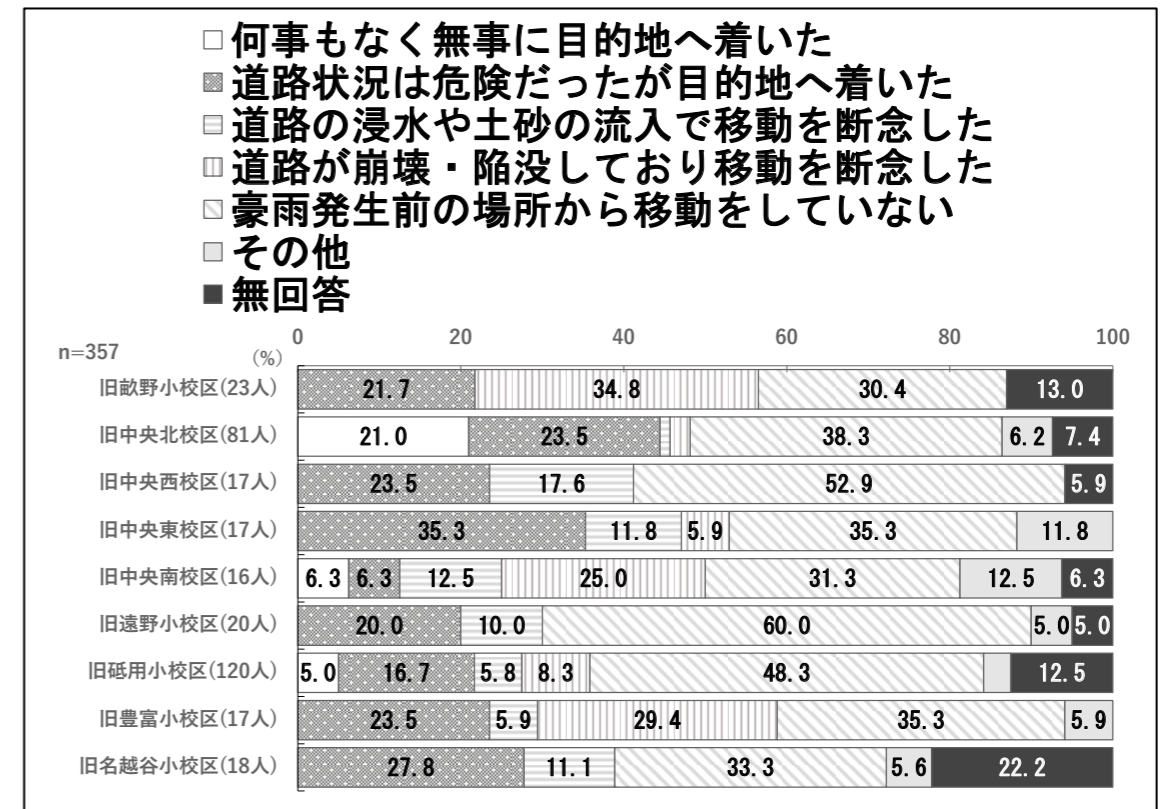
- 「豪雨発生前の場所から移動をしていない」が4割強を占めている。

8月10日から11日にかけての移動の状況については、「豪雨発生前の場所から移動をしていない」(41.5%)が最も多く、次いで「道路状況は危険だったが目的地へ着いた」(20.4%)、の順となっています。

図表 37 8月10日から11日にかけての移動の状況



図表 38 8月10日から11日にかけての移動の状況（クロス集計：豪雨災害発生当時の居住地区）



図表 39 8月10日から11日にかけての移動の状況（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問19 8月10日から11日にかけての移動の状況							
		何事もなく無事に目的地へ着いた	道路状況は危険だったが目的地へ着いた	道路の浸水や土砂の流入で移動を断念した	道路が崩壊・陥没しており移動を断念した	豪雨発生前の場所から移動をしていない	その他	無回答	
全体	357 100.0	28 7.8	73 20.4	24 6.7	31 8.7	148 41.5	17 4.8	36 10.1	
問1 性別	男性	258 100.0	22 8.5	59 22.9	18 7.0	24 9.3	104 40.3	9 3.5	22 8.5
	女性	93 100.0	6 6.5	13 14.0	6 6.5	7 7.5	42 45.2	8 8.6	11 11.8
	回答しない	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	1 7.1	5 35.7	1 7.1	2 14.3	5 35.7	0 0.0	0 0.0
	40代	26 100.0	4 15.4	13 50.0	1 3.8	0 0.0	7 26.9	1 3.8	0 0.0
	50代	33 100.0	3 9.1	11 33.3	2 6.1	4 12.1	10 30.3	2 6.1	1 3.0
	60代	94 100.0	9 9.6	24 25.5	8 8.5	7 7.4	38 40.4	6 6.4	2 2.1
	70代以上	188 100.0	11 5.9	19 10.1	12 6.4	18 9.6	87 46.3	8 4.3	33 17.6
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	7 10.1	5 7.2	7 10.1	4 5.8	26 37.7	6 8.7	14 20.3
	夫婦だけの世帯	101 100.0	7 6.9	16 15.8	7 6.9	12 11.9	42 41.6	6 5.9	11 10.9
	2世代世帯	131 100.0	8 6.1	41 31.3	7 5.3	7 5.3	59 45.0	2 1.5	7 5.3
	3世代世帯	36 100.0	4 11.1	10 27.8	1 2.8	5 13.9	14 38.9	1 2.8	1 2.8
	その他	19 100.0	2 10.5	1 5.3	2 10.5	3 15.8	6 31.6	2 10.5	3 15.8
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	23 100.0	0 0.0	5 21.7	0 0.0	8 34.8	7 30.4	0 0.0	3 13.0
	旧中央北校区	81 100.0	17 21.0	19 23.5	1 1.2	2 2.5	31 38.3	5 6.2	6 7.4
	旧中央西校区	17 100.0	0 0.0	4 23.5	3 17.6	0 0.0	9 52.9	0 0.0	1 5.9
	旧中央東校区	17 100.0	0 0.0	6 35.3	2 11.8	1 5.9	6 35.3	2 11.8	0 0.0
	旧中央南校区	16 100.0	1 6.3	1 6.3	2 12.5	4 25.0	5 31.3	2 12.5	1 6.3
	旧遠野小校区	20 100.0	0 0.0	4 20.0	2 10.0	0 0.0	12 60.0	1 5.0	1 5.0
	旧砥用小校区	120 100.0	6 5.0	20 16.7	7 5.8	10 8.3	58 48.3	4 3.3	15 12.5
	旧豊富小校区	17 100.0	0 0.0	4 23.5	1 5.9	5 29.4	6 35.3	1 5.9	0 0.0
	旧名越谷小校区	18 100.0	0 0.0	5 27.8	2 11.1	0 0.0	6 33.3	1 5.6	4 22.2

(4) 町全体として特に被害を受けたと感じたこと

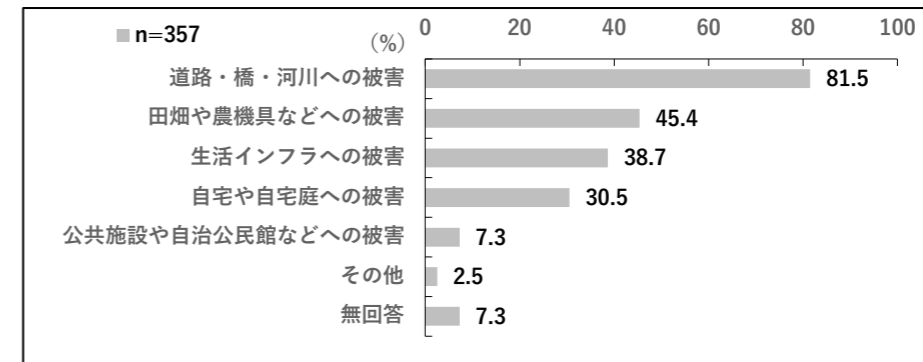
問20 豪雨災害の発生後、町全体として特に被害を受けたと感じたことについて、次のどれに当てはまりますか。（3つまで○）

▼結果要点

- 「道路・橋・河川への被害」が8割強を占めている。

町全体として特に被害を受けたと感じたことについては、「道路・橋・河川への被害」（81.5%）が最も多く、次いで「田畑や農機具などへの被害」（45.4%）、の順となっています。

図表 40 町全体として特に被害を受けたと感じたこと



図表 41 町全体として特に被害を受けたと感じたこと（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問20 町全体として特に被害を受けたと感じたこと							
		自宅や自宅 庭への被害	道路・橋・ 河川への被 害	田畑や農機 具などへの 被害	生活インフ ラへの被害	公共施設や 自治公民館 などへの被 害	その他	無回答	
全体	357 100.0	109 30.5	291 81.5	162 45.4	138 38.7	26 7.3	9 2.5	26 7.3	
問1 性別	男性	258 100.0	72 27.9	218 84.5	133 51.6	96 37.2	17 6.6	7 2.7	17 6.6
	女性	93 100.0	35 37.6	72 77.4	26 28.0	42 45.2	9 9.7	1 1.1	7 7.5
	回答しない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0
問2 年齢 (10-30代統 合)	10-30代	14 100.0	4 28.6	13 92.9	5 35.7	5 35.7	1 7.1	2 14.3	0 0.0
	40代	26 100.0	9 34.6	24 92.3	10 38.5	7 26.9	3 11.5	0 0.0	0 0.0
	50代	33 100.0	11 33.3	32 97.0	15 45.5	17 51.5	4 12.1	0 0.0	0 0.0
	60代	94 100.0	25 26.6	86 91.5	45 47.9	43 45.7	3 3.2	2 2.1	1 1.1
	70代以上	188 100.0	59 31.4	134 71.3	87 46.3	65 34.6	14 7.4	5 2.7	25 13.3
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	18 26.1	51 73.9	24 34.8	25 36.2	6 8.7	3 4.3	8 11.6
	夫婦だけの世帯	101 100.0	30 29.7	78 77.2	53 52.5	35 34.7	8 7.9	3 3.0	9 8.9
	2世代世帯	131 100.0	46 35.1	118 90.1	57 43.5	58 44.3	9 6.9	3 2.3	5 3.8
	3世代世帯	36 100.0	12 33.3	31 86.1	24 66.7	13 36.1	1 2.8	0 0.0	2 5.6
	その他	19 100.0	2 10.5	13 68.4	3 15.8	6 31.6	2 10.5	0 0.0	2 10.5
	問4 豪雨災害 発生当時の居 住地区	旧畝野小校区	23 100.0	4 17.4	17 73.9	15 65.2	14 60.9	2 8.7	0 0.0
旧中央北校区		81 100.0	19 23.5	69 85.2	39 48.1	22 27.2	6 7.4	2 2.5	8 9.9
旧中央西校区		17 100.0	6 35.3	15 88.2	11 64.7	4 23.5	1 5.9	2 11.8	1 5.9
旧中央東校区		17 100.0	4 23.5	16 94.1	8 47.1	8 47.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0
旧中央南校区		16 100.0	8 50.0	16 100.0	6 37.5	8 50.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0
旧遠野小校区		20 100.0	3 15.0	17 85.0	9 45.0	11 55.0	0 0.0	2 10.0	0 0.0
旧砥用小校区		120 100.0	45 37.5	100 83.3	46 38.3	47 39.2	10 8.3	3 2.5	11 9.2
旧豊富小校区		17 100.0	7 41.2	16 94.1	6 35.3	11 64.7	2 11.8	0 0.0	0 0.0
旧名越谷小校区		18 100.0	8 44.4	8 44.4	13 72.2	5 27.8	1 5.6	0 0.0	1 5.6

(5) 災害発生時に一番ほしい情報

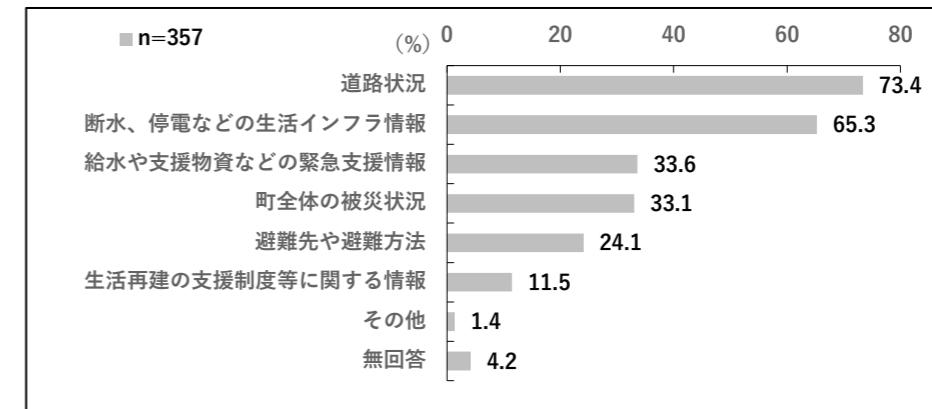
問21 災害が発生したときに一番ほしい情報を教えてください。(3つまで○)

▼結果要点

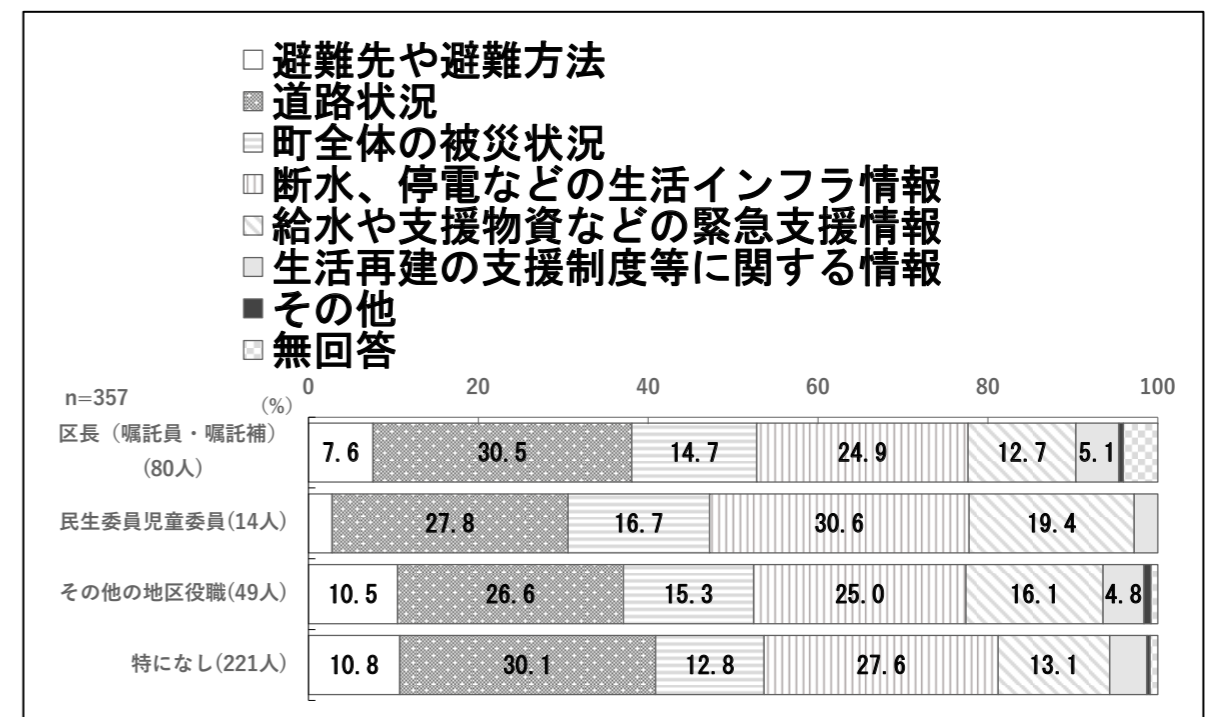
- 「道路状況」が7割強を占めている。

災害発生時に一番ほしい情報については、「道路状況」(73.4%)が最も多く、次いで「断水、停電などの生活インフラ情報」(65.3%)、の順となっています。

図表 42 災害発生時に一番ほしい情報



図表 43 災害発生時に一番ほしい情報（クロス集計：地区での役割）



図表 44 災害発生時に一番ほしい情報（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問21 災害発生時に一番ほしい情報							無回答	
		避難先や避難方法	道路状況	町全体の被災状況	断水、停電などの生活インフラ情報	給水や支援物資などの緊急支援情報	生活再建の支援制度に関する情報	その他		
全体	357 100.0	86 24.1	262 73.4	118 33.1	233 65.3	120 33.6	41 11.5	5 1.4	15 4.2	
問1 性別	男性	258 100.0	62 24.0	200 77.5	90 34.9	165 64.0	84 32.6	34 13.2	2 0.8	8 3.1
	女性	93 100.0	24 25.8	61 65.6	27 29.0	65 69.9	34 36.6	7 7.5	2 2.2	5 5.4
	回答しない	4 100.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	5 35.7	10 71.4	2 14.3	8 57.1	8 57.1	1 7.1	1 7.1	0 0.0
	40代	26 100.0	5 19.2	19 73.1	10 38.5	19 73.1	10 38.5	4 15.4	0 0.0	0 0.0
	50代	33 100.0	8 24.2	29 87.9	14 42.4	23 69.7	9 27.3	5 15.2	0 0.0	0 0.0
	60代	94 100.0	15 16.0	77 81.9	25 26.6	70 74.5	33 35.1	15 16.0	2 2.1	1 1.1
	70代以上	188 100.0	53 28.2	126 67.0	66 35.1	112 59.6	60 31.9	16 8.5	2 1.1	13 6.9
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	17 24.6	40 58.0	18 26.1	39 56.5	26 37.7	9 13.0	2 2.9	7 10.1
	夫婦だけの世帯	101 100.0	24 23.8	75 74.3	37 36.6	63 62.4	32 31.7	11 10.9	1 1.0	4 4.0
	2世代世帯	131 100.0	34 26.0	108 82.4	48 36.6	97 74.0	47 35.9	14 10.7	1 0.8	1 0.8
	3世代世帯	36 100.0	5 13.9	26 72.2	13 36.1	23 63.9	10 27.8	4 11.1	1 2.8	1 2.8
	その他	19 100.0	5 26.3	12 63.2	2 10.5	11 57.9	5 26.3	3 15.8	0 0.0	2 10.5
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畷野小校区	23 100.0	3 13.0	18 78.3	6 26.1	17 73.9	9 39.1	2 8.7	0 0.0
旧中央北校区	81 100.0	30 37.0	54 66.7	30 37.0	44 54.3	39 48.1	9 11.1	3 3.7	3 3.7	
旧中央西校区	17 100.0	4 23.5	14 82.4	6 35.3	6 35.3	6 35.3	4 23.5	0 0.0	2 11.8	
旧中央東校区	17 100.0	5 29.4	14 82.4	7 41.2	13 76.5	4 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
旧中央南校区	16 100.0	7 43.8	14 87.5	6 37.5	10 62.5	2 12.5	2 12.5	0 0.0	1 6.3	
旧遠野小校区	20 100.0	4 20.0	16 80.0	6 30.0	15 75.0	9 45.0	1 5.0	0 0.0	1 5.0	
旧砥用小校区	120 100.0	26 21.7	86 71.7	36 30.0	89 74.2	29 24.2	16 13.3	2 1.7	4 3.3	
旧豊富小校区	17 100.0	1 5.9	15 88.2	5 29.4	15 88.2	8 47.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	
旧名越谷小校区	18 100.0	4 22.2	13 72.2	6 33.3	10 55.6	8 44.4	3 16.7	0 0.0	0 0.0	
問5 地区での役割	区長（嘱託員・嘱託補）	80 100.0	15 7.6	60 30.5	29 14.7	49 24.9	25 12.7	10 5.1	1 0.5	8 4.1
	民生委員児童委員	14 100.0	1 2.8	10 27.8	6 16.7	11 30.6	7 19.4	1 2.8	0 0.0	0 0.0
	その他の地区役職	49 100.0	13 10.5	33 26.6	19 15.3	31 25.0	20 16.1	6 4.8	1 0.8	1 0.8
	特になし	221 100.0	59 10.8	165 30.1	70 12.8	151 27.6	72 13.1	24 4.4	2 0.4	5 0.9

(6) 災害発生時・発生後特に困ったこと

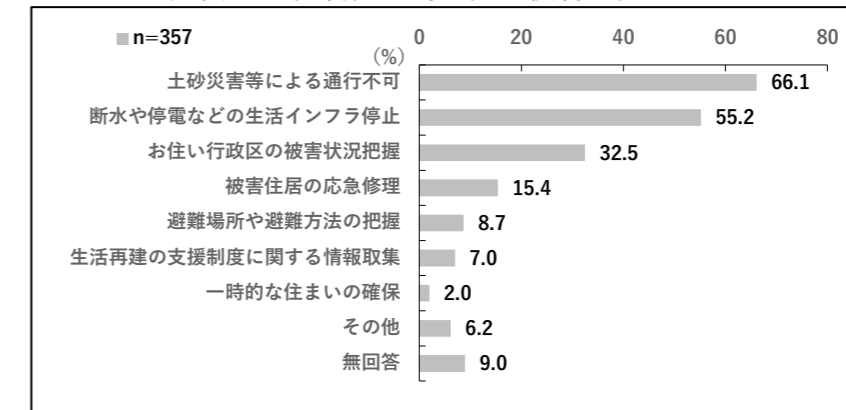
問22 豪雨災害の発生時、発生後に特に困ったことを教えてください。（3つまで○）

▼結果要点

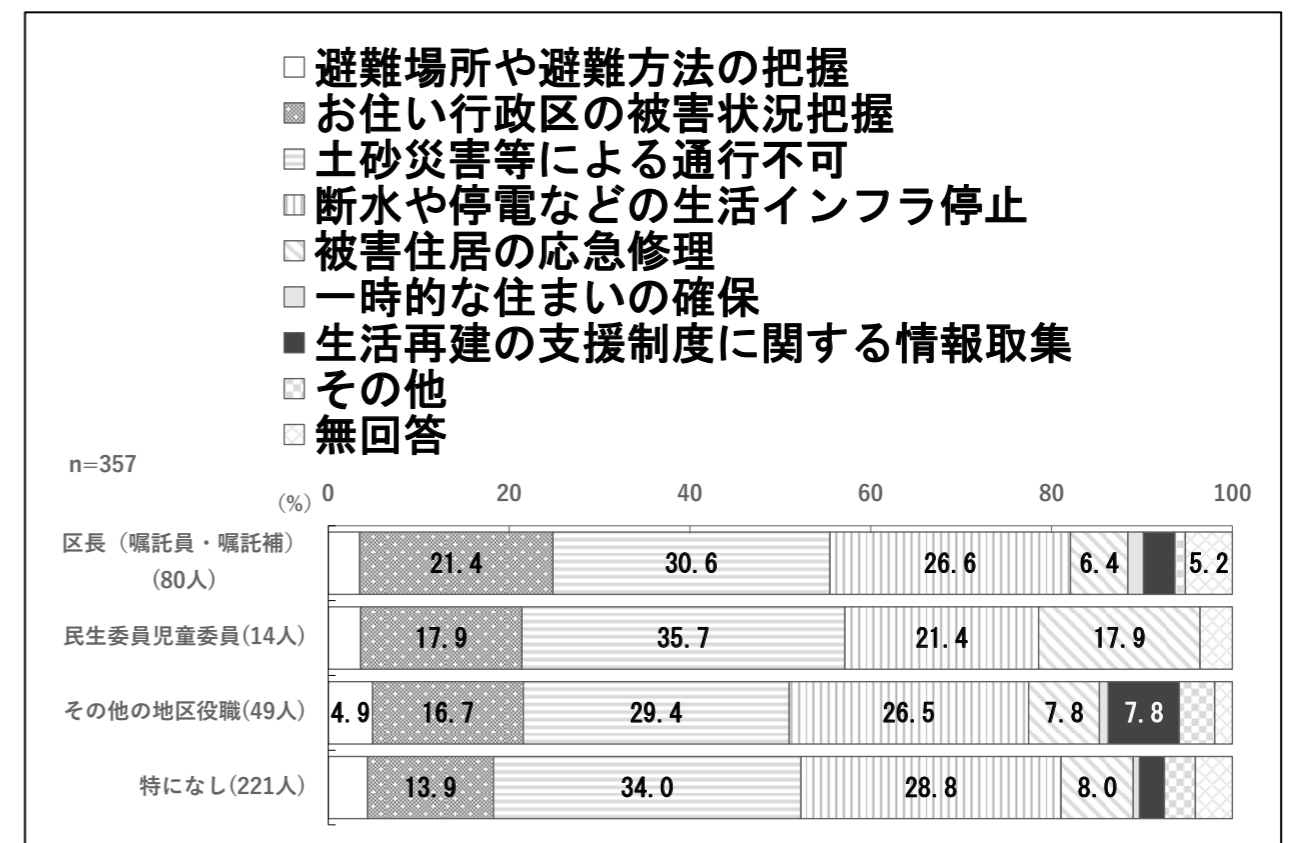
- 「土砂災害等による通行不可」が7割弱を占めている。

災害発生時・発生後特に困ったことについては、「土砂災害等による通行不可」（66.1%）が最も多く、次いで「断水や停電などの生活インフラ停止」（55.2%）、の順となっています。

図表 45 災害発生時・発生後特に困ったこと



図表 46 災害発生時・発生後特に困ったこと（クロス集計：地区での役割）



図表 47 災害発生時・発生後特に困ったこと（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問22 災害発生時・発生後特に困ったこと									
		避難場所 や避難方 法の把握	お住いの 行政の被 害状況把 握	土砂災害 等による 通行不可	断水や停 電などの 生活イン フラ停止	被害住居 の応急修 理	一時的な 住まいの 確保	生活再建 の支援制 度に関する 情報取 得	その他	無回答	
全体	357 100.0	31 8.7	116 32.5	236 66.1	197 55.2	55 15.4	7 2.0	25 7.0	22 6.2	32 9.0	
問1 性別	男性	258 100.0	23 8.9	91 35.3	184 71.3	145 56.2	35 13.6	2 0.8	20 7.8	15 5.8	20 7.8
	女性	93 100.0	7 7.5	24 25.8	51 54.8	51 54.8	19 20.4	5 5.4	4 4.3	6 6.5	10 10.8
	回答しない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	2 14.3	5 35.7	8 57.1	7 50.0	1 7.1	0 0.0	2 14.3	1 7.1	1 7.1
	40代	26 100.0	0 0.0	10 38.5	20 76.9	14 53.8	2 7.7	0 0.0	3 11.5	6 23.1	1 3.8
	50代	33 100.0	6 18.2	9 27.3	30 90.9	18 54.5	4 12.1	0 0.0	1 3.0	0 0.0	1 3.0
	60代	94 100.0	4 4.3	30 31.9	68 72.3	63 67.0	17 18.1	0 0.0	7 7.4	9 9.6	1 1.1
	70代以上	188 100.0	19 10.1	61 32.4	109 58.0	94 50.0	31 16.5	7 3.7	12 6.4	6 3.2	27 14.4
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	5 7.2	19 27.5	36 52.2	29 42.0	14 20.3	2 2.9	3 4.3	5 7.2	13 18.8
	夫婦だけの世帯	101 100.0	8 7.9	33 32.7	66 65.3	56 55.4	13 12.9	2 2.0	5 5.0	4 4.0	10 9.9
	2世代世帯	131 100.0	14 10.7	49 37.4	98 74.8	76 58.0	20 15.3	2 1.5	10 7.6	10 7.6	6 4.6
	3世代世帯	36 100.0	1 2.8	13 36.1	27 75.0	24 66.7	6 16.7	0 0.0	6 16.7	1 2.8	1 2.8
	その他	19 100.0	3 15.8	2 10.5	8 42.1	12 63.2	2 10.5	2 5.3	1 5.3	2 10.5	2 10.5
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畷野小校区	23 100.0	1 4.3	12 52.2	19 82.6	16 69.6	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0	1 4.3
	旧中央北校区	81 100.0	9 11.1	22 27.2	49 60.5	20 24.7	10 12.3	3 3.7	3 3.7	8 9.9	13 16.0
	旧中央西校区	17 100.0	2 11.8	9 52.9	12 70.6	4 23.5	4 23.5	0 0.0	1 5.9	3 17.6	2 11.8
	旧中央東校区	17 100.0	1 5.9	9 52.9	12 70.6	13 76.5	4 23.5	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0
	旧中央南校区	16 100.0	1 6.3	5 31.3	13 81.3	10 62.5	5 31.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0	1 6.3
	旧遠野小校区	20 100.0	2 10.0	9 45.0	14 70.0	13 65.0	2 10.0	0 0.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0
	旧砥用小校区	120 100.0	12 10.0	33 27.5	75 62.5	83 69.2	20 16.7	1 0.8	10 8.3	7 5.8	8 6.7
	旧豊富小校区	17 100.0	0 0.0	2 11.8	14 82.4	14 82.4	3 17.6	0 0.0	1 5.9	0 0.0	1 5.9
	旧名越谷小校区	18 100.0	2 11.1	6 33.3	13 72.2	8 44.4	5 27.8	1 5.6	4 22.2	0 0.0	1 5.6
	旧名越谷小校区	18 100.0	2 11.1	6 33.3	13 72.2	8 44.4	5 27.8	1 5.6	4 22.2	0 0.0	1 5.6
問5 地区での役割	区長（囑託員・囑託補）	80 100.0	6 3.5	37 21.4	53 30.6	46 26.6	11 6.4	3 1.7	6 3.5	2 1.2	9 5.2
	民生委員児童委員	14 100.0	1 3.6	5 17.9	10 35.7	6 21.4	5 17.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.6
	その他の地区役職	49 100.0	5 4.9	17 16.7	30 29.4	27 26.5	8 7.8	1 1.0	8 7.8	4 3.9	2 2.0
	特になし	221 100.0	19 4.3	61 13.9	149 34.0	126 28.8	35 8.0	3 0.7	12 2.7	15 3.4	18 4.1

(7) 豪雨災害の影響によりこれからの暮らしで不安なこと

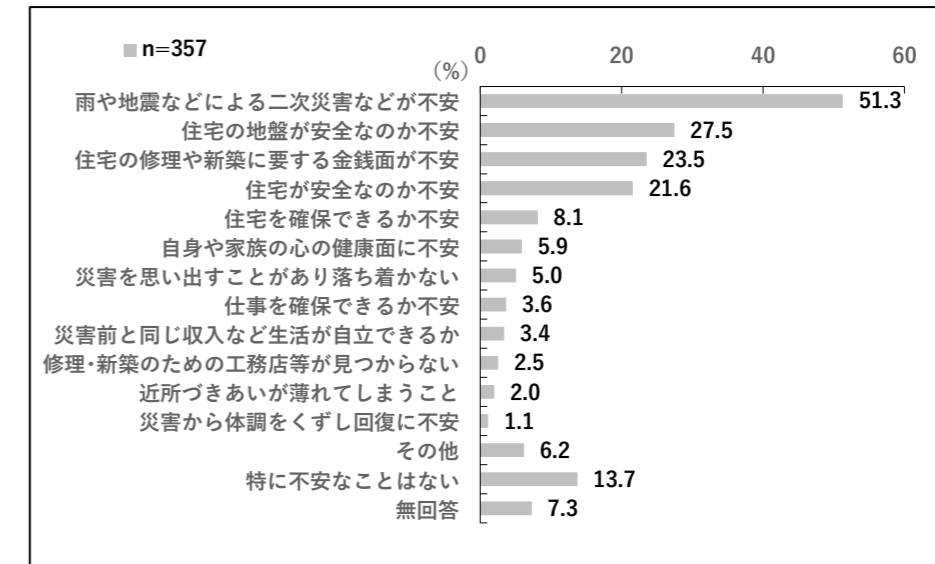
問23 豪雨災害の影響により、これからの暮らしにおいて不安に感じることはありますか。（3つまで○）

▼結果要点

- 「雨や地震などによる二次災害などが不安」が5割強を占めている。

豪雨災害の影響によりこれからの暮らしで不安なことについては、「雨や地震などによる二次災害などが不安」（51.3%）が最も多く、次いで「住宅の地盤が安全なのか不安」（27.5%）、の順となっています。

図表 48 豪雨災害の影響によりこれからの暮らしで不安なこと



図表 49 豪雨災害の影響によりこれからの暮らしで不安なこと（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

	合計	問23 豪雨災害の影響によりこれからの暮らしで不安なこと								
		住宅を確保できるか不安	住宅の修理や新築に要する金銭面が不安	修理・新築のための工務店等が見つからない	住宅が安全なのか不安	住宅の地盤が安全なのか不安	仕事を確保できるか不安	災害前と同じ収入など生活が自立できるか	近所づきあいが薄れてしまうこと	
全体	357 100.0	29 8.1	84 23.5	9 2.5	77 21.6	98 27.5	13 3.6	12 3.4	7 2.0	
問1 性別	男性	258 100.0	21 8.1	62 24.0	8 3.1	51 19.8	70 27.1	12 4.7	8 3.1	3 1.2
	女性	93 100.0	8 8.6	22 23.7	1 1.1	26 28.0	27 29.0	1 1.1	4 4.3	3 3.2
	回答しない	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
問2 年齢（10-30代統合）	10-30代	14 100.0	0 0.0	5 35.7	0 0.0	4 28.6	4 28.6	1 7.1	1 7.1	1 7.1
	40代	26 100.0	0 0.0	5 19.2	0 0.0	7 26.9	5 19.2	1 3.8	1 3.8	1 3.8
	50代	33 100.0	4 12.1	13 39.4	1 3.0	4 12.1	11 33.3	2 6.1	2 6.1	1 3.0
	60代	94 100.0	4 4.3	21 22.3	2 2.1	19 20.2	22 23.4	3 3.2	2 2.1	0 0.0
	70代以上	188 100.0	21 11.2	40 21.3	6 3.2	43 22.9	56 29.8	6 3.2	6 3.2	4 2.1
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	8 11.6	12 17.4	2 2.9	18 26.1	16 23.2	0 0.0	0 0.0	3 4.3
	夫婦だけの世帯	101 100.0	7 6.9	18 17.8	1 1.0	19 18.8	28 27.7	3 3.0	1 1.0	0 0.0
	2世代世帯	131 100.0	11 8.4	37 28.2	4 3.1	30 22.9	38 29.0	8 6.1	8 6.1	2 1.5
	3世代世帯	36 100.0	1 2.8	9 25.0	1 2.8	6 16.7	12 33.3	0 0.0	3 8.3	2 5.6
	その他	19 100.0	2 10.5	7 36.8	1 5.3	3 15.8	4 21.1	2 10.5	0 0.0	0 0.0
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	23 100.0	1 4.3	6 26.1	0 0.0	7 30.4	6 26.1	2 8.7	0 0.0
旧中央北校区		81 100.0	10 12.3	24 29.6	5 6.2	22 27.2	16 19.8	3 3.7	6 7.4	2 2.5
旧中央西校区		17 100.0	1 5.9	5 29.4	0 0.0	5 29.4	7 41.2	1 5.9	1 5.9	0 0.0
旧中央東校区		17 100.0	1 5.9	4 23.5	0 0.0	4 23.5	5 29.4	1 5.9	0 0.0	1 5.9
旧中央南校区		16 100.0	2 12.5	3 18.8	1 6.3	8 50.0	9 56.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
旧遠野小校区		20 100.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0	4 20.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0
旧砥用小校区		120 100.0	8 6.7	28 23.3	1 0.8	19 15.8	34 28.3	4 3.3	3 2.5	3 2.5
旧豊富小校区		17 100.0	1 5.9	1 5.9	0 0.0	1 5.9	6 35.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
旧名越谷小校区		18 100.0	2 11.1	5 27.8	0 0.0	6 33.3	6 33.3	0 0.0	0 0.0	1 5.6

	合計	問23 豪雨災害の影響によりこれからの暮らしで不安なこと						特に不安なことはない	無回答
		災害を思い出すことがあり落ち着かない	災害から体調をくずし回復に不安	自身や家族の心の健康面に不安	雨や地震などによる二次災害などが不安	その他			
全体	357 100.0	18 5.0	4 1.1	21 5.9	183 51.3	22 6.2	49 13.7	26 7.3	
問1 性別	男性	258 100.0	8 3.1	3 1.2	17 6.6	18 7.0	36 14.0	16 6.2	
	女性	93 100.0	10 10.8	1 1.1	4 4.3	4 4.3	11 11.8	8 8.6	
	回答しない	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	
問2 年齢（10-30代統合）	10-30代	14 100.0	1 7.1	0 0.0	1 7.1	5 35.7	0 7.1	0 0.0	
	40代	26 100.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0	16 61.5	2 7.7	6 23.1	
	50代	33 100.0	1 3.0	2 6.1	1 3.0	13 39.4	0 0.0	8 24.2	
	60代	94 100.0	4 4.3	0 0.0	5 5.3	52 55.3	8 8.5	14 14.9	
	70代以上	188 100.0	11 5.9	2 1.1	14 7.4	97 51.6	12 6.4	19 10.1	
	その他	23 100.0	3 15.8	2 10.5	0 0.0	5 26.3	1 5.3	3 15.8	
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	5 7.2	1 1.4	5 7.2	37 53.6	7 10.1	9 13.0	
	夫婦だけの世帯	101 100.0	5 5.0	1 1.0	9 8.9	53 52.5	4 4.0	14 13.9	
	2世代世帯	131 100.0	3 2.3	0 0.0	6 4.6	62 47.3	7 5.3	19 14.5	
	3世代世帯	36 100.0	2 5.6	0 0.0	1 2.8	25 69.4	3 8.3	4 11.1	
	その他	19 100.0	3 15.8	2 10.5	0 0.0	5 26.3	1 5.3	3 15.8	
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	23 100.0	1 4.3	0 0.0	1 4.3	13 56.5	3 13.0	2 4.3
		旧中央北校区	81 100.0	2 2.5	1 1.2	7 8.6	35 43.2	1 1.2	10 12.3
旧中央西校区		17 100.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	9 52.9	0 0.0	1 5.9	
旧中央東校区		17 100.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	7 41.2	1 5.9	5 29.4	
旧中央南校区		16 100.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	13 81.3	0 0.0	0 6.3	
旧遠野小校区		20 100.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	10 50.0	3 15.0	3 15.0	
旧砥用小校区		120 100.0	7 5.8	3 2.5	7 5.8	60 50.0	12 10.0	19 15.8	
旧豊富小校区		17 100.0	2 11.8	0 0.0	0 0.0	14 82.4	1 5.9	1 5.9	
旧名越谷小校区		18 100.0	4 22.2	0 0.0	2 11.1	10 55.6	0 0.0	2 11.1	

4 復旧・復興に向けての施策について

(1) 特に重点的目標として取組むべきこと

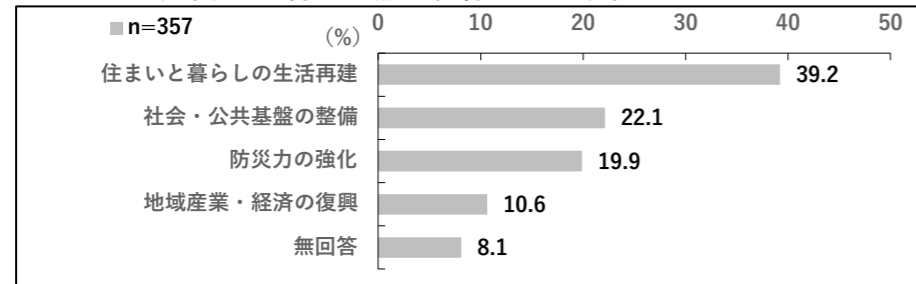
問24 復旧・復興に向けての施策を検討する中で、特に重点的目標として取組むべきと思われるものを教えてください。(1つに○)

▼結果要点

- 「住まいと暮らしの生活再建」が4割弱を占めている。

特に重点的目標として取組むべきことについては、「住まいと暮らしの生活再建」(39.2%)が最も多く、次いで「社会・公共基盤の整備」(22.1%)、の順となっています。

図表50 特に重点的目標として取組むべきこと



図表51 特に重点的目標として取組むべきこと(クロス集計表、一位の数値に網掛け)

	合計	問24 特に重点的目標として取組むべきこと					無回答
		住まいと暮らしの生活再建	社会・公共基盤の整備	地域産業・経済の復興	防災力の強化		
全体	357 100.0	140 39.2	79 22.1	38 10.6	71 19.9	29 8.1	
問1 性別	男性	258 100.0	96 37.2	62 24.0	32 12.4	52 20.2	16 6.2
	女性	93 100.0	43 46.2	16 17.2	5 5.4	18 19.4	11 11.8
	回答しない	4 100.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	6 42.9	2 14.3	5 35.7	1 7.1	0 0.0
	40代	26 100.0	13 50.0	3 11.5	5 19.2	4 15.4	1 3.8
	50代	33 100.0	14 42.4	10 30.3	2 6.1	7 21.2	0 0.0
	60代	94 100.0	37 39.4	20 21.3	12 12.8	17 18.1	8 8.5
	70代以上	188 100.0	70 37.2	44 23.4	14 7.4	41 21.8	19 10.1
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	28 40.6	13 18.8	7 10.1	9 13.0	12 17.4
	夫婦だけの世帯	101 100.0	32 31.7	25 24.8	8 7.9	28 27.7	8 7.9
	2世代世帯	131 100.0	59 45.0	28 21.4	18 13.7	19 14.5	7 5.3
	3世代世帯	36 100.0	11 30.6	11 30.6	3 8.3	10 27.8	1 2.8
	その他	19 100.0	9 47.4	2 10.5	2 10.5	5 26.3	1 5.3
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畝野小校区	23 100.0	5 21.7	8 34.8	4 17.4	4 17.4
旧中央北校区		81 100.0	39 48.1	12 14.8	9 11.1	18 22.2	3 3.7
旧中央西校区		17 100.0	7 41.2	2 11.8	3 17.6	1 5.9	4 23.5
旧中央東校区		17 100.0	4 23.5	5 29.4	2 11.8	5 29.4	1 5.9
旧中央南校区		16 100.0	4 25.0	3 18.8	4 25.0	3 18.8	2 12.5
旧遠野小校区		20 100.0	9 45.0	3 15.0	3 15.0	3 15.0	2 10.0
旧砥用小校区		120 100.0	48 40.0	35 29.2	9 7.5	19 15.8	9 7.5
旧豊富小校区		17 100.0	3 17.6	3 17.6	2 11.8	7 41.2	2 11.8
旧名越谷小校区		18 100.0	10 55.6	3 16.7	1 5.6	3 16.7	1 5.6

(2) 町に期待していること

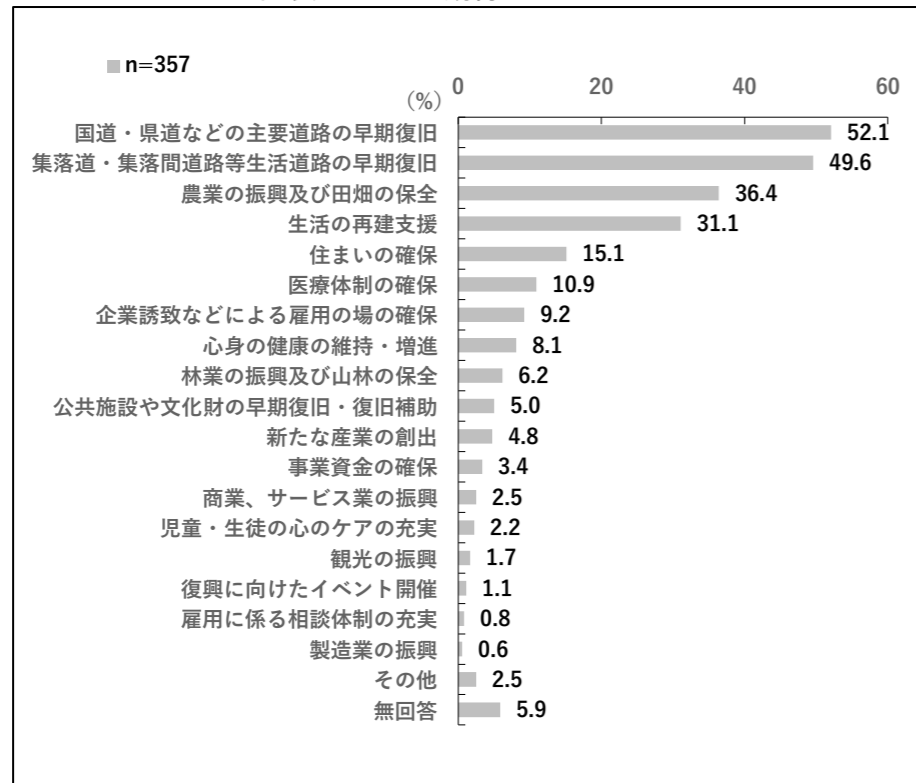
問25 各分野の施策を検討する中で、あなたが町に期待していることを教えてください。(3つまで)

▼結果要点

- 「国道・県道などの主要道路の早期復旧」が5割強を占めている。

町に期待していることについては、「国道・県道などの主要道路の早期復旧」(52.1%)が最も多く、次いで「集落道・集落間道路等生活道路の早期復旧」(49.6%)、の順となっています。

図表 52 町に期待していること



図表 53 町に期待していること (クロス集計表、一位の数値に網掛け)

	合計	問25 町に期待していること									
		生活の再建支援	住まいの確保	心身の健康の維持・増進	児童・生徒の心のケアの充実	医療体制の確保	雇用に係る相談体制の充実	国道・県道などの主要道路の早期復旧	集落道・集落間道路等生活道路の早期復旧	公共施設や文化財の早期復旧・復旧補助	農業の振興及び田畑の保全
全体	357	111	54	29	8	39	3	186	177	18	130
問1 性別	100.0	31.1	15.1	8.1	2.2	10.9	0.8	52.1	49.6	5.0	36.4
男性	258	80	32	16	6	28	3	141	139	14	108
女性	93	30	21	13	1	10	0	44	37	4	19
回答しない	4	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2
問2 年齢 (10-30代統合)	100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0
10-30代	14	5	4	2	3	1	0	5	4	0	3
40代	26	11	5	0	1	1	0	17	16	0	5
50代	33	15	8	2	0	5	2	19	14	3	10
60代	94	30	9	8	1	9	1	53	51	4	41
70代以上	188	50	28	17	3	23	0	91	92	10	71
問3 世帯構成	100.0	26.6	14.9	9.0	1.6	12.2	0.0	48.4	48.9	5.3	37.8
単身世帯	69	18	12	6	1	13	1	38	26	2	16
夫婦だけの世帯	101	23	11	11	2	8	0	49	57	6	41
2世代世帯	131	52	28	8	2	12	2	65	71	9	48
3世代世帯	36	10	0	1	3	2	0	20	16	1	24
その他	19	7	3	3	0	4	0	13	6	0	1
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	100.0	36.8	15.8	15.8	0.0	21.1	0.0	68.4	31.6	0.0	5.3
旧畝野小学校区	23	5	1	1	1	3	0	17	12	1	13
旧中央北校区	81	36	21	10	3	9	0	34	33	4	26
旧中央西校区	17	4	2	0	0	2	0	10	10	0	9
旧中央東校区	17	6	4	3	1	2	0	9	8	1	6
旧中央南校区	16	3	4	0	1	2	0	11	7	0	3
旧遠野小学校区	20	6	0	0	1	2	0	10	12	0	10
旧砥用小学校区	120	33	17	11	1	13	3	63	61	7	37
旧豊富小学校区	17	1	1	0	0	1	0	10	13	3	7
旧名越谷小学校区	18	8	2	3	0	3	0	6	11	1	10

	合計	問25 町に期待していること										
		林業の振興及び山林の保全	観光の振興	製造業の振興	商業、サービスの振興	復興に向けたイベント開催	新たな産業の創出	事業資金の確保	企業誘致などによる雇用の場の確保	その他	無回答	
全体	357 100.0	22 6.2	6 1.7	2 0.6	9 2.5	4 1.1	17 4.8	12 3.4	33 9.2	9 2.5	21 5.9	
問1 性別	男性	258 100.0	17 6.6	4 1.6	0 0.0	9 3.5	2 0.8	10 3.9	11 4.3	26 10.1	7 2.7	11 4.3
	女性	93 100.0	4 4.3	2 2.2	1 1.1	0 0.0	2 2.2	7 7.5	1 1.1	7 7.5	1 1.1	8 8.6
	回答しない	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14 100.0	1 7.1	0 0.0	1 7.1	2 14.3	1 7.1	1 7.1	2 14.3	0 0.0	1 7.1	0 0.0
	40代	26 100.0	2 7.7	2 7.7	0 0.0	1 3.8	0 0.0	2 7.7	3 11.5	2 7.7	2 7.7	0 0.0
	50代	33 100.0	1 3.0	0 0.0	0 0.0	1 3.0	2 6.1	0 0.0	2 6.1	1 3.0	0 0.0	0 0.0
	60代	94 100.0	4 4.3	1 1.1	0 0.0	2 2.1	0 0.0	7 7.4	0 0.0	10 10.6	3 3.2	2 2.1
	70代以上	188 100.0	14 7.4	3 1.6	1 0.5	3 1.6	1 0.5	7 3.7	5 2.7	19 10.1	3 1.6	18 9.6
問3 世帯構成	単身世帯	69 100.0	5 7.2	3 4.3	1 1.4	1 1.4	0 0.0	6 8.7	1 1.4	4 5.8	3 4.3	7 10.1
	夫婦だけの世帯	101 100.0	7 6.9	1 1.0	0 0.0	2 2.0	2 2.0	5 5.0	2 2.0	15 14.9	2 2.0	6 5.9
	2世代世帯	131 100.0	7 5.3	2 1.5	0 0.0	5 3.8	2 1.5	6 4.6	3 2.3	8 6.1	4 3.1	5 3.8
	3世代世帯	36 100.0	3 8.3	0 0.0	1 2.8	1 2.8	0 0.0	0 0.0	4 11.1	5 13.9	0 0.0	2 5.6
	その他	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.5	1 5.3	0 0.0	1 5.3
	問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畷野小校区	23 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 8.7	3 13.0	1 4.3	0 0.0
旧中央北校区	81 100.0	5 6.2	2 2.5	1 1.2	2 2.5	1 1.2	7 8.6	4 4.9	8 9.9	0 0.0	4 4.9	
旧中央西校区	17 100.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	1 5.9	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	
旧中央東校区	17 100.0	2 11.8	1 5.9	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	3 17.6	0 0.0	0 0.0	
旧中央南校区	16 100.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	2 12.5	0 0.0	1 6.3	
旧遠野小校区	20 100.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	
旧砥用小校区	120 100.0	11 9.2	1 0.8	1 0.8	3 2.5	2 1.7	6 5.0	5 4.2	11 9.2	4 3.3	8 6.7	
旧豊富小校区	17 100.0	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 5.9	1 5.9	
旧名越谷小校区	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	1 5.6	0 0.0	1 5.6	1 5.6	0 0.0	

(3) 災害に強いまちづくりのため町に期待していること

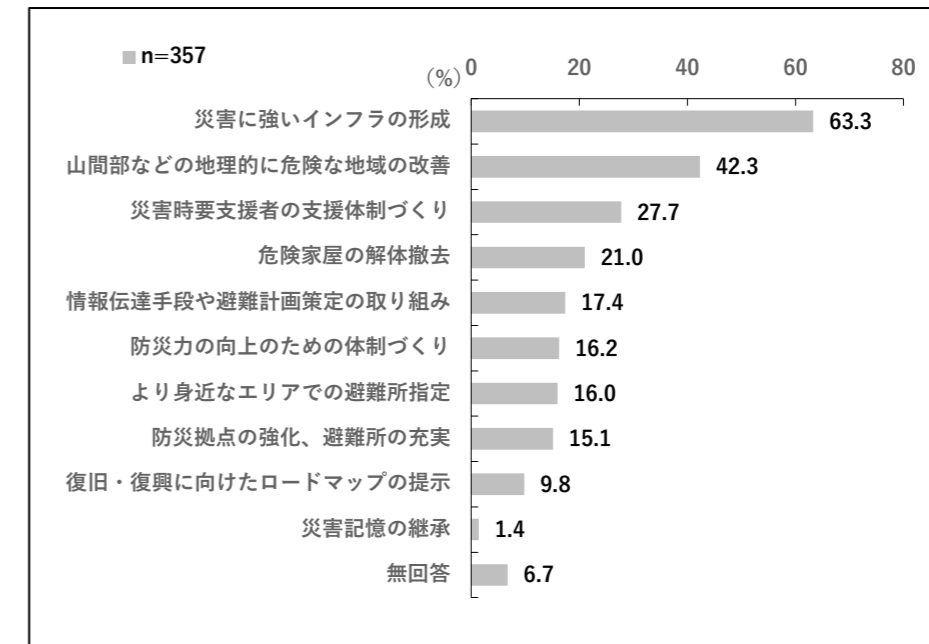
問26 災害に強いまちづくりのために、あなたが町に期待していることを教えてください。(3つまで)

▼結果要点

- 「災害に強いインフラの形成」が6割強を占めている。

災害に強いまちづくりのため町に期待していることについては、「災害に強いインフラの形成」(63.3%)が最も多く、次いで「山間部などの地理的に危険な地域の改善」(42.3%)の順となっています。

図表54 災害に強いまちづくりのため町に期待していること



図表 55 災害に強いまちづくりのため町に期待していること（クロス集計表、一位の数値に網掛け）

		合計	問26 災害に強いまちづくりのため町に期待していること	復旧・復興に向けたロードマップの提示	防災力の向上のための体制づくり	情報伝達手段や避難計画策定の取り組み	災害記憶の継承	防災拠点の強化、避難所の充実	より身近なエリアでの避難所指定	危険家屋の解体撤去	山間部などの地理的に危険な地域の改善	災害時要支援者の体制づくり	無回答
全体		357	226	35	58	62	5	54	57	75	151	99	24
		100.0	63.3	9.8	16.2	17.4	1.4	15.1	16.0	21.0	42.3	27.7	6.7
問1 性別	男性	258	175	27	46	44	4	39	37	56	117	73	11
		100.0	67.8	10.5	17.8	17.1	1.6	15.1	14.3	21.7	45.3	28.3	4.3
	女性	93	49	8	12	18	1	13	19	19	33	26	11
		100.0	52.7	8.6	12.9	19.4	1.1	14.0	20.4	20.4	35.5	28.0	11.8
回答しない		4	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1
		100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
問2 年齢 (10-30代統合)	10-30代	14	9	3	5	0	0	2	1	4	6	2	0
		100.0	64.3	21.4	35.7	0.0	0.0	14.3	7.1	28.6	42.9	14.3	0.0
	40代	26	19	2	3	2	0	3	3	9	11	6	0
		100.0	73.1	7.7	11.5	7.7	0.0	11.5	11.5	34.6	42.3	23.1	0.0
	50代	33	26	4	4	5	0	5	2	5	17	7	0
		100.0	78.8	12.1	12.1	15.2	0.0	15.2	6.1	15.2	51.5	21.2	0.0
60代	94	61	10	17	22	4	17	12	15	43	29	5	
	100.0	64.9	10.6	18.1	23.4	4.3	18.1	12.8	16.0	45.7	30.9	5.3	
70代以上	188	110	16	29	32	1	27	39	42	73	55	18	
	100.0	58.5	8.5	15.4	17.0	0.5	14.4	20.7	22.3	38.8	29.3	9.6	
問3 世帯構成	単身世帯	69	43	6	9	11	2	12	15	4	21	20	10
		100.0	62.3	8.7	13.0	15.9	2.9	17.4	21.7	5.8	30.4	29.0	14.5
	夫婦だけの世帯	101	64	9	14	18	1	18	15	29	40	33	5
		100.0	63.4	8.9	13.9	17.8	1.0	17.8	14.9	28.7	39.6	32.7	5.0
	2 世代世帯	131	89	15	20	23	2	20	15	27	64	34	6
		100.0	67.9	11.5	15.3	17.6	1.5	15.3	11.5	20.6	48.9	26.0	4.6
3 世代世帯	36	25	3	11	7	0	3	9	8	19	7	1	
	100.0	69.4	8.3	30.6	19.4	0.0	8.3	25.0	22.2	52.8	19.4	2.8	
その他	19	5	2	4	2	0	1	3	6	7	4	2	
	100.0	26.3	10.5	21.1	10.5	0.0	5.3	15.8	31.6	36.8	21.1	10.5	
問4 豪雨災害発生当時の居住地区	旧畷野小校区	23	16	1	4	4	0	0	2	3	11	10	0
		100.0	69.6	4.3	17.4	17.4	0.0	0.0	8.7	13.0	47.8	43.5	0.0
	旧中央北校区	81	55	13	20	18	0	15	11	22	25	24	4
		100.0	67.9	16.0	24.7	22.2	0.0	18.5	13.6	27.2	30.9	29.6	4.9
	旧中央西校区	17	9	2	1	6	1	3	5	4	5	3	2
		100.0	52.9	11.8	5.9	35.3	5.9	17.6	29.4	23.5	29.4	17.6	11.8
	旧中央東校区	17	11	3	4	3	0	3	1	4	9	9	0
		100.0	64.7	17.6	23.5	17.6	0.0	17.6	5.9	23.5	52.9	52.9	0.0
	旧中央南校区	16	10	0	3	3	0	3	5	1	8	3	2
		100.0	62.5	0.0	18.8	18.8	0.0	18.8	31.3	6.3	50.0	18.8	12.5
	旧遠野小校区	20	12	1	5	3	0	4	4	3	11	10	0
	100.0	60.0	5.0	25.0	15.0	0.0	20.0	20.0	15.0	55.0	50.0	0.0	
旧砥用小校区	120	73	10	16	16	4	15	16	23	56	28	9	
	100.0	60.8	8.3	13.3	13.3	3.3	12.5	13.3	19.2	46.7	23.3	7.5	
旧豊富小校区	17	13	2	1	2	0	3	6	4	9	2	1	
	100.0	76.5	11.8	5.9	11.8	0.0	17.6	35.3	23.5	52.9	11.8	5.9	
旧名越谷小校区	18	13	1	2	4	0	2	3	5	8	4	0	
	100.0	72.2	5.6	11.1	22.2	0.0	11.1	16.7	27.8	44.4	22.2	0.0	

2. 被災状況写真



岩野石原山腹崩壊



坂貫大平山腹崩壊



林道中央砥用線被害状況



国道 218 号線被害状況



国道 218 号線被害状況



国道 218 号線被害状況



国道 445 号線被害状況



国道 445 号線被害状況



町道貫平五ヶ瀬線被害状況



町道小筵・長尾野線被害状況



国道 445 号線被害状況



県道清和砥用線被害状況



町道石原線被害状況



町道内山安部線被害状況



県道清和砥用線被害状況



県道困砥用線被害状況



町道馬場神園線被害状況



町道土喰一の谷線被害状況



町道土喰一の谷線被害状況



町道土喰一の谷線被害状況



町道目磨坂貫線被害状況



西分館南側法面被害状況



町道金木小崎線被害状況



宅地内被害状況（安部地区）



老人福祉センター被害状況



励徳小学校登校坂被害状況



宅地内土砂堆積被害状況



町道目磨永富線被害状況



文化交流センターひびき被害状況



二俣橋被害状況

3. 美里町振興計画及びまちづくり審議会委員名簿

(任期：令和5年12月25日～令和7年12月24日)

(任期：令和7年12月25日～令和9年12月24日)

氏名	区分	所属団体等（役職等）	備考
濱田 憲治	議会	美里町議会総務文教常任委員会（委員長）	会長
丸山 秀夫	住民代表	美里町囀託会（会長）	副会長
福田 健世	住民代表	美里町消防団（団長）	
上村 誠一郎	住民代表	美里町PTA連合会（会長）	
亀本 多希	住民代表	美里町PTA連合会（女性代表）	
本山 公政	産業界（商工業）	美里町商工会（会長）	
高橋 伸幸	産業界（農業）	JA熊本うき下東支所（所長）	
西田 浩利	産業界（林業）	緑川森林組合宇城事業所（所長）	
高林 秀明	教育機関	熊本学園大学（社会福祉学部教授）	
内村 千鶴	金融機関	肥後銀行砥用支店（支店長）	
濱田 孝正	産業界 （交流・関係人口）	美里まちづくり公社（GM）	
富田 康仁	福祉機関	美里町社会福祉協議会（事務局長）	
大木 真美	住民代表	美里町民生委員・児童委員協議会（会長）	
日方 和義	住民代表	美里町老人クラブ連合会（会長）	
佐々木 聡	保育機関	青空保育園（園長）	

※「美里町復旧・復興計画」は、美里町振興計画を補完する計画として定め、基本計画の一部として総合的に推進することから、本計画の策定にあたっては、美里町振興計画及びまちづくり審議会に諮問し、3回に渡る審議を経て答申を受けました。

4. 復旧・復興計画策定経過

開催年月日	区分	主な内容
令和7年9月17日	庁内推進委員会	○復旧・復興計画の策定方針及び策定スケジュール等 ○住民アンケート調査の内容協議
令和7年9月29日	第1回振興計画及びまちづくり審議会	美里町復旧・復興計画の策定に関し諮問 ○復旧・復興計画の策定方針及び策定スケジュール等について ○復旧・復興計画の策定に伴う住民アンケート調査の内容について
令和7年10月17日	復旧・復興に関する住民アンケート調査	令和7年10月1日時点で、町内在住の豪雨災害による罹災証明書において、一部損壊以上の世帯及び囀託員（補）の世帯及び無作為抽出した世帯を対象に実施
令和7年11月13日	復旧・復興に関する施策及び事業の調査	各課に対し、復旧・復興に向けての課題、復旧・復興に関する施策及び事業の調査を実施
令和7年12月25日	庁内推進委員会	○住民アンケート調査結果報告について ○復旧・復興計画骨子（案）の協議
令和8年1月15日	第2回振興計画及びまちづくり審議会	○住民アンケート調査結果報告について ○復旧・復興計画骨子（案）の審議
令和8年2月4日	復旧・復興計画（素案）の最終確認	各課に対し、復旧・復興計画に向けた課題、復旧・復興に関する施策及び事業を調査した結果を素案として整理した計画書の最終確認を実施
令和8年2月18日～3月4日	美里町復旧・復興計画（素案）に係るパブリックコメント実施	美里町復旧・復興計画（素案）について、広く住民のご意見・ご提案を反映させるため、パブリックコメント（住民意見公募）を実施
令和8年3月10日	庁内推進委員会	美里町復旧・復興計画（案）の内容審議及び調整
令和8年3月12日	第3回振興計画及びまちづくり審議会	○美里町復旧・復興計画（案）について ○美里町復旧・復興計画（案）に係る答申について
令和8年3月17日		美里町復旧・復興計画（案）に係る答申

※庁内推進委員会構成員：副町長、教育長、各課長

5. 諮問

美里創第 361 号
令和 7 年 9 月 29 日

美里町振興計画及びまちづくり審議会会長 様

美里町長 上 田 泰 弘

美里町復旧・復興計画について（諮問）

美里町復旧・復興計画を策定したいので、貴審議会に下記事項に関する意見を賜りたく諮問します。

1 諮問内容

美里町復旧・復興計画（計画期間：令和 7 年度から令和 13 年度）の策定に関すること

6. 答申

令和 8 年 3 月 17 日

美里町長 上 田 泰 弘 様

美里町振興計画及びまちづくり審議会
会長 濱 田 憲 治

美里町復旧・復興計画について（答申）

令和 7 年 9 月 29 日付け美里創第 361 号で諮問のありました美里町復旧・復興計画の策定について、慎重に審議を重ねた結果、提出のあった美里町復旧・復興計画（案）の内容を妥当なものとして認め答申します。

なお、この答申に基づき、速やかに美里町復旧・復興計画を定め、計画の推進にあたっては、下記に掲げる事項に留意して実現に努められるよう要望します。

記

- 1 事業の実施にあたっては、復旧・復興計画実施計画における確実な進捗管理を行うことにより、高い実効性を確保すること。
- 2 常に施策の優先度を明らかにしながら、財政面にも考慮し、重点的かつ効果的な事業実施に努めること。



美里町振興計画及びまちづくり審議会の濱田会長から答申を受ける上田町長

美里町復旧・復興計画

発行年月：令和8年3月

発行：熊本県美里町（美しい里創生課）

〒861-4732 熊本県下益城郡美里町三和 420 番地

TEL：0964-47-1111 FAX：0964-47-0110



美里町復旧・復興計画

熊本県美里町